

簿記論 I

浦山章二

【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用してはいる。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を理解するためには会計に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1 から 3	簿記の基礎
4 から 5	商品売買
6 から 8	現金および預金
9 から 10	手形取引
11 から 14	その他の期中取引
15 から 16	試算表の作成
17 から 22	決算手続き
24 から 30	総合問題

【評価方法】

出席状況、期末試験、期中の小テストなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

合格テキスト 日商簿記 3 級 (TAC 出版)
合格テキスト 日商簿記 2 級 (TAC 出版)

簿記論 II

浦山章二

【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における管利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用してはいる。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を理解するためには会計に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1 から 3	商品売買
4 から 6	為替手形、銀行勘定調整表、有価証券
7 から 8	固定資産
9 から 10	手形取引
11 から 12	引当金
13 から 14	株式の発行、合併と買収
15 から 16	無形固定資産と繰延資産、社債
17 から 19	株式会社の税金、利益処分、損失処理と減資
20 から 22	精算表と財務諸表
23 から 24	本支店会計
25 から 27	帳簿組織
28 から 30	総合問題

【評価方法】

出席状況、期末試験、小テストなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

合格テキスト 日商簿記 2 級 商業簿記 (TAC 出版)

工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

製造業における製造過程を貨幣額によって記録・計算・整理する簿記が工業簿記であり、その中心は原価の算定にある。工業簿記の基本的な仕組みを理解し、記帳技術を習得する。

【授業の目標】

この授業の目標は、(1) 日商簿記検定 2 級 (工業簿記) の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、(2) 関連科目である原価計算や管理会計の履修のための基礎を固めることにある。

【授業計画】

1. 工業簿記とは
2. 工業簿記と原価計算
3. 工業簿記の構造
4. 材料費の計算
5. 労務費の計算
6. 経費の計算
7. 製造間接費の計算と処理 (1)
8. 製造間接費の計算と処理 (2)
9. 部門費の計算 (1)
10. 部門費の計算 (2)
11. 個別原価計算 (1)
12. 個別原価計算 (2)
13. 個別原価計算 (3)
14. まとめ
15. 期末試験

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

別途指定する。テキストにしたがって講義をすすめるので、必ず購入すること。

財務会計 I

石川雅之

【授業の概要】

取引の記録から財務諸表の作成に至る一連の手続についての理解を深め、現代の企業会計の基本的な考え方を学習する。そして、現代の会計制度がどのような考え方に基づいて形成されているのか、また現実の経済社会においてどのような役割を果たしているのかを学習する。

【授業の目標】

現代財務会計制度の仕組みについての基礎的な知識を身に付けるとともに、制度の背後にある基本的な考え方を理解すること。

【授業計画】

- 1) 財務会計の意義と役割
- 2) 企業会計の技術的構造
- 3) 企業会計の理論的構造
- 4) 企業会計制度
- 5) 会計基準
- 6) 財務諸表の様式
- 7) 資産の概念
- 8) 資産の評価
- 9) 流動資産
- 10) 有形固定資産
- 11) 無形固定資産
- 12) 繰延資産
- 13) 資産会計のまとめ

【評価方法】

筆記試験による

【テキスト】

加古宜士 財務会計概論 第 6 版 中央経済社

【参考文献・資料】

機会があれば会計法規集 (特に「企業会計原則」) に目を通して下さい。

財務会計 II

石川雅之

【授業の概要】

企業が財務諸表を作成するうえで従わなくてはならない会計処理上の諸規則について、まずその基本的な考え方を学習するとともに、なぜそうした規則が必要であるのか、どのような課題もしくは問題点があるのかを理解する。次に財務諸表の作成・表示に係る諸規則を学習し、現代会計制度についての理解を深める。

【授業の目標】

現代財務会計制度の基礎的な知識を身に付けるとともに、制度を支えるさまざまな会計ルールの基本的な考え方を理解すること。

【授業計画】

- 1) 負債の概念
- 2) 流動負債と固定負債
- 3) 資本の概念
- 4) 株式と資本
- 5) 資本と評価替え
- 6) 損益会計
- 7) 経常損益
- 8) 特別損益
- 9) キャッシュフロー計算書
- 10) 財務諸表の注記
- 11) 連結財務諸表I
- 12) 連結財務諸表II
- 13) まとめ

【評価方法】

筆記試験による。

【テキスト】

加古宜士 財務会計概論 第6版 中央経済社

【参考文献・資料】

会計法規集

原価計算

三浦克人

【授業の概要】

製造業において製造された製品が1個いくらであるかを知ることがそれほど容易ではない。製品の製造過程において生じた原価を集計する手続きが原価計算であるが、原価の発生をどのように認識・記録するか、そしてそれをどのように集計するのかについて考察する。

【授業の目標】

この授業の目標は、(1)日商簿記検定2級(工業簿記)の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、(2)関連科目である管理会計などの履修のための基礎を固めることにある。

【授業計画】

1. 工業簿記と原価計算の基礎
2. 総合原価計算(1)
3. 総合原価計算(2)
4. 総合原価計算(3)
5. 総合原価計算(4)
6. 標準原価計算(1)
7. 標準原価計算(2)
8. 標準原価計算(3)
9. 標準原価計算(4)
10. 直接原価計算(1)
11. 直接原価計算(2)
12. 直接原価計算(3)
13. 直接原価計算(4)
14. 営業費の計算・工場会計の独立
15. 期末試験

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

別途指定する。テキストにしたがって講義を進めるので、必ず購入すること。

【参考文献・資料】

この授業には「工業簿記」の知識が必須である。よって、受講登録にあたっては「工業簿記」を履修済みであることを条件とする。

管理会計 I

吉村文雄

【授業の概要】

企業は資源の効果的・効率的な運用を図るため、貨幣額によってこれを測定・評価し、そのデータをもとにさまざまな意思決定を行わなければならない。しかも、企業経営には実績情報だけでなく予測情報も必要不可欠であります。こうした情報を適切に把握し、分析するための基本的な考え方を学習します。

【授業の目標】

管理会計IIの学習に役立つように基礎知識の習得に努めます。したがって、引き続き管理会計IIを受講されることを希望します。

【授業計画】

- 第1回 管理会計の体系
- 第2回 利益管理のプロセスと利益目標の設定
- 第3回 損益分岐点分析
- 第4回 プロダクトミックス
- 第5回 原価管理
- 第6回 責任会計
- 第7回 原価センターと投資センター
- 第8回 企業予算の意義
- 第9回 企業予算の編成
- 第10回 標準原価管理の意義(1)
- 第11回 標準原価管理の意義(2)
- 第12回 原価差異分析
- 第13回 原価企画
- 第14回 意思決定会計1
- 第15回 意思決定会計2

【評価方法】

講義の出席状況と期末試験を含めて総合的に評価します。期末試験では、自筆ノート、教科書および電卓の持ち込み可。コピー類の持ち込みは禁止。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

講義中に随時指示する。講義内容に関する質問は、講義終了後の休憩時間内に受け付けます。

管理会計 II

吉村文雄

【授業の概要】

企業や組織のコントロールと問題解決に役立つ会計情報の特性を理解するとともに、会計データをコントロールと問題解決に役立たせるための合理的な方法がどのようなものであるのかを、また情報システムをどのように設計すべきかを検討します。

【授業の目標】

前半で管理会計の特徴を、後半で実践的な個別管理会計技法を説明するので、個別具体的な管理会計技法の特徴を把握すること。

【授業計画】

前半で管理会計システムがコントロールと問題解決のハイブリッドシステムとして発展してきたことを説明し、後半で実践的な管理会計技法の構造と機能を把握するとともに、財務諸表分析の管理的意義を検討します。

概ね、以下の順に講義する。

1. 職能部門制組織の成立と管理会計
2. 階層組織の発達と管理会計
3. コントローラシップの発達
4. 計画会計と統制会計
5. 戦略予算とバランス・スコアカード
6. 情報処理と財務諸表分析
7. 内部会計の諸問題

【評価方法】

講義の出席状況と期末試験の結果によって総合的に評価します。自筆ノート、教科書および電卓の持ち込み可。コピー類の持ち込み禁止。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示す。授業中に質問を受け付けます。

会計実務 I

中村雅文

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な帳簿の作成や伝票の処理などの実践的な知識や技能のほか、関係法令の知識を学ぶ。

【授業の目標】

企業の会計実務、即ち、日常的な会計処理業務から決算処理業務に至るまでの具体的な実務を勉強する。授業では簿記の処理技術だけではなく関係する法令との係わりや解釈を分かりやすく説明する。授業を通じ、企業会計(株式会社会計)を理解し、決算書を読めるようにする。

【授業計画】

1. 会計学と会計実務
2. 企業経営における会計・経理の役割
3. 会計の実務と関係諸法令との関わり
4. 企業における会計と監査
5. 決算の実務

【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に実施する小テスト、期末テストを総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

最初の講義で指示する。

【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

会計実務 II

中村雅文

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な財務諸表の作成やその他法令で必要とされる書類の作成に係る知識や技能を学ぶ。

【授業の目標】

この授業では、企業(株式会社)の日常において起きるであろう経営上の問題が会計実務にどのように係わってくるのかを考察する。また、それは当該企業単独の立場からだけでなく、連結経営という視点から見た場合にはどうなるのか、といった方向からも研究する。

【授業計画】

1. 経営組織と会計組織
2. 経営組織と内部統制
3. 財務会計組織と管理会計組織
4. ディスクロージャーと会計
5. 監査と会計

【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に行う小テスト、期末テストを総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

最初の講義で指示する。

【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

租税法 I

糟谷 修

【授業の概要】

わが国の租税法の基礎的な内容がどのようなものであるか解説する。租税法体系や租税理論及び歴史的変遷を概観し、更に今後の税制の課題についても言及する。その後、実定法としての所得税法の概要を理解させる。

【授業の目標】

わが国の租税法の成り立ちや、その基になっている租税理論を知ることにより租税法の基本原則を修得する。また、身近な税としての所得税を取りあげ、現実の租税法の規定の内容を理解する。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、租税法IIへの橋渡しを目指す。

- (1) 租税法の概要
- (2) 租税法体系
- (3) 租税理論
- (4) わが国の租税制度の変遷
- (5) 今後の税制における課題
- (6) 所得税法の概要

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

図説 日本の税制 平成18年度版(宮内豊編 財経詳報社)

租税法 II

糟谷 修

【授業の概要】

わが国の租税法の基礎的な内容がどのようなものであるか解説する。実定法としての法人税法やその他の税法の概要を解説し、租税法がどのようなことを規定の対象としているかを理解させる。

【授業の目標】

わが国の租税法のうち、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などの概要を把握し、現行法規定内容のあらましを修得する。更にわが国の国際租税制度についてもその概要を理解する。

【授業計画】

租税法Iの続きとして下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。

- (1) 法人税法の概要
- (2) 相続税法の概要
- (3) 消費税法の概要
- (4) 地方税法の概要
- (5) 国税の徴収手続等
- (6) 国際租税制度の概要

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

図説 日本の税制 平成19年度版(宮内豊編 財経詳報社)
(平成19年7月刊行予定。編者は変更する場合あり)

マクロ経済学 I

村上敬進

【授業の概要】

消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、景気や経済全体の動きを理論的に考察する。

【授業の目標】

本講義は、入門科目として、マクロ経済学の基礎を理解し専門科目のマクロ経済学を勉強する準備をすることを目標とする。

【授業計画】

1. マクロ経済学はどんな学問でしょうか？
2. マクロ経済学と日本経済
3. GDP
4. 消費と貯蓄
5. 企業の投資
6. 政府の支出
7. 総需要の経済学

【評価方法】

成績評価は定期試験で行う。

【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学（家森信善著 中央経済社）

【参考文献・資料】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

マクロ経済学 II

村上敬進

【授業の概要】

マクロ経済の諸理論について解説する。具体的には、マクロ経済学の理論体系を、短期の理論、長期の理論、に分けて整理し、経済全体の動向を科学的に分析する。

【授業の目標】

本講義は専門科目である。本講義では、マクロ経済学Iに相当する知識を前提として解説をする。

したがって、本講義の受講希望者は、マクロ経済学Iの定期試験に合格するか、以下の概念を自習しておくこと。

GDPとは何か、GDPの三面等価、有効需要の原理、GDPの決定（45度線分析）。

本講義の目標は、経済を実際に分析できるだけの知識を習得することであり、経済学が試験科目に課せられている各種資格試験に対応できるだけの学力を身につけることである。

【授業計画】

1. GDPの概念
2. 物価指数
3. マクロ経済分析の基本的枠組み－短期と長期－
4. 短期モデル
 - 4-1. GDPの決定
 - 4-2. 貨幣市場
 - 4-3. IS-LM分析と財政金融政策
5. 短期モデルと長期モデルの比較
6. 長期モデル
 - 6-1. 物価水準の決定
 - 6-2. インフレーションと失業
 - 6-3. 経済成長の理論

【評価方法】

定期試験で評価を行う。

【テキスト】

入門マクロ経済学 第4版（中谷巖著 日本評論社）

金融論

藤井正志

【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要なマクロ経済・金融の基礎知識を修得すること（詳細は授業にて解説する）。

【授業計画】

- 第1講 日本経済の現状と問題点
- 第2講 日本の金融の問題点
- 第3講 資金の循環
- 第4講 銀行・証券の機能
- 第5講 金利の基本概念
- 第6講 金融市場
- 第7講 マクロ金融政策の課題
- 第8講 金融政策（IS-LM分析）
- 第9講 金融政策・企業金融計算問題
- 第10講 金融商品
- 第11講 ブルーデンス政策
- 第12講 金融規制の日米比較
- 第13講 今後の金融監督手法の展望

【評価方法】

期末試験、出席・ミニテストなどにより総合的に評価する（評価の詳細については授業にて説明する）。

【テキスト】

レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ミクロ経済学 I

村上敬進

【授業の概要】

クーポン券や学割制度を企業が利用する理由は？激安日帰りバスツアーはバス会社の利益になっているか？等の身近で具体的な例を通じて、ミクロ経済学の基礎を解説する。

【授業の目標】

ミクロ経済学の基礎的な考え方を理解し、経済学が経済問題を分析する上で有用であることを理解することが目標である。

【授業計画】

- 1 需要と供給の法則
- 2 需要曲線
- 3 家計の行動
- 4 需要の価格弾力性
- 5 企業の行動
- 6 供給曲線
- 7 需要と供給の経済分析
- 8 市場の役割と市場の失敗
- 9 より高度な分析：無差別曲線を用いた効用最大化問題

【評価方法】

定期試験で評価を行う。

【テキスト】

基礎からわかるミクロ経済学（家森信善・小川光著 中央経済社）

ミクロ経済学 II

村上敬進

【授業の概要】

ミクロ経済学の理論体系を解説する。具体的には、部分均衡と一般均衡のフレームワークで消費者の行動、企業の行動、市場の役割を学習する。
なお、第1回目の講義で数学（微分）の解説をする。

【授業の目標】

本講義は専門科目である。本講義では、ミクロ経済学Iに相当する知識を前提として解説をする。
したがって、本講義の受講希望者は、ミクロ経済学Iの定期試験に合格するか、以下の概念を自習しておくこと。

需要と供給の法則（価格調整メカニズムによる価格と取引量の決定）、消費者余剰の最大化、生産者余剰の最大化、市場均衡の効率性（均衡で社会的余剰が最大になる理由）、市場の失敗、無差別曲線を用いた効用最大化。

本講義の目標は、経済を実際に分析できるだけの知識を習得することであり、経済学が試験科目に課せられている各種資格試験に対応できるだけの学力を身につけることである。

【授業計画】

- 1 最適化問題（微分）の解説
- 2 家計の行動
- 3 企業の行動
- 4 需要・供給の法則
- 5 一般均衡
- 6 市場の失敗
- 7 不完全競争

【評価方法】

定期試験で評価を行う

【テキスト】

ミクロ経済学 増補版（武隈慎一 新世社）

国際金融論

藤井正志

【授業の概要】

国際金融市場の生成と発展、累積債務問題の発生と国際金融に従事する銀行や投資家のリスクについて考察し、リスク管理の一手法としてのデリバティブの活用法など、基礎と現実の動きを幅広く考察し今後の課題についても検討する。

【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要な国際金融の基礎知識を修得すること（詳細は授業にて解説する）。

【授業計画】

- 第1講 外国為替のしくみと貿易取引
- 第2講 国際収支
- 第3講 経常収支の不均衡と国際金融
- 第4講 シンジケート・ローン
- 第5講 アジアの通貨・金融危機
- 第6講 アジアの地域金融協定の必要性
- 第7講 アメリカの対外累積債務
- 第8講 国際資本市場
- 第9講 外国為替相場
- 第10講 デリバティブ取引I
- 第11講 デリバティブ取引II
- 第12講 デリバティブ計算問題
- 第13講 国際金融まとめ

【評価方法】

期末試験、出席・ミニテストなどにより総合的に評価する（評価の詳細については授業にて説明する）。

【テキスト】

レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ビジネスとファイナンス

細野義晴

【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

【授業の目標】

企業をとりまく経営環境が変化するなかで、キャッシュフローやリスク管理の重要化、企業の資金調達や資金運用の変化、M&Aの多発など、大きく変わってきている企業をめぐるファイナンスの基礎的動向の理解を深める。

【授業計画】

1. 企業活動とファイナンスの役割
2. 企業以外の経済主体でのファイナンス（個人金融と国家財政）
3. 投資活動における現在価値と将来価値
4. 経営破綻とキャッシュフロー経営の重要性
5. 各種金融市場の体系と金利の理論
6. 資金調達1（金融市場からの調達）
7. 資金調達2（債券市場からの調達）
8. 資金調達3（株式市場からの調達）
9. 資金運用とその変化
10. 外国為替市場と国際的な資金の調達・運用
11. 企業活動でのリスクとその管理
12. ベンチャー企業とベンチャーファイナンス
13. M&A、プロジェクトファイナンス

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

1. コーポレートファイナンス入門（砂川伸幸著、日経文庫）
2. 現代ファイナンス入門（岸本・津森・阿部著、中央経済社）
3. 現代の財務管理（榎原・菊池・新井著、有斐閣）

ファイナンス概論

三矢幹根

【授業の概要】

財務活動は人体の血液循環に相当する企業の生命線である。企業の血液であるキャッシュ・フローを核とした現代ファイナンス理論の体系を次の3つの柱を軸に基本概念を学習する。(1)投資の分野（正味現在価値とポートフォリオ理論）、(2)コーポレートファイナンス分野（企業価値と資本コスト、MM理論）及び(3)資本市場分野（株式、債券、デリバティブなど）。

現在価値の理解に必要な指数や対数など基礎的な数学はその都度簡潔に復習し、数学が苦手でも支障ないように授業を進行する。
この科目は将来、銀行、証券会社、投資顧問会社、企業の財務部など、ファイナンスの分野で活躍したい学生を念頭に構成している。

【授業の目標】

現代ファイナンス理論の重要項目を概念的に理解し、必要に応じてエクセルを活用して具体的な数値計算を体験することにより理解を更に深める。

【授業計画】

- (1) お金の時間的価値
- (2) 株価と債券の評価
- (3) 投資リスクとリターン、ポートフォリオ理論
- (4) 投資プロジェクトの評価と資本コスト
- (5) 資本構成と企業価値
- (6) 資金調達
- (7) 配当政策と企業価値
- (8) デリバティブとは何か
- (9) スワップ
- (10) オプション
- (11) 事業戦略の分析
- (12) M&A

【評価方法】

出席状況と課題・レポート、学期末試験の結果で総合評価。

【テキスト】

経営財務入門第3版（高橋文郎・井手正介共著 日本経済新聞社）
必要に応じてプリントを配布

【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス（第8版）上下（リチャード・ブリーリー他共著 日経BP社）
経済と金融工学の基礎数学（木島正明、岩城秀樹共著、朝倉書店）

数理ファイナンス

三矢幹根

【授業の概要】

専門科目としての数理ファイナンスであるからには最低限の数式の基礎的理解は必要であるが、主目的は厳密な数学的理解ではなく概念的な理解である。なぜなら、実社会での実務では概念的な理解さえ出来ていれば実際の計算はパソコンにやらせることができるからである。

身近な実生活での事例や簡単な応用例を交え、なるべく平易でわかりやすい解説を試みる。

現在価値の理解に必要な指数や対数など基礎的な数学は必要に応じて適宜簡潔に復習し、数学が苦手でも支障がないように配慮して授業を進行する。この科目は将来、銀行、証券会社、投資顧問会社、企業の財務部など、ファイナンスの分野で活躍したい学生を念頭に構成している。

【授業の目標】

数理ファイナンスの概念的な理解を主目的とするが、必要に応じてエクセルを活用して具体的な数値計算を体験することにより理解を更に深めること。

【授業計画】

- (1) 金利と現在価値
- (2) 単利と複利、連続複利
- (3) 様々な利回り、円転コスト、円投利回り
- (4) パーセントからスポットレートへ、そして直線補間
- (5) 債券の価格と金利感応度
- (6) オプションとは何か？
- (7) 二項モデルは簡単
- (8) ブラック＝ショールズ・モデルも分かる
- (9) スワップとは何か？
- (10-12) プライシング・モデル構築のケーススタディ

【評価方法】

出席状況と課題・レポート、学期末試験の結果で総合評価。

【テキスト】

金融工学を勉強しよう（足立光生著、日本評論者）
必要に応じてプリントを配布

【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス（第8版）上下（リチャード・ブリーリー他共著 日経BP社）
経済と金融工学の基礎数学（木島正明、岩城秀樹共著、朝倉書店）
スワップの価格はこうして決まる（清水正俊、山田哲夫共著、四熊ブックス）
利息計算の手引き（関玄著 銀行研修社）

証券ビジネス論

都島忠比古

【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場、証券会社、証券行政などいずれも変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくか、その背景と方向性についても考察する。

【授業の目標】

間接金融主体から直接金融の活用へ変化しつつあるわが国金融市場の変化を理解し、市場の仲介者としての証券ビジネスのあり方、環境整備についての問題点を抽出する。併せて、M&Aや不動産証券化等新しいビジネス手法についても考察する。

【授業計画】

1. 証券と証券市場
2. 株式会社と株式市場
3. 発行市場と流通市場
4. IPOと証券ビジネス
5. リスクと投資分析
6. 機関投資家
7. ディスクロージャーとIR
8. CSRとSRI
9. 証券取引等監視委員会・IOSCO
10. 証券会社
11. M&A・不動産証券化

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

なし。授業の都度プリント配布

銀行ビジネス論

森下允之

【授業の概要】

バブル崩壊後、日本の銀行界は未曾有の危機に直面し、倒産、統廃合など再編の繰り返し、ようやく日本経済に明るさが見え始めた現在、収益を回復しつつある。肥大化した公的金融機関である郵政が民営化される今後10年間は銀行を取り巻く環境は激変するが、金融機関その代表である銀行がこのチャンスを生かし、再び十分な利益をあげ、日本経済に貢献する方法を論ずる。

【授業の目標】

銀行経営、ビジネス環境を理解すること。

【授業計画】

- 第1講 金融システムの基礎知識
- 第2講 金融システムにおける銀行
- 第3講 バブル崩壊と不良資産
- 第4講 間接償却と直接償却
- 第5講 金融再編成
- 第6講 日本の銀行の特徴（なぜ儲からないか）
- 第7講 ベイオフ問題と中小金融機関
- 第8講 郵政民営化
- 第9講 政府系金融機関の功罪
- 第10講 日本の資金需給の大変化
- 第11講 郵政民営化、政府系金融機関統合後の地方銀行の生きる道
- 第12講 メガバンクが世界トップ銀行と互角に渡り合うために
- 第13講 単位認定試験

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

日本の金融システム（全国銀行協会金融調査部編）

【参考文献・資料】

21世紀日本の金融産業革命（植田、川北、高月著 東洋経済新報社）
銀行収益革命（川本裕子著 東洋経済新報社）

保険ビジネス論

跡部浩一

【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の企業経営と日常生活にとって不可欠な生命保険・損害保険の意義と役割についての理解を深める。特に保険業法の法的解釈よりも、日常の経済活動を通じての保険の現状とその仕組みの解説を中心に、その法的根拠としての保険業法の基本を理解する。

【授業の目標】

- (1) 生命保険・損害保険とは何か、保険の基礎知識の習得
- (2) 保険業法の概要とその今日的意義・役割を習得
- (3) 以上を通じて、社会人として必要となる「リスク管理」と「保険と生命の大切さ」を習得する

【授業計画】

- 第1講 保険と保険業法の概要・授業のすすめ方
 - 第2講 身近な保険を考える（1）
*損害保険入門・海外旅行傷害保険
 - 第3講 損害保険の基礎知識（1）
*自動車保険と自賠責保険
 - 第4講 損害保険の基礎知識（2）
*自動車保険と自賠責保険
 - 第5講 損害保険の基礎知識（3）
*損保の原型＝火災保険と地震・台風
 - 第6講 保険会社と保険業法
 - 第7講 生命保険の基礎知識（1）
 - 第8講 生命保険の基礎知識（2）
 - 第9講 身近な保険を考える（2）
*損害保険と生命保険の違いと保険業法
 - 第10講 身近な保険を考える（3）
*最近の保険犯罪と保険募集のあり方
 - 第11講 身近な保険を考える（4）
*保険の思想と保険業法
 - 第12講 身近な保険を考える（5）
*リスクと保険・授業のまとめ
- 単位認定試験

【評価方法】

1 出席状況と 2 単位認定試験の成績 により、総合的に評価する

【テキスト】

特定の教科書を教材には使用しない。講義ごとにレジメを配布する

【参考文献・資料】

授業にて明示する。

外国為替論

森下允之

【授業の概要】

「国際金融」のExchange（交換、為替）の側面。基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらに経済への影響まで触れる。経済的なできごと、変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

【授業の目標】

毎日、ニュースで報道される外国為替に関する総合的な知識を身につけさせる。

【授業計画】

- 第1講 外国為替の仕組み
- 第2講 外国為替相場の種類
- 第3講 スワップとアウトライト
- 第4講 外国為替リスクと回避方法
- 第5講 外国為替相場と経済の関係
- 第6講 外国為替相場と国際収支
- 第7講 オプション取引
- 第8講 外国為替相場の決定理論
- 第9講 国際通貨制度
- 第10講 ユーロ
- 第11講 人民元
- 第12講 アジアと円の国際化
- 第13講 単位認定試験

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

外国為替のしくみ（小口幸伸著 日本実業出版社）

【参考文献・資料】

国際金融・外為市場（佐久間潮著 財経詳報社）

金融工学

三矢幹根

【授業の概要】

数理ファイナンス (Mathematical Finance) という基礎理論を実務に適用する応用技術が金融工学 (Financial Engineering) であり、金融工学の2本柱は(1)金融派生商品 (デリバティブ) の価格決定理論と(2)リスク評価・管理理論である。専門科目としての金融工学であるからには最低限の数式による説明は行うが、主目的は決して厳密な数学的理解ではなく、概念的な理解である。なぜなら、実社会での実務では概念的理解さえ出来ていれば実際の計算はパソコンにやらせることができるからである。現在価値の理解に必要な指数や対数など基礎的な数学は必要に応じて適宜簡潔に復習し、数学が苦手でも支障がないように配慮して授業を進行する。この科目は将来、銀行、証券会社、投資顧問会社、企業の財務部など、ファイナンスの分野で活躍したい学生を念頭に構成している。

この講義を受講するにあたり、数理ファイナンスを履修済みか同等以上の理解があることが望ましい。

【授業の目標】

金融工学の概念的な理解を主目的とするが、必要に応じてエクセルを活用して具体的な数値計算を体験することにより理解を深める。更に銀行や証券会社の実務においてスワップやオプションの価格が具体的にどのように決定されるのかを擬似体験することで「頭」と「手」により理解を徹底し、「分かる」だけでなく「できる」ように導く。

【授業計画】

- (1)金融工学の最重要原理は「現在価値」と「等価交換」
- (2)金融派生商品 (デリバティブ) とは何か
- (3)金融派生商品 (デリバティブ) の活用例
- (4)スワップの価格決定
- (5)オプションの価格決定
- (6)リスクの評価と管理

【評価方法】

出席状況と課題・レポート、学期末試験の結果で総合評価。

【テキスト】

金融工学 マネーゲームの魔術 (吉本佳生著、講談社+α新書)
スワップの価格はこうして決まる (清水正俊、山田哲夫共著、四熊ブックス)
必要に応じてプリントを配布

【参考文献・資料】

コーポレート・ファイナンス (第8版) 上下 (リチャード・ブリーリー他共著 日経BP社)
経済と金融工学の基礎数学 (木島正明、岩城秀樹共著、朝倉書店)
図解でわかるデリバティブの全て (田淵直也著、日本実業出版社)
Excelで学ぶデリバティブとブラック・ショールズ (藤崎達哉著、オーム社)
世界一やさしい金融工学の本です (田淵直也著、日本実業出版社)

金融システム論

石坂綾子

【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

【授業の目標】

日本の金融システムの整備と金融自由化の進展について学ぶとともに、アメリカ・ヨーロッパ諸国が日本の金融システムにどのような影響を与えたのかを理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 日本の金融システム
 - (1) 金融システムの発展とその特徴
 - (2) 金融業務についての規制・慣行と変化
 - (3) 金融自由化 - 日本版金融ビッグバン -
3. アメリカの金融システム
 - (1) 大恐慌の教訓
 - (2) 金融システムの発展とその特徴
 - (3) アメリカ金融革命
4. ヨーロッパ諸国の金融システム
 - (1) イギリス - 国際金融市場とビッグバン -
 - (2) フランス - 国有化と公的金融 -
 - (3) ドイツ - ユニバーサルバンキングの展開 -
5. 1980・1990年代の金融世界
 - (1) バブルの陶酔と清算 (1985~1994年)
 - (2) ボーダーレスマネー (1994年)
 - (3) 金融異変 (メルトダウン)

【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

金融システム (酒井 良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣)
金融政策 (酒井 良清・鹿野 嘉昭著 有斐閣)

ファイナンシャルプランニング I

西部正巳

【授業の概要】

FPの目的が、個々の生活者のライフプランの目標を実現するための夢の成就であるならば、それを支える体系的な且つ広範囲な知識の習得が必要不可欠となる。Iでは、学習する6分野のうち、金融資産の運用設計、リスクと保険、ライフプランニングと年金などを取り上げて学習するほか、問題練習を通じて更に理解を深める。

【授業の目標】

ライフプランニング、公的年金、社会保障制度、生命保険、損害保険、金融商品、投資理論など社会生活に欠かせない知識の理解を習得し、後期「FPII」と合わせて国家資格である「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」資格取得を目指す。

【授業計画】

1. FPガイダンス
2. ライフプランニングの目的と作成手法
3. キャッシュフロー分析と家計支出
4. 社会保障制度
5. 公的年金
6. 教育資金、住宅取得
7. リスクと保険
8. 生命保険
9. 損害保険
10. 市場経済と金融商品
11. 価格変動商品
12. 投資の考え方

【評価方法】

出席、単位認定試験の総合評価

【テキスト】

第1回目授業にて指定

【参考文献・資料】

2007年度版FP技能検定[3級学科・実技]試験対策マル秘ノート (近代セールズ社)
最新版FP用語HANDBOOK (近代セールズ社)

ファイナンシャルプランニング II

西部正巳

【授業の概要】

FPの目的が、個々の生活者のライフプランの目標を実現するための夢の成就であるならば、それを支える体系的な且つ広範囲な知識の習得が必要不可欠となる。IIでは、Iで学習した3分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて学習するほか、問題練習を通じて更に理解を深める。

【授業の目標】

所得税、住民税、贈与税、相続税、不動産の運用設計などFPの中でも税金と関係の深い分野を中心に理解の習得に努め、前期「FPI」と合わせて国家資格である「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 所得税の分類
2. 所得控除、税額控除、源泉徴収
3. 個人住民税、個人事業税
4. 不動産の価格、登記、契約
5. 不動産の税金、評価
6. 不動産の有効活用、投資
7. 不動産の証券化、REIT
8. 相続範囲と遺言
9. 相続税
10. 贈与税
11. 相続対策、財産評価
12. FP総論

【評価方法】

出席、単位認定試験の総合評価

【テキスト】

第1回目授業にて指定

【参考文献・資料】

2007年度版FP技能検定[3級学科・実技]試験対策マル秘ノート(近代セールス社)
最新版FP用語HANDBOOK(近代セールス社)

情報処理概論 II

MAHSUT, Muhtar

【授業の概要】

情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システム環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

【授業の目標】

様々な職場において、現状業務の分析、コンピュータを有効利用した業務改善案の提案、業務用システムの企画立案、情報システム利用環境の整備やシステム運用管理などの仕事に従事できる基礎力を身に付ける。

【授業計画】

1. システム開発技法
2. ヒューマンインターフェースの設計
3. テスト技法
4. システムの運用と管理
5. プログラム言語と言語処理系
6. CPUの性能計算
7. ネットワークの性能計算
8. システムの構成と評価
9. システムの信頼性
10. コンピュータウイルスとワクチンソフト
11. セキュリティ対策
12. 開発と取引の標準化
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

システムの運用と管理(ウイネット)

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報処理概論 I

奥村文徳 MAHSUT, Muhtar

【授業の概要】

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

【授業の目標】

Windowsの基本操作を理解し、OSの体系を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コンピュータの基礎知識
- 第3回 エンドユーザーコンピューティングとは
- 第4回 コンピュータの5大装置
- 第5回 コンピュータの情報表現
- 第6回 論理演算と論理回路
- 第7回 コンピュータの基礎知識のまとめ
- 第8回 ハードウェアの基礎
- 第9回 補助記憶装置
- 第10回 入出力装置
- 第11回 ソフトウェアの基礎
- 第12回 オペレーティング・システムの役割
- 第13回 データ管理と記憶管理
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト
(毎回、授業中にパソコン演習を含む)

【評価方法】

出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

エンドユーザーコンピューティング(ウイネット)

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

ネットワークリテラシ入門

小林久恵 原 伸之 奥村文徳

【授業の概要】

ネットワークに関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、ホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワークの仕組みとその意義
2. 情報量と通信速度、プロトコル
3. LANの種類と仕組み
4. サーバの種類と仕組み
5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
6. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
7. 基本タグの設定、ファイルの管理
8. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
9. サウンドと動画の再生
10. ホームページ課題制作
11. FTPによるファイル転送
12. セキュリティと情報倫理(コンピュータ・ウイルス)
13. セキュリティと情報倫理(著作権)
14. 試験

この授業を履修する上で、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」を併せて履修することが望ましい。

「コンピュータグラフィックス入門」「ユーザ部門管理者コース」「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ(三和義秀著 共立出版)

プログラミング入門

原 伸之 奥村文徳 西荒井学 小林久恵

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラム言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. 変数とデータ型
6. 順次構造
7. 関数の利用
8. 選択構造 (If, Select Case文)
9. 繰り返し構造 (For~Next文)
10. 繰り返し構造 (Do While~Loop, Do Until~Loop文)
11. 一次元配列
12. 二次元配列
13. 文字列処理
14. 試験

授業は、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で実施する。
なお、「システム管理者コースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門 (西荒井学著 共立出版)

コンピュータ科学 I

諸上茂光

【授業の概要】

現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みについて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

【授業の目標】

前期授業のIでは主にハードウェアの仕組みを体系的に学習する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. コンピュータの種類とハードウェアの概要
3. ソフトウェアの概要
4. 記憶装置の仕組み
5. CPUの仕組み
6. データ表現
7. 論理演算子
8. 論理回路
9. ブール代数と集合演算
10. 機械語命令
11. 実効アドレスの計算
12. データ通信とネットワーク
13. システムの信頼性
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

これから学ぶコンピュータ科学入門 ハードウェア編 (鑄山 徹著 工学図書発行)

【参考文献・資料】

社会科学系のためのコンピュータ科学概論 (下条哲司・他 著 オーム社発行)

コンピュータ科学 II

諸上茂光

【授業の概要】

現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みについて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

【授業の目標】

後期授業のIIでは主にソフトウェアの仕組みと企業活動におけるコンピュータの活用について体系的に学習する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. コンピュータとハードウェアの概要
3. オペレーティングシステム
4. ジョブとタスクの管理
5. データの管理とファイルシステム
6. プログラム言語
7. 流れ図とアルゴリズム
8. データ構造
9. 数値表現
10. コンパイラと言語プロセッサ
11. システム開発手法
12. データベースの制御
13. コンピュータと企業活動
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

これから学ぶコンピュータ科学入門 ソフトウェア編 (鑄山 徹著 工学図書発行)

【参考文献・資料】

社会科学系のためのコンピュータ科学概論 (下条哲司・他 著 オーム社発行)

プログラミング応用 I

諸上茂光

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須要件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Excel、Visual Basicを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

【授業の目標】

代表的なプログラミング言語である、Visual Basic及びVisual C++のプログラムを実際に多く作成することによって、プログラミングに関する基本的な考え方の習得だけでなく、実践的なプログラミング能力の育成を目指す。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. Excelを用いた表計算と図表の作成
3. Visual Basic によるプログラミングの手順
4. Visual Basic の基本操作
5. Visual Basic プログラミング演習 1 (演算子、関数)
6. Visual Basic プログラミング演習 2 (繰り返し、条件分岐)
7. Visual Basic プログラミング演習 3 (ユーザインタフェース)
8. Visual Basic プログラミング演習 4 (シートとブックの取り扱い)
9. C/C++ の考え方と基本操作
10. Visual C++ プログラミング演習 1 (演算子、関数)
11. Visual C++ プログラミング演習 2 (繰り返し)
12. Visual C++ プログラミング演習 3 (条件分岐)
13. Visual C++ プログラミング演習 4 (配列操作)
14. まとめ

【評価方法】

出席、レポートによる総合評価

【テキスト】

学生のための Excel VBA (若山芳三郎著、東京電機大学出版局発行)
例題で学ぶC言語プログラミングのテクニック (小林久恵 三和義著、共立出版発行)

プログラミング応用 II

小林久恵

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須条件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Javaを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用なプログラムを作成する能力を育成する。

【授業の目標】

Javaの特性を理解し、Sun認定Javaアソシエイト試験等の問題に取り組みながら、コンピュータ実習を通じてJavaのオブジェクト指向プログラミングを習得する。

【授業計画】

1. Javaプログラムの基本構造
2. Javaの基本操作
3. 一次元配列、二次元配列
4. 選択構造 (if-else文、switch-case文)
5. 反復構造 (for文、while文、do-while文)
6. 例外処理
7. オブジェクト指向
8. クラスとインスタンス
9. コンストラクタ
10. クラス変数とクラスメソッド
11. クラスの継承
12. 過去問題の検証と分析
13. まとめ
14. 試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験、及びコンピュータ実習課題提出内容によって総合評価する。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和義秀著 共立出版)

ビジネスプレゼンテーション

梅田敏文 三浦信宏

【授業の概要】

ビジネスの場面における情報メディアと自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から学習する。また、プレゼンテーションツール、マルチメディアを活用し実践することにより、プレゼンテーションスキルを習得する。

【授業の目標】

見やすいプレゼンテーション資料を作成し、効果的な発表を行うことのできるスキルと知識を習得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成 (1)
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成 (2)
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成 (3)
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成 (4)
- 第8講 発表 (1)
- 第9講 発表 (2)
- 第10講 発表 (3)
- 第11講 発表 (4)
- 第12講 発表 (5)
- 第13講 まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

【テキスト】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

情報倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化社会の特徴、ITが社会に及ぼす影響などを考察するとともに、知的財産権、プライバシー、コンピュータ犯罪などを検討し、情報倫理の必要性を理解する。

【授業の目標】

情報倫理の基礎概念と、現在課題とされているテーマについて幅広く理解する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 情報倫理とは何か
- 第3講 情報倫理の必要性
- 第4講 情報技術の社会的インパクト
- 第5講 情報倫理のフレームワーク
- 第6講 コンピュータとプライバシー (1)
- 第7講 コンピュータとプライバシー (2)
- 第8講 コンピュータと財産権 (1)
- 第9講 コンピュータと財産権 (2)
- 第10講 コンピュータと専門家倫理
- 第11講 コンピュータ犯罪 (1)
- 第12講 コンピュータ犯罪 (2)
- 第13講 倫理思想と情報技術 (1)
- 第14講 倫理思想と情報技術 (2)
- 第15講 テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

情報倫理 (村田潔編 経営情報学会情報倫理研究部会著 有斐閣)

情報システム論 I (DB)

奥村文徳 林 誠

【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

【授業の目標】

企業情報システムの中での重要な位置を占めているリレーショナル・データベースの基本理論を理解し、データ中心の設計・構築の実践的手法を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 データと情報の違い、データの性質
- 第3回 企業情報システムとデータベース
- 第4回 データベースシステムの基本概念
- 第5回 データモデルの種類と特徴
- 第6回 データベースシステムの構造
- 第7回 データの正規化 (1)
- 第8回 データの正規化 (2)
- 第9回 SQLの機能 (1) 操作系SQL
- 第10回 SQLの機能 (2) 更新系SQL
- 第11回 SQLの機能 (3) 定義系SQL、制御系SQL
- 第12回 DBMSの機能 (1) 常駐制御と排他制御
- 第13回 DBMSの機能 (2) トランザクション制御、分散制御
- 第14回 DBMSの機能 (3) 障害復旧と領域管理
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

データベース設計・構築 基礎+実践マスターテキスト (弓場秀樹、武田喜美子著 技術評論社)

【参考文献・資料】

10日でおぼえるAccess実用データベース入門教室 (アंक 翔泳社)
Excel+Accessデータベース完全活用ガイド (谷尻かおり著 技術評論社)

情報システム論 II (設計)

林 誠

【授業の概要】

情報システムは情報の入手・処理・活用を行うためのシステムである。近年とみに企業環境の変化の激しきから情報システムの構築がビジネスのニーズに追いつかない面が顕著に現れている。そのため、今まで企業独自に開発してきた情報システムを捨てて統合的なソフト・パッケージを採用した情報システムへの移行も進んでいる。本講義では、はじめにアプリケーションシステムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをとおして会計システムの機能設計(概要設計を含む)や運用設計の基本も学ぶ。全体を通して、実際の業務とアプリケーションシステムの整合性をどのようにとりシステムを構築・管理をすればよいかの基本を理解することを目標にしている。

【授業の目標】

経済産業省が推奨し、中央官庁や自治体、大手民間企業で適用が進められているEA(エンタープライズ・アーキテクチャ)の方法論を理解し、ビジネスモデルや企業業務システムの可視化ができる能力を身につける。SEを目指す人間だけでなく、ビジネスパーソンとして必要な業務の分析能力、汎用化・抽象化能力、モデル化能力を身につけ、システムの仕様書が読めるようになる。

【授業計画】

1. ガイダンス、進め方
2. EAの概論
3. ビジネス・アーキテクチャ
4. 業務環境分析とCSFの抽出
5. ビジネスモデルの作成
6. データアーキテクチャ
7. 機能分析とDMM
8. データフローダイアグラムの作成
9. 情報モデルとデータモデル
10. エンティティ分析の演習1
11. エンティティ分析の演習2
12. アプリケーションアーキテクチャ
13. テクノロジーアーキテクチャ
14. まとめ

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは適時指示する。

【参考文献・資料】

実践エンタープライズ・アーキテクチャー(湯浦 克彦著ソフトウエアリサーチセンター)、図解入門 よくわかる最新エンタープライズ・アーキテクチャの基本と仕組み(秀和システム)

マルチメディア II

諸上茂光

【授業の概要】

近年、ビジネス活動の中でマルチメディアに対するニーズが大きくなり、技術の多様化が進んでいる。本授業ではマルチメディア技術と情報化社会のあり方について学んでいく。同時に、演習の中でWebコンテンツの制作に必要な画像処理に関する知識と技術を習得する。

【授業の目標】

授業前半部の講義では、マルチメディア技術と情報化社会への適用について触れ、後半部の演習では、Adobe Photoshop CSを用いた演習により、Webコンテンツの制作に必要な画像処理の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

前半(講義) / 後半(演習)

1. ガイダンス
2. 視覚とメディア / Photoshopの起動と終了
3. 触覚・力覚とメディア / 画像の作成・描画
4. 音声と音響 / 画像の編集・カンバスの回転と切り抜き
5. 画像と図形 / 色の調整1(色相・彩度・明度)
6. アニメーションと映像 / 色の調整2(レベル補正・トーンカーブ)
7. コンセプトメイキング / フィルタの適用
8. コンテンツデザイン / 範囲の選択
9. エンタテインメント / 写真の補正
10. 情報家電 / レイヤーを用いた画像の作成1
11. コミュニケーションの変化 / レイヤーを用いた画像の作成2
12. 情報の共有 / 文字の配置
13. ネットビジネス / シェイプの配置
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

よくわかる Adobe Photoshop CS2 for Windows (FOM出版発行)

マルチメディアと情報化社会-ユビキタスネットワーク社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化- (画像情報教育振興協会発行)

マルチメディア I

諸上茂光

【授業の概要】

近年、ビジネス活動の中でマルチメディアに対するニーズが大きくなり、技術の多様化が進んでいる。このことから本授業ではマルチメディアに関する広範な技術的基礎を学んでいく。同時に、ひとつの適用例であるWebデザインの考え方とその実践について、実際にホームページを作成しながら習得する。

【授業の目標】

授業前半部の講義では、マルチメディアの特徴やその適用例について理解を深める。後半部の演習では、ホームページビルダーを用いたホームページの作成を通して、Webデザインのための知識とスキルを習得する。

【授業計画】

前半(講義) / 後半(演習)

1. ガイダンス
2. マルチメディアの特徴 / ホームページビルダーの起動と終了
3. 双方向性・ユーザインタフェース / Webサイトとトップページの作成
4. 画像処理・映像や音声の編集 / 画像や素材の挿入と設定
5. 情報の発信 / 表の作成と編集
6. インターネットビジネス1 / Webページのレイアウト編集
7. インターネットビジネス2 / リンクの設定
8. 携帯電話のマルチメディア化 / 画像の作成と編集1
9. 家庭のマルチメディア化1 / 画像の作成と編集2
10. 家庭のマルチメディア化2 / ウェブアートデザイナーの操作1
11. ICカード・街頭のマルチメディア / ウェブアートデザイナーの操作2
12. 交通・医療・福祉とマルチメディア / ウェブアニメータの操作1
13. 文化・行政とマルチメディア / ウェブアニメータの操作2
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

よくわかるホームページ・ビルダー10 基礎 (FOM出版発行)

【参考文献・資料】

入門マルチメディア ITで変わるライフスタイル (画像情報教育振興協会発行)

情報通信ネットワーク論

諸上茂光

【授業の概要】

「情報通信」とは、情報を相手に知らせることであり、そのために使われるしくみの中心がネットワークである。現在はインターネットというグローバルなネットワークから個別に構築された個別ネットワークまで大小さまざまなネットワークがビジネスで活用されている。その中で代表的なネットワークについて理解することが企業ビジネスにおいて重要である。当講義では情報通信ネットワークを情報通信とネットワークの2つの概念の基に取り扱う。情報通信では、「情報とはなにか」から始まり、情報通信の基本である通信回線の種類や伝送方式について学習する。ネットワークでは、LANやインターネットのしくみについて学習する。さらにネットワーク構築の際の運用や管理の知識について学び、最近特に注目されているネットワーク・セキュリティについても学習する。全体を通して情報をいかにうまくビジネスに活用するか、という観点からそのしくみである情報通信ネットワークの役割を理解することを目標にしている。

【授業の目標】

企業ビジネスにとって重要な情報通信の仕組みと活用方法の習得。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 通信手段・ネットワークの概念
3. LANの構成要素
4. サーバと共有の仕組み
5. OSI参照モデル
6. TCP/IP
7. MACアドレス・IPアドレス
8. インターネットの歴史と発展
9. LANとインターネットの接続
10. 光通信
11. インターネットサービスとプロトコル
12. インターネットの問題点
13. セキュリティ対策と暗号化
14. まとめ

【評価方法】

出席、レポート、テストによる総合評価。

【テキスト】

かんたんネットワーク入門 (三輪賢一著、技術評論社発行)

ITと職業倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化の進展による産業や職業の変化を検討する。情報と関わる職業に要求されるプロフェッショナル倫理を、ケーススタディなどを通して理解を深め、情報化社会における職業観や勤労観を育成する。

【授業の目標】

ITが現代の職業に与えている影響を理解し、学生としてまた、社会人としてITの望ましい活用方法を習得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 職業とは何か
- 第3講 情報化と職業
- 第4講 キャリアマネジメント
- 第5講 企業活動と情報化
- 第6講 情報を取り扱う仕事－プライバシーの問題
- 第7講 情報を取り扱う仕事－所有権の問題
- 第8講 職業倫理
- 第9講 事例研究（1）
- 第10講 内部告発
- 第11講 事例研究（2）
- 第12講 企業と人材育成
- 第13講 情報の特性と読み方
- 第14講 事例研究（3）
- 第15講 テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

システムリスク管理論

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、企業や金融機関は、ビジネスリスクや通信ネットワークのリスクにさらされるようになった。

本科目では、これらのリスクをシステムリスクとして概観し、とくにネットワークの構築や運用時のリスクと、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクに焦点をあて実習を通して学習する。

また、リスク低減策としてのセキュリティの知識と技術を習得する。

【授業の目標】

リスク管理に関して、まず戦略的総合リスク管理を理解した上で、製品・製造要因リスク、情報セキュリティリスク、市場リスク、信用リスク、危機管理にかかわるリスク管理全般の理解を深めること。

【授業計画】

1. リスク管理について
2. 戦略的総合リスク管理（ERM:Enterprise Risk Management）の必要性
3. 戦略的総合リスク管理の構築および維持の必要性と体制作り
4. 戦略的総合リスク管理の実施（1）製品・製造要因リスク
5. 戦略的総合リスク管理の実施（2）情報セキュリティリスク（コンピュータウイルス、不正アクセス、知的財産権、個人情報保護）
6. 戦略的総合リスク管理の実施（4）信用リスク・市場リスク
7. 戦略的総合リスク管理の実施（5）危機管理
8. 情報セキュリティ管理のための基礎技術（暗号化、デジタル署名、ユーザー認証とアクセス権）
9. 情報セキュリティ管理のためのシステム設計（信頼性の高いシステム構築、電子メールとWWWのセキュリティ、ファイアーウォール）
10. 事業継続計画（BCP:Business Continuity Plan）
11. リスクマネジメントと内部統制

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

流通情報システム論

三浦信宏

【授業の概要】

流通サービス産業におけるコンビニエンスストアをとりあげて、情報システムの設計、管理、活用の知識を習得する。とくに、コンビニ経営のためのデータベース設計や情報検索の手法を、実習を通して習得する。また、情報システムを基盤としたコンビニ経営の最新動向を学習する。

【授業の目標】

小売業に関する業種、業態の現状と情報化の課題を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 流通業界の変遷（百貨店）
- 第3回 流通業界の変遷（スーパー）
- 第4回 流通業界の変遷（コンビニ）
- 第5回 社会基盤としての情報システムの役割
- 第6回 工業社会と情報社会（1）
- 第7回 工業社会と情報社会（2）
- 第8回 情報化とビジネス変化
- 第9回 流通情報システム事例I（企業間取引情報システム）
- 第10回 流通情報システム事例II（企業内情報システム）
- 第11回 流通情報システム事例III（POS、CTI）
- 第12回 流通情報システム事例IV（CRM、ERP）
- 第13回 流通情報システム事例V（Web2）
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

情報と職業（情報処理学会 編集）オーム社
手にとるようにウェブ世界がわかる本

プロジェクト管理

三浦信宏

【授業の概要】

適用業務開発プロジェクトを想定し、情報システムの設計局面、管理局面の作業内容とプロジェクトコントロールの知識と技法を学習する。とくに、画面設計やデータベース設計の作業を取り上げ、設計の作業を実習するとともに、作業の進捗管理、品質管理、変更管理の知識を習得し、情報システムの効果的な設計と管理の技法を学習する。

【授業の目標】

ソフトウェアの情報システム開発に関する開発手法・開発手順・管理項目管理手法について実例を基に理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報システム開発とプロジェクト
- 第3回 情報システムの開発プロセス
- 第4回 プロジェクト実施計画の立案I
- 第5回 プロジェクト実施計画の立案II
- 第6回 プロジェクト実施計画の立案III
- 第7回 情報システムの適用業務分析
- 第8回 情報システムのデータベース設計I（論理設計と物理設計）
- 第9回 情報システムのデータベース設計II（最適化）
- 第10回 プロジェクト実施局面における進捗管理
- 第11回 プロジェクト実施局面における品質管理
- 第12回 プロジェクト実施局面における変更管理
- 第13回 プロジェクトの評価方法
- 第14回 国際標準プロジェクトマネジメント（PMBOK）の動向
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

経営情報システム論

林 誠

【授業の概要】

経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

【授業の目標】

経営情報システムの進化のプロセスを学習し、ITが企業の意志決定やビジネスモデルに与える影響を理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報社会と企業経営
- 第3回 情報システムの発展段階
- 第4回 組織と情報システム
- 第5回 経営戦略と情報システム
- 第6回 ネットワークコンピューティング
- 第7回 意思決定支援システムと戦略情報システム
- 第8回 BPRと情報システム
- 第9回 ロジスティクスシステム
- 第10回 サプライチェーンマネジメント
- 第11回 ナレッジマネジメントシステム
- 第12回 CRMとCS経営
- 第13回 経営情報システムの構築手法
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

経営情報システム（島田達巳、高原康彦著 日科技連）
現代経営情報システム開発論（立川丈夫著 創成社発行）
経営情報論（遠山暁、村田潔、岸真理子著 有非閣）

ニューロマーケティング

諸上茂光

【授業の概要】

多様化する現代の消費者の心理過程を理解するため、近年では消費者個人の情報処理に目を向けた学際的なアプローチが注目されはじめている。本講義では、まず、消費者を普遍的な「ヒト」として捉え、あらゆる文脈において行われる情報の入力がかかるように内的に処理され、多くの過程を経て、最終的に行動に結びつくのかを、主に脳科学的な視点及び心理学的な視点から概説する。その上で、これらの知見を実際のビジネス活動でどのように適用できるのか議論する。

【授業の目標】

人間の視覚情報処理機構、特に認知・記憶・学習の仕組みについて脳科学的な知見や認知心理学的な知見を用いながら解説し、これらの知識をどのようにマーケティングに活かすことができるか、実際の適用例を挙げながら考えていく。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. マーケティングと学際的なアプローチ
3. 脳の機能図
4. 視覚のメカニズム
5. 形や空間の視覚認識
6. ニューロンと情報伝達
7. 脳の高次機能のメカニズム 1
8. 脳の高次機能のメカニズム 2
9. 記憶のメカニズム
10. 記憶とメタファー
11. 文脈と学習のメカニズム
12. 消費者の心理過程への脳科学的アプローチ
13. 脳科学の研究手法とニューロマーケティングの今後
14. まとめ

【評価方法】

出席およびレポート、テストによる総合評価。

【テキスト】

使用しない。適宜資料の配付を行う。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

コンピュータシミュレーション

上原 衛

【授業の概要】

情報処理システムを活用してデータの統計処理やシミュレーション機能を学習するとともに、図形処理や画像処理機能を活用して効果的なデータ提示方法を検討する。

【授業の目標】

オペレーションズリサーチ（OR）の代表的な手法である待ち行列、線形計画法に加え、ABC分析、回帰分析、重回帰分析、数量化理論I類、経済性分析について理解を深め、実務に利用できるコンピュータシミュレーションの知識を習得すること。

【授業計画】

- 第1回 コンピュータシミュレーションとは
- 第2回 Excelを利用したシミュレーションの基礎（ゴールシーク、シナリオ、テーブル）
- 第3回 Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列1）
- 第4回 Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列2、乱数）
- 第5回 Excelを利用したシミュレーション（OR：待ち行列3）
- 第6回 Excelを利用したシミュレーション（OR：線形計画法）
- 第7回 ABC分析
- 第8回 需要予測 回帰分析
- 第9回 需要予測 重回帰分析1
- 第10回 需要予測 重回帰分析2
- 第11回 需要予測 数量化理論I類
- 第12回 経済性分析1
- 第13回 経済性分析2
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

エンドユーザーコンピューティング I

奥村文徳

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの基本知識を体系的に学習する。

【授業の目標】

大学卒業後におけるコンピュータやネットワークを利用するエンドユーザーとして、必要な知識を習得する。
実際に、社会で起きているニュースなどと対応させて理解できる。

【授業計画】

1. ネットワークの基礎知識
2. LANの基礎知識
3. インターネットの基礎知識
4. 入出力インターフェース
5. 情報戦略（経営管理と情報システム）
6. 経営工学（品質管理、OR、確立と統計）
7. 企業会計（財務、管理会計）
8. 関連法規I（知的財産権）
9. 関連法規II（労働、取引、安全などに関する法規）
10. 表計算ソフトの利用
11. データベースの基礎知識
12. SQLの利用
13. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

1. エンドユーザーコンピューティング（ウイネット）
2. 情報の分析と活用（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

エンドユーザーコンピューティング II

諸上茂光

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なシステム開発、運用管理、情報分析と活用の基本知識を体系的に学習する。

【授業の目標】

エンドユーザーコンピューティングの推進に必要なシステム開発・運用管理能力や基本知識の習得

【授業計画】

1. 演習I (仕事とコンピュータ)
2. 演習I (コンピュータシステムの基礎知識)
3. 演習II (データの分析と整理の技法)
4. 演習III (システムの開発と運用)
5. 演習IV (テストおよび検取)
6. 演習V (EUCにおけるハードウェアの役割)
7. 演習V (EUCにおけるソフトウェアの役割)
8. 演習V (表計算とデータベース)
9. 演習V (ネットワークの役割と利用形態)
10. 演習VI (システム環境整備と運用管理)
11. 総合演習 (1)
12. 総合演習 (2)
13. 総合演習 (3)
14. 総合演習 (4)

【評価方法】

出席状況およびレポートの総合評価

【テキスト】

第1回目の授業までに指定

【参考文献・資料】

適宜補足資料を配付

ビジネスとジェンダー I

國信潤子

【授業の概要】

主に産業社会学の視点からビジネス関係、労働環境におけるジェンダー(社会・文化的性)区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備によって、実態がどのように変化しているか、していないかについて検討する。労働、家族、地域の3領域におけるジェンダー・バランスについて各種データなどから現状を紹介する。

【授業の目標】

- 目標
- 1) ジェンダーという概念を正確に理解する：概念形成とその変容を理解する。
 - 2) 国内外のジェンダー関係の統計データを分析し、その格差の実態を知る。
 - 3) ジェンダー格差は現象として男女賃金格差、地位格差、職域区分などから形成され、さらに生活慣習、役割意識などとも関連している。その実態を統計資料などから考察する。

詳細は授業時。

【授業計画】

- 講義1, 2回目：ジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。
- 講義3, 4回目：国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。
- 講義5, 6回目：日本社会にある性別役割分業の実態を調査結果などから理解し、国際比較データとともに日本と先進諸外国の格差を考察する。
- 講義7, 8回目：雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法の概要紹介
- 講義9, 10回目：セクシュアル・ハラスメント防止施策、育児・介護休業法などについて紹介する。

詳細は授業で資料配布。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配布

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介

ビジネス・コミュニケーション

福本明子 國信潤子 小池弘道

【授業の概要】

ビジネスとは何かということについての基礎的内容とコミュニケーションがビジネス社会でいかに重要かを解説する。そして、コミュニケーションの不充分さから起きたトラブルの事例を踏まえ、コミュニケーション能力・知識を高めるための具体的内容について説明する。

【授業の目標】

ビジネスとは何かということについての基礎知識を持ってもらうと共に、コミュニケーションの大切さと必要とされる能力・知識を理解する。

【授業計画】

小池弘道、國信潤子、福本明子の3名がオムニバス形式で講義を担当する。

小池弘道担当：

コミュニケーションの不足で起きるトラブル、コミュニケーションの取り方と限界、ビジネス社会でのコミュニケーション、国際社会でのチャレンジの仕方～郷に入って、郷に従う？

國信潤子担当：

日本のビジネス界にある男女(ジェンダー間)コミュニケーション・ギャップと多様な格差、会社社会にみるセクシュアルハラスメント、「家庭も仕事も」：無償労働と有償労働のはざま、先進諸国のジェンダー関係は？

福本明子担当：

コミュニケーションとは、意味とは、文化とコミュニケーション、視点を変えることとビジネスの関係

【評価方法】

各担当者の評価と授業参加や出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない(必要に応じて資料配付)

【参考文献・資料】

日本の常識はどこまで通じるか(ジョリー佐々木幸子・小池弘道著 風媒社)

ビジネスとジェンダー II

北仲千里

【授業の概要】

産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響などが異なる場合がある。特に日本社会においては女性の経済的地位はまだ脆弱であり、雇用機会均等法の実施も不十分である。近年の経済のグローバル化のなかで職域、職階、賃金のジェンダー格差にどのような変化が見られるかについて統計データから考察する。また、産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点をもって考察する。さらに職場の人間関係における問題、賃金格差、地位格差、セクシュアルハラスメント訴訟などについて、その内容について詳細に検討し、今後を展望する。

【授業の目標】

現代でも男女の平均賃金には大きな差があり、性別(ジェンダー)は、私たちの人生設計や職業選択などにも大きな影響を与え続けています。この講義では、「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを、社会学的な方法で考えていきます。講義を通じて、社会学的な見方を身につけること、統計データの読み方を身につけることも目指します。

【授業計画】

1. ジェンダーという概念～その1「性差とは何か」
2. ジェンダーという概念～その2「性別とは何か」
3. 職業と現代人～職業分類の基礎知識
4. 家計支出と収入の基礎知識
5. サラリーマンにとっての学歴と賃金
6. 性別と学歴と賃金
7. 社会や企業の子育て支援
8. 「差別」と「区別」を考える～その1
9. 「差別」と「区別」を考える～その2
10. 職場でのセクシュアル・ハラスメント～その1
11. 職場でのセクシュアル・ハラスメント～その2

【評価方法】

毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

【テキスト】

特に指定しません。講義時に毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学(伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 有斐閣アルマ)
竹中恵美子が語る労働とジェンダー(関西女の労働問題研究会 ドメス出版)

異文化コミュニケーション I

福本明子

【授業の概要】

本講義では、「文化」を比較的静止的又は相対的なものとして捉え、そのコミュニケーションに与える影響を学習する。「文化」「コミュニケーション」「意味」「価値観・世界観」「言語・非言語メッセージ」などの概念を、ゲームや自らの体験を用いて振り返り、日常の生活に暗示的に存在している価値観・信条・規範などに気づき、これらのコミュニケーションへの影響を学ぶ。このことにより、自らの視点がいかに文化・社会の影響を受けているのか気づき、今後、自他の文化を尊重しながら、逸脱もできるか探求する。

【授業の目標】

「文化」のコミュニケーションへの影響を学習し、様々な視点や価値観の存在を認識することを目的とする。

【授業計画】

以下のテーマに沿って学習する。

1. 「コミュニケーション」、「文化」とは
2. 異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
3. 意味と文化
4. 価値観と文化
5. 言語コミュニケーションと文化
6. 非言語コミュニケーションと文化
7. ステレオタイプ・偏見・差別
8. 倫理と文化

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

異文化コミュニケーション II

福本明子

【授業の概要】

本講義では、「文化」を構造的な格差を伴うものとして捉え、異文化コミュニケーションIで学習した「文化」の概念を再検討する。力の性質や機能を学び、異文化コミュニケーションの複数のアプローチを学習し、人をカテゴリーに分類して理解することを検証する。具体的な事例として、英語や方言への言語に関する「力」とコミュニケーションの関係や、アメリカ・日本社会でマジョリティーからマイノリティーへ関する「力」とコミュニケーションについて学ぶ。多文化共生社会へ向け、コミュニケーションを通じて個人の社会への関与・貢献の可能性を探求する。

異文化コミュニケーションIを履修または同程度の知識を有すること。

【授業の目標】

「力」のコミュニケーションへの影響を、構築主義・批判主義的視点から学習することを目的とする。

【授業計画】

以下のテーマに沿って異文化コミュニケーションへの社会的「力」の影響を学習する。

1. 「コミュニケーション」、「力」とは
2. 異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
3. カテゴリーで人を理解することについて、社会的現実の構築
4. 言語と「力」：英語と方言についての考察
5. 社会と「力」：スポーツと人種、日本人論、アイデンティティー
6. グローバリゼーションと多文化共生

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多文化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子 監修 三修社）

ビジネスと社会

國信潤子 原山恵子

【授業の概要】

ビジネス・労働環境における人間関係の諸側面を法制、社会階層、ジェンダー関係など産業社会学的視点および法制度から考察する。近年女性の社会参画が社会のあらゆる側面で進展している。しかし雇用均等法などの法制は日本のビジネス界に十分に浸透しているとは言えない。そこで2名の講師によるビジネス活動の多面的な考察をおこなう。

(オムニバス方式)
(國信潤子教授)
社会学的統計データ、産業社会学、男女共同参画などの領域でビジネス、労働環境におけるジェンダー関係を紹介する。
(原山恵子弁護士、兼任講師)
法制面でのビジネス・労働環境の変容、特にビジネス・労働と家庭生活の両立におけるジェンダー関係の考察を行う。日本社会における企業組織、家庭におけるジェンダー関係を法制面から事例的に考察し、雇用機会均等法、家族関係の変容などについて解説する。

【授業の目標】

産業社会学の領域で特に労働環境の変化、雇用の平等について基礎知識を得ること。また事例的に訴訟などからみる男女地位・賃金格差の修正がどのように進展しているかを事例的に学ぶ。それらの領域の国際比較データからその異同を分析する。

【授業計画】

ジェンダーの概念を紹介し、産業社会学の領域でジェンダーに敏感な視点とは何かを学ぶ。またその社会的現象について日本の現状を紹介する。各種統計、調査報告、企業における職域、職階別統計データなどから日本のビジネス・労働環境にみるジェンダー区分を考察する。國信が最初の4回、ついで原山弁護士によって6回、最後にまとめとして國信が2回、日本のビジネス界におけるジェンダー領域の課題を講じる。
講師2名によるオムニバスである。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行う、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし。随時資料を配布。

【参考文献・資料】

ジェンダーと職業（亀田ほか 東洋経済社）
新しい産業社会学（犬塚編 有斐閣）
コース別雇用管理と女性労働（渡辺 峻著 中央経済者）

ビジネスマナー I (国内)

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

【授業の目標】

企業活動におけるビジネスマナーの意味を理解し、組織人としてのコミュニケーションスキルを実践的に獲得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション 職業とビジネスマナー
- 第2回 企業の存立意義
- 第3回 経営組織について
- 第4回 仕事の基本原則とすすめ方 ～マネジメント・サイクル～
- 第5回 職場の人間関係とコミュニケーションの理解
- 第6回 職場における話し方、言葉づかい
- 第7回 対人接遇の基礎（1） ビジネス基本行動、来客応対
- 第8回 対人接遇の基礎（2） 訪問のマナー、紹介の原則
- 第9回 対人接遇の基礎（3） ビジネス電話のマナーと実際
- 第10回 ビジネス文書の作成（1） 文書作成のポイント、社内文書
- 第11回 ビジネス文書の作成（2） 社外文書、E-mail
- 第12回 ファイリングの基礎知識
- 第13回 会議の知識
- 第14回 慶弔と贈答の心得
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況・課題・期末試験などによって総合的に評価する。

【テキスト】

社会人のパスポート（東福賢監修 嵯峨野書院）

ビジネスマナー II (海外)

ジョリー幸子

【授業の概要】

当講座は、21世紀の国際ビジネスパーソンを目指す学生が、海外との取引や異文化における習慣や価値観などを学習することによって、国際ビジネスマナーや、世界に共通するプロトコルについて広範囲にわたり研鑽を積み、将来の国内、海外での商取引をはじめ、国際交流におけるコミュニケーションでの正しいマナーを身につける。

【授業の目標】

海外とのビジネス行動において、日常何気なく行われる簡単な握手や自己紹介、アポイントメントの取り方を始め、数多くの事柄の中で、日本人が慣れていない国際的なマナーやプロトコルについて国ごとにその特徴を考える。

【授業計画】

1. Orientation
2. 序章： 国際儀礼の基本的な考え方
3. 第1部： 日常生活【社交面】のDoとDon't
4. 第2部： ビジネス【オフィス】のDoとDon't
5. まとめ
6. 期末試験

【評価方法】

期末試験、英語を使用する際のPresentation 又はレポート、授業への出席・関与度を総合的に評価判断する。

【テキスト】

国際ビジネスのためのプロトコル (寺西千代子 有斐閣 2000)
世界60カ国比較文化事典 (T. モリスン、W.A. コナウエイ、G.A. ボーデン、マクミラン ランゲージハウス 1999)

【参考文献・資料】

海外のビジネスマナー (ジェトロ 【日本貿易振興会】編 2003)

ビジネス文書英語

ジョリー幸子

【授業の概要】

経済のグローバル化の進み中、英文ビジネスレターを書く機会は間違いなく増えている。手紙、ファックス、Eメールと形は異なっても、ビジネスレターにおいて最も大切なものは「50%が文法、のこりの50%は書き手の態度」ともいわれており、明確・簡潔・誠実・友好的に書くことが基本となる。読みやすく、プロフェッショナルにみえる英文ビジネスレターの書き方を、豊富な事例に学び、練習することを通じて、マスターする。

【授業の目標】

ビジネス英語の基礎知識から貿易英語の初歩段階までのビジネス英語を学習することを本講座の目的とする。

【授業計画】

当コースは下記の3つの部分から構成される。

- 第一部 英文ビジネス通信文の基礎： ビジネスレター、社内メモ、及び電子メールの構成とレイアウト、またビジネス通信文の本文を書く際の心構えや辞書の選び方
- 第二部 社交通信文： 帰国後の礼状、紹介状、祝い状など取引を円滑に進めるためのビジネス文書を学習。英文履歴書の書き方も学ぶ
- 第三部 貿易通信文： 上記で学んだ知識を基礎として、貿易取引に關するビジネスレターを、貿易取引の流れに沿って学習する

【評価方法】

宿題、期末試験、出席率などを総合的に評価し、決定する

【テキスト】

初めて学ぶビジネス英語： International Business English for Beginners, 田中武雄著、seibido, 1999

【参考文献・資料】

国際ビジネスコミュニケーション入門 (English for Business Communication), 亀山和夫、八尾昇編著、成美堂、1998

An Introduction to Business English: 入門ビジネス英語、林純三著、成美堂、1993

交渉術/ディベート

福本明子

【授業の概要】

本講義は、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とする。最初に交渉術の全体像として、論理的な議論以外の要素(文化・感情・面子など)の交渉・議論への関連を学習する。その後はディベートのルールを学習し、議論の組み立て方、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、言語操作の俊敏性などの訓練をディベートの試合を複数回繰返しながら、技能向上を目指す。

ディベートで用いる言語(日本語又は英語)は、履修者の希望を聞いて決定する。

【授業の目標】

- 1) ディベートを通してクリティカル・シンキングを学び、身の回りの情報を論理・批判的に分析できる技能を修得すること。
- 2) 自らの主張を簡潔にまとめて話す技能を向上させること。

【授業計画】

以下の項目を中心に学習・訓練を行う。

1. 「ディベート」、「交渉」、「説得」とは
2. ディベートのルール、フォーマットの学習
3. 日本語ディベート
4. 「アーギュメンテーション」、「クリティカル・シンキング」とは
5. 調査・リサーチ
6. 論証・検証のポイント
7. ディベートの試合(3回)と復習

【評価方法】

出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、試合の結果、グループ内の相互評価などを総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

英語プレゼンテーション

福本明子

【授業の概要】

本講義は、プレゼンテーションに関連する知識を学び、プレゼンテーションの実践・復習を通してプレゼンテーションの技能向上を目指す。

学習項目は、スピーチの構成、言語・非言語による信頼性の構築や聴衆分析や意味付与等です。毎月1回プレゼンテーションを実施し、学習した情報を実践し、個人が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探求する。プレゼンテーションは録画し、改善点を各自レポートで分析し、訓練を繰返す。学期末にはパワーポイントを用いたプレゼンテーションを英語で行う。

プレゼンテーションでの使用言語は、初回の自己紹介と最後の説得のプレゼンテーションは英語で、中2回の話し方に関するプレゼンテーションと情報提供のプレゼンテーションは、日本語又は英語を各自が選択する。

【授業の目標】

学習・実践・復習のサイクルを通じて、プレゼンテーション技能を向上させることを目指す。

【授業計画】

以下のテーマに沿って学習する。

1. コミュニケーション・モデル
2. 自己紹介プレゼンテーションと相互評価のポイント
3. 「意味付与」とは
4. 言語メッセージと非言語メッセージ
5. 情報提供、説得のプレゼンテーション
6. スピーチと自分らしさ
7. スピーチと文化
8. パワーポイントとプレゼンテーション

【評価方法】

出席率、授業への参加度合いやプレゼンテーションやクラスメートとの相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

Communication Strategies I

JOLLY, James A.

【Course description】

This course is aimed at aiding students to develop their abilities to communicate more effectively in English as used in international business. Lessons will emphasize training and practice in listening and speaking using model conversations with practical application in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies in order to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

【Course objectives】

1. To increase students' communication abilities in international business situations, with particular emphasis on oral communication skills.
2. To provide practical training and development of the students' abilities to express their thought and ideas freely and assertively.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

Communication Strategies II

JOLLY, James A.

【Course description】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The objectives of this course are to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include practice in written business communications in addition to business conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Course objectives】

1. To increase students' understanding of various oral and written business communications and to increase their abilities to properly handle such.
2. To equip students with communication skills to deal with international business situations.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネス外書講読 I

小池弘道

【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の日本および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

【授業の目標】

英字新聞などのやさしいビジネス文が、辞書を片手に読めるようになる。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど。企業の経営状況・・・決算状況、収益性分析、倒産など。企業再編成・・・合併、統合、提携など。マーケティング・・・市場調査・解析、新製品開発など。新技術研究。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネス外書講読 II

小池弘道

【授業の概要】

ビジネス外書講読Iでの学力向上を踏まえて、新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナル、ハーバードビジネスレビューなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として使い、さらにレベルアップを図る。

【授業の目標】

英字新聞などのビジネス文が、辞書を使って読めるレベルになる。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。世界の政治、経済、外交などに関するニュースを読んで理解する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合、法律問題、環境問題などに関する分野も取り入れて講義していく。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネス口語英語 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

本講義は国際ビジネスに不可欠な英語表現を学び、主として取引の相手との対話、交渉などの実務的口語技術を習得することを目的とする。

【授業の目標】

国際言語として世界の国々のビジネス・パーソンとの意志の疎通に不可欠なビジネス英語のスキルの中で特にListeningとOral Communicationに重点を置き、基本的なやりとりが習得できることを目標とする。

【授業計画】

Course Orientation

Unit One: Making Introductions

- L. 1 Introducing Yourself to a Business Colleague
- L. 2 Making a Self-Introduction at a Business Meeting
- L. 3 Introducing Business Guests to Colleagues

Unit Two: Taking and Giving Messages

- L. 4 Leaving a Message on an Answering Machine or Voice Mail
- L. 5 Leaving a Message by Phone
- L. 6 Taking a Message in Person for a Colleague

Unit Three: Going on an International Business Trip

- L. 7 Getting Ready to Go: Checking-In at the Airport
- L. 8 Getting through Immigration and Customs
- L. 9 Settling into your Hotel

Unit Four: Everyday Business Dealings

- L. 10 Conducting a Business Meeting
- L. 11 Making Appointments with Customers
- L. 12 Making Small-Talk with Colleagues

Final Examination

【評価方法】

期末試験、出席率、レポート、授業への参加状況など総合的に判断評価する。

【テキスト】

Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English (Todd Jay Leonard, Seibido, 2004)

【参考文献・資料】

グローバル・ビジネス英語教本 *Global Business Communication*, (土農田義明 南雲堂 1999)
国際ビジネスコミュニケーション入門 *English for Business Communication*, (亀山和夫、八尾晃 Seibido 1998)

TOEFL (Writing)

JOLLY, James A.

【Course description】

本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一步一步学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質間に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

【Course objectives】

1. To increase students' abilities to formulate proper responses about given topics and to draft that response in a properly constructed writing.
2. To provide practical training in preparing and writing expressions of personal opinion or comment in English.
3. To review the current requirements for the written parts of the TOEFL test and provide instruction on such.

【Course schedule】

A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:

1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

【Assessment】

Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests. Practice written tests will be given at mid-term and at the end of course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネス口語英語 II

JOLLY, James A.

【Course description】

The objectives of this course are to provide students with continued study and practice of English in international business situations. Lesson materials will encourage students to expand their abilities to express themselves clearly and confidently. Special supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Course objectives】

1. To continue development of the students' oral and written business English communication skills and to increase their abilities to properly handle such.
2. To increase the students' functional communication abilities and to build their confidence in handling international business situations.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover the weekly textbook assignments.

Unit Three: Going on an International Business Trip

L. 7 -- Getting Ready to Go: Checking-in at the Airport

L. 8 -- Getting Through Immigration and Customs

L. 9 -- Settling into your Hotel

Unit Four: Everyday Business Dealings

L. 10 -- Conducting a Business Meeting

L. 11 -- Making Appointments with Customers

L. 12 -- Making Small-Talk with Colleagues

Unit Five: Business in the 21st Century

L. 13 -- Writing and Responding to Business-Related E-Mails

【Assessment】

Students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) mid-term quiz and (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English (Todd Jay Leonard, Seibido 2004). Supplementary instruction material will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

産業社会学概論 (ジェンダー)

國信潤子

【授業の概要】

本講座は産業社会学と開発社会学の2領域の接点についてジェンダーに敏感な視点から考える。まず日本国内のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観し、国境を越えた移住労働者の増加の実態を検討する。次に異なる文化背景を持つ人々の職場での人間関係の問題を紹介し、ビジネス関係や開発協力関係を形成するときに必要な異なる異文化理解について考える。近年の経済活動は環境に配慮した「持続可能な開発」「基本的生活ニーズ」の意味をジェンダーに敏感な視点とともに学習する。

【授業の目標】

本講座は産業社会学と開発社会学の領域の接点にある。

- 1) 日本のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観する。
- 2) 異なる文化背景を持つ社会:特に南北社会問題とビジネス関係や開発協力関係の実態を知る。
- 3) 異文化理解について、ジェンダーの視点から各種統計データから比較検討する方法を理解する。
- 4) 近年の国内外の移住労働者の国境を越えた増加の背景を理解する。
- 5) 経済活動や開発協力活動は環境に配慮し「持続可能な開発」が基本となる。ジェンダーに敏感な視点とともに環境配慮について認識する。詳細は授業時に資料配布。

【授業計画】

講座の日程

講座第1, 2回目:ジェンダーという概念を紹介し、日本社会のジェンダー関係の特徴を検討。

講座第3, 4, 5回目:近年の国際法における男女平等法を紹介。国連女性の地位委員会、ILO他

講座6, 7回目:開発途上国におけるジェンダー関係関連の統計資料を検討。主に南北社会問題を考察する。

講座第8, 9回目:開発途上国における生活、教育、労働などの実態について事例紹介。詳細は授業時に資料配布。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし 資料を随時プリントとして配布する

【参考文献・資料】

新しい産業社会学(犬塚他 有斐閣アルマ刊)
ジェンダーと開発(田中ほか 国際協力出版会刊)
人間開発報告書(UNDP 国際協力出版会刊)

組織心理学

石田寅生

【授業の概要】

組織とは何かを考える。個人は組織に参加することで、相互に影響しあいながら組織との関係を持つことになる。個人と組織との係わり合いの中から生れてくる問題や、組織そのものをどのように理解すればよいのか。社会学の基礎的知識を学習した上で、組織の実体を捉え、集団から個人へ、個人から個人への影響のあり方について研究をする。

【授業の目標】

目前に社会人となる事を控えた現在、社会人としての心構えは出来ているだろうか。社会は組織によって運営されている。近い将来にその組織の一員として活動するためには、組織とは何かを知らねばならない。

少なくとも、基本的な組織心理学概論だけでも学習し、更に個人と組織の関係をj知る事は、今後の組織人として、大きな意味を持ってくるであろう。授業において、個人が組織に参画し、それらの成員となるために必要な知識や考え方を修得する。

講義は「組織心理学概論」のテキストに準じるが、多くの組織問題を引用してのケーススタディをしていく。

【授業計画】

1. 組織とは何か（組織と人との関係を概観する）
2. 組織の目的と行動システム（個人と集団、環境の影響）
3. 組織の機能と成果（組織モチベーションとは、特に個人のモチベーションについてケーススタディを随時行う）
4. 組織の意志決定システム（問題設定とは、いかにして成立するか、成立させるか）
5. 組織の構成と多様化（個人差、社会環境、その他の影響）
6. 組織と個人の葛藤（人間関係の葛藤とストレスは避けられないが、いかに対処するのか）
7. 組織（個人）の成功と衰亡（リーダーシップとはどこから生まれるのか、ドロッカーの提言を考える）

【評価方法】

出席状況（20%）、レポート（80%）

【テキスト】

組織心理学概論（著者 石田寅生）

【参考文献・資料】

組織の心理学（田尾雅夫 有斐閣ブックス）
成功の技法（田尾雅夫 中公新書）
組織の盛衰（堺屋太一 PHP研究所）
イノベーションと企業家精神（P.Fドロッカー ダイヤモンド） 以上

ストラテジーベーシック

浅井敬一郎

【授業の概要】

企業は変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（1）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（2）いかに分業し調整するかという組織構造、組織形態の選択、（3）いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これらのうち、とくに前者の2つのについての概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

【授業の目標】

ビジネスストラテジーにつなげる基礎的な科目として、経営戦略論の基礎を学ぶとともに、基本的な組織形態について学習する。

実際の企業ケースにおける簡単な戦略分析ができることを目標とする。

【授業計画】

- | | |
|---------|--|
| 第1回 | ガイダンス |
| 第2～10回 | 企業の経営戦略
・経営戦略の体系
・企業ドメイン
・成長戦略
・競争戦略 |
| 第11～13回 | 企業の組織形態 |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | テスト |

【評価方法】

レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献・資料】

適宜指示する

異文化トレーニング

ジョリー幸子

【授業の概要】

21世紀の国際ビジネス社会において、文化の異なるビジネスパーソンと友好的かつ建設的共生共栄を成し遂げ為にコミュニケーションするには、どのような思考や、価値判断、そして態度および言語、非言語の両面でのスキルが必要なのかを解説し、実際にそのような態度を養成し、スキルを習得するためのトレーニングエクササイズを通して学ぶ

【授業の目標】

当コースでは、異文化トレーニングの分野の基本的な理論を踏まえた上で、教科書の複数の著者たちの実務経験、及び、授業担当教師の海外での長年にわたる在住経験を通して、異文化からのビジネスパーソンたちとの取引におけるコミュニケーションの効率化を図ることを目的とする。

【授業計画】

- 第1章 なぜ今、異文化コミュニケーションか
- 第2章 コミュニケーションとは何か: コミュニケーションのメカニズム
- 第3章 ことばによるコミュニケーション
- 第4章 ことばのないメッセージ: 非言語コミュニケーション
- 第5章 見えない文化: 価値観と文化的特徴
- 第6章 異なる文化のとらえ方・接し方: 異文化の理解
- 第7章 異文化との出会い: カルチャーショックと異文化適応

【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、期末試験、及び出席率などを総合的に判断し決定する

【テキスト】

異文化トレーニング: ボーダレス社会を生きる、八代京子、町恵理子、小池浩子、磯貝友子、三修社、1998

【参考文献・資料】

世界60カ国比較文化事典: Kiss, Bow, or Shake Hands, T.モリスン, W.A. コナウエイ, G.A. ボーデン 著, 幾島幸子訳, マクミラン ランゲージハウス。1999

異文化へのグローバルガイド: 文化が衝突するとき (When Cultures collide), リチャード・ルイス著, 阿部珠理訳, 南雲堂、

マーケティングベーシック

大塚英揮

【授業の概要】

「移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。」マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激しい販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業が行っているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

【授業の目標】

マーケティングミックス（製品、価格、広告戦略）に関する基礎理論を学び、それを用いて現実のケースを分析できる力を身につけること。

【授業計画】

1. マーケティングとは何か
2. 買い物行動を振り返る（1）
3. 買い物行動を振り返る（2）
4. CMについて考える（1）
5. CMについて考える（2）
6. モノの値段について考える（1）
7. モノの値段について考える（2）
8. 製品について考える（1）-製品ライフサイクル
9. 製品について考える（2）-ブランドの基礎知識
10. サービスマーケティングの基礎知識
11. グローバルマーケティングの基礎知識
12. 売り場をめぐる闘い（1）
13. 売り場をめぐる闘い（2）
14. マーケティングミックス-最適な組み合わせを探せ
15. まとめ

【評価方法】

毎回の小テスト（50%）と期末テスト（50%）の合計で評価します。

【テキスト】

自作プリント

【参考文献・資料】

わかりやすいマーケティング戦略, 日経マーケティングジャーナル

マーケティングストラテジー

大塚英揮

【授業の概要】

本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、この目標を達成するためにとられる戦略的手法について理解を深めていく。先ず企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得し、その上で個別企業が操作可能な戦略手段である価格、製品、マーケティングチャネル、広告の各手段をそれぞれ取り上げ、これら各手段に関する具体的戦略の理解を深めていく。

【授業の目標】

戦略的思考法（競争の場である市場の構造を分類し、実現可能な戦略の選択肢を想定、最適な戦略を選択する）を習得する。さらに価格、製品、広告の各戦略手段をどう実行していけば良いのか、現実のケースを素材に意志決定できる力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 戦略的思考法（1）
3. 戦略的思考法（2）
4. 戦略的思考法（3）
5. 市場構造とマーケティング戦略
6. 戦略的ブランドマネジメント（1）
7. 戦略的ブランドマネジメント（2）
8. 戦略的ブランドマネジメント（3）
9. 知識創造と製品開発（1）
10. 知識創造と製品開発（2）
11. 戦略的価格マネジメント
12. 消費者心理と広告戦略（1）
13. 消費者心理と広告戦略（2）
14. 関係性マーケティング

【評価方法】

平常点（50%）と期末試験（50%）で評価します。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

ビジネスストラテジー

河合篤男

【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

【授業の目標】

経営戦略のコンセプトを学ぶとともに、それが組織プロセスから生まれるものであることを理解する。人間の行動や思考の産物であるという特性を理解することで、より実効性の高い戦略論の体得を狙う。

【授業計画】

0. イントロダクション
1. 経営戦略について（その1）
2. 経営戦略について（その2）
3. 企業のドメイン
4. ドメインの変化
5. 企業革新のモデル（その1）
6. 企業革新のモデル（その2）
7. 資源展開（その1）
8. 資源展開（その2）
9. 企業とパラダイム
10. パラダイムの逆機能
11. 企業革新の新機軸
12. 企業革新と経営コンサルタント

【評価方法】

試験中心

【テキスト】

『企業革新のマネジメント 破壊的決定は強い企業文化を変えられるか』（河合篤男 中央経済社）

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する

国際ビジネストレンド

真田幸光

【授業の概要】

国際ビジネストレンドの講義に於いては、国際化の進む日本経済の現状を鑑み、日本経済の動向、そして日本企業の国際戦略を意識しつつ、Currentな国際経済情勢を学んでいくことを大きなテーマとしている。従って、その題材は新聞、雑誌等のマスコミ報道や日本政府、国際機関の示すデータや情報から取り上げ、これを担当教員が解説した上で、日本経済に与える影響や日本企業に対するビジネス・チャンスやビジネス・リスクなどについて考察、その上で可能な限り、受講生との意見や視点を引き出すことを心掛け、授業を展開していくことを予定している。

【授業の目標】

この授業は学生諸君が社会人となる際に必要最低限な国際情勢に関する基礎知識を習得することを第一の目的としている。また、現状の国際情勢を概観、その上で国際情勢分析を行う為のスキルを習得することを更なる目標と定めている。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、入門基礎レベル確認試験
- 第2回 国際経済情勢下に於ける日本経済概況の解説
- 第3回 最新米国経済事情の解説
- 第4回 最新欧州経済事情の解説
- 第5回 最新北東アジア経済事情の解説
- 第6回 最新中国経済事情の解説
- 第7回 最新東南アジア経済事情の解説
- 第8回 最新国際経済事情概要の総括
- 第9回 日本企業の国際ビジネス展開概要の解説
- 第10回 日本企業の対外投資戦略に関する解説
- 第11回 日本政府・日本企業の外資誘致戦略、政策に関する解説
- 第12回 日本の地方自治体政府の地域企業国際化支援策に関する解説
- 第13回 日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ1）
- 第14回 日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ2）
- 第15回 理解力確認試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

プロダクションマネジメント

浅井敬一郎

【授業の概要】

この授業では、まずプロダクションマネジメント（＝生産経営）が必要となった背景について概観する。次にどのような生産システムが誕生したかについて検討する。さらにグローバル化が進展する中で、製造業における競争力の鍵はなにかについて考察する。

【授業の目標】

プロダクションマネジメントが誕生する背景を理解した上で、プロダクションマネジメントがどのように変容したかを理解する。その上で製造業の意義について理解を深め、さらに国際化の進展する中で、日本のモノづくりの方向について各自の考えを深める。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 生産経営の誕生した背景
- 第3回～6回 生産システムとスキル
 - ・テイラーシステム
 - ・フォードシステム
 - ・トヨタシステム
- 第7回～9回 日本的生産システムとスキル
- 第10回～11回 新たな生産システム
- 第12回～13回 IT化とアーキテクチャ
- 第14回～15回 グローバル化と日本の製造業の方向

【評価方法】

出席、講義での発表、レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

特に指定しない、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

能力構築競争（藤本隆宏著 中公新書）
ものづくりの技能（小池和男他著 東洋経済新報社）
日本のもの造り哲学（藤本隆宏他著 日本経済新聞社）
生産マネジメント入門I・II（藤本隆宏著 日本経済新聞社）
MOT入門（延岡健太郎著 日本経済新聞社）

ビジネスマネジメント

辻村宏和

【授業の概要】

起業ブームの裏には低成長率もあることを見逃してはならない。財務テクニックや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良きビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友（兄弟）の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとっただけのブローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を「組織の病氣」として、事例を交えながら理論的に学習する。

【授業の目標】

起業前後で発生するヒューマン・ファクターを起因としたトラブルを数多くの事例によって紹介しつつ、それらの組織論的な説明ロジックを理解すること（詳細は授業にて解説する）。

【授業計画】

主要なテーマは以下の通りである。

1. 組織の病氣（トラブル）の特異性
2. 強い組織と非公式組織
3. 日本的経営の再検討
4. 「任せてくれる」組織の怖さ
5. 「参謀」の効用および危険性
6. 「目標による管理」の思わぬ落とし穴
7. 会議（チーム）の予想外の非効率性
8. 「権力（権限）－権威」図式の有効性
9. 二代目経営者のリスク
10. ワンマン経営者の功罪
11. その他

【評価方法】

期末試験の結果に講義中に取得したポイント数を加味する。

【テキスト】

組織のトラブル発生図式（辻村宏和著 成文堂）

リテールマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

他国に比べて厳しいといわれる「流通規制」に守られていた小売業界も、大店法撤廃、酒販免許緩和などの規制緩和の結果、年々競争が激化する傾向にある。セブンイレブンVSローソンのようなコンビニという同業態同士の競争のみならず、ユニクロなどの急成長する専門店とイトーヨーカ堂のようなGMS間の異なる業態間の競争も活発化している。激化する競争にどう対応すればよいのか。本講義では小売業に関する基礎知識を学習した上で、小売業のとりうる競争戦略のパターンについてケースを用いて、より実践的に考察する。

【授業の目標】

(1) 出店、店舗運営 (2) 小売業態の現況、(3) 小売とメーカーとの取引関係、外資系小売との競合関係などに関する基礎知識の習得。

【授業計画】

- 第1回 小売とは何か
- 第2回 小売の実態について考える (1) 一般小売店と専門店
- 第3回 小売の業態について考える (2) GMSと百貨店
- 第4回 小売の業態について考える (3) コンビニエンス
- 第5回 小売の「輪」は回る－業態変化のプロセス
- 第6回 小売の出店戦略 (1)
- 第7回 小売の出店戦略 (2)
- 第8回 売り場を「創る」(1)
- 第9回 売り場を「創る」(2)
- 第10回 小売のIT戦略
- 第11回 メーカーと小売のパートナーシップ (1)
- 第12回 メーカーと小売のパートナーシップ (2)
- 第13回 小売の日米比較
- 第14回 黒船襲来－流通外資の戦略 (1)
- 第15回 黒船襲来－流通外資の戦略 (2)

【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%) で総合的に評価。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

ベーシック 流通と商業（原田英生・向山雅夫・渡辺達朗 有斐閣）

マーケティングリサーチ

石原 守

【授業の概要】

企業の市場創造活動であるマーケティングは、その意思決定過程において生活者や市場環境に関する多種多様なデータ情報を必要としている。その情報を組織的かつ体系的に収集・記録・分析し、戦略策定や課題解決に反映させる活動がマーケティング・リサーチである。本講義では、リサーチの基礎的な考え方と統計的な分析手法の習得に重点を置きながら解説していく。

【授業の目標】

マーケティングによる市場構想の命題は「最適性の追求」である。この本質的課題にマーケティング・リサーチがどのような役割を果たしているか？これを理解してもらうことが本講義最大のねらいである。

【授業計画】

1. ガイダンス（講義内容概説、講義の進め方・受講上の留意点等々）
2. マーケティング・リサーチとは何か？（その意義と限界）
3. マーケティング・リサーチの手法（1）定量調査とその特徴
4. マーケティング・リサーチの手法（2）定性調査とその特徴
5. マーケティング・リサーチの手法（3）インターネット・サーベイ
6. 調査と個人情報保護（「匿名社会化」時代における調査のあり方）
7. マーケティング・リサーチの手順（調査の企画、実施、分析と報告）
8. 調査票設計の一般原則（質問の構成内容に配慮すべき要件）
9. 調査票の構成要素と各種回答形式の設計方法
10. サンプリングの理論（1）その考え方と確率的・非確率的抽出方法
11. サンプリングの理論（2）“良いサンプル”を抽出するための条件
12. 統計的推定（点推定と区間推定、平均値・比率の推定）
13. 統計的検定（標本平均値・標本比率の差の検定）
14. 総括（ケース・スタディ）
15. 試験

【評価方法】

期末試験の成績、レポート課題の提出、及び出席状況により総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用せず。毎回の講義時に「講義プリント」を配布する。

【参考文献・資料】

初回の講義時に「文献リスト」を配布する。

統計基礎

元吉忠寛

【授業の概要】

本講義では、社会調査やマーケティング・リサーチを行う上で必要となる統計の基礎（どのような分析の際にどのような統計手法を使用するか、また結果をどのように解釈するか）について、表計算ソフトExcelや社会科学用統計パッケージSPSSを利用しながら学びます。

【授業の目標】

統計学に関する基本的な知識を学習しながら、パソコンを用いたデータ処理スキルを身につけ、分析方法について理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス・統計学とは
2. 統計データとその分布
3. 分布の特徴をあらわす指標
4. Excelを用いた統計処理 (1)
5. SPSSによる統計処理 (1)
6. 相関係数
7. Excelを用いた統計処理 (2)
8. 推測統計とは
9. 平均値の差の検定
10. SPSSによる統計処理 (2)
11. 回帰分析
12. SPSSによる統計処理 (3)
13. カテゴリ変数の関連分析
14. 総合演習課題
15. 期末試験

【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

民法入門

岡田千絵

【授業の概要】

私法の一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わりが深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実際の解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要な限りで民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

【授業の目標】

具体的な事例を通して、法律を身近に感じ、法的知識・思考能力を身につけて頂くことを目標とする。

【授業計画】

- 1 民法とは（民法の基本原則について）
- 2 契約の成立・意思表示・代理等
- 3 物権・担保物権
- 4 債権総論（保証等）
- 5 債権各論（貸借等）
- 6 不法行為と損害賠償
- 7 親族法（夫婦、親子）
- 8 相続法

【評価方法】

レポートの提出により評価する。

【テキスト】

民法入門（吉田和夫著、学陽書房）

民法

石畔重次

【授業の概要】

現代社会においては法との関わりなしに生活していくことはできない。なかでも民法は最も身近な法である。売買や賃貸借、雇用などの契約、交通事故などの不法行為、物の所有などの物権、さらには家族関係や相続まで、社会生活は基本的に民法によって規律されている。本講では、具体例を交えながら、社会人として必要な民法の基礎知識を習得していく。

【授業の目標】

民法の基礎的な知識を修得し、法的な思考能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 民法の基本原則
- 2 民法総則…意思表示と法律行為、代理、無効と取消、時効、法人
- 3 契約総論…契約の成立と効力。債務不履行と契約の解除
- 4 契約各論…売買、贈与、賃貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任、雇用
- 5 債権総論…債権の種類、債務不履行、責任財産の保全、債権譲渡、債権の消滅
- 6 不法行為
- 7 事務管理と不当利得
- 8 物権法…所有権、用益物権、占有権
- 9 担保物権法…抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保
- 10 親族法…夫婦、親子
- 11 相続法…法定相続、遺言、遺産分割

【評価方法】

試験またはレポートの提出によって評価する。

【テキスト】

民法への招待（池田真朗著 税務経理協会）

会社法 I

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、まず会社の種類を取り上げ、社員の責任の態様について学習する。株式会社の設立・運営に関して会社法はどのような考え方に基づいてどのような規定を設けているのか講義する。株式に係る規定についても解説する。

【授業の目標】

2006年5月から施行された会社法において、従来の商法上の規定から変更された点を重点的に解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 総論・設立（3週）
- 2 法人格否認の法理
- 3 会社法の改正経過（3週）
- 4 会社の設立（2週）
- 5 株式（3週）
- 6 株式の譲渡（2週）
- 7 試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著 北樹出版 2006年4月刊行）
六法（会社法が掲載されているもの）を持参されたい。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

会社法 II

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、株式会社の機関と株式会社の運営に係る規定を中心に取り上げる。株式会社の経営がいかなる者に任せられ、その者にどのような義務・責任が課せられるかなど、会社の組織法を中心に講義する。また、企業再編・企業結合等についても可能な限り言及する。

【授業の目標】

会社法Iに引き続き、株式会社の機関、会計・監査、企業再編などにおける会社法の諸規定を解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 株主総会（2週）
- 2 株主総会決議の瑕疵
- 3 取締役と取締役会（2週）
- 4 取締役の義務・責任（2週）
- 5 株主代表訴訟（2週）
- 6 代表取締役
- 7 監査役・会計監査人
- 8 企業再編・企業結合
- 9 委員会設置会社（2週）
- 10 試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著 北樹出版 2006年4月刊行）
六法（会社法が掲載されているもの）を持参されたい。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

モジュール

浅野敬志 石川雅之 石坂綾子 上原 衛 大塚英揮 國信潤子

【授業の概要】

ビジネスに関する基本概念、仕組を学習し、受講者相互のコミュニケーションを通して、自己の考えを自発的、創造的にまとめ、効果的に発表する態度を育成する。

【授業の目標】

ビジネス学部で学ぶ全ての分野(アカウンティング、ビジネスコミュニケーション、ファイナンス、ビジネスストラクチャー、情報システム、ビジネスロー)について、基礎的な知識を習得する。ビジネス学部の学生として自ら学びたい道、分野を見極め、さらなるステップアップを目指す。

【授業計画】

ビジネス学部の全てのコース(アカウンティング、ビジネスコミュニケーション、ファイナンス、ビジネスストラクチャー、情報システム、ビジネスロー)について、それぞれの専門分野の教員が基礎的な講義を行う。ビジネスの幅広い分野についての全体的な理解が得られるように、各分野の担当教員が共同し、交代して基本的なことがらを説明する。

【評価方法】

出席状況および理解度テストによる。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布する。

基礎演習 I

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

下記教科書を使用して、ディベートの技法、考える技術・書く技術、プレゼンテーションの技法などを学ぶ。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

ロジカル・シンキング(照屋華子・岡田恵子共著 東京経済新聞社)
考える技術・書く技術(バーバラ・ミント著 ダイアモンド社)
頭を鍛えるディベート入門(松本茂著 ブルーバックス)

基礎演習 I

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりませながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

基礎演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢と演習でのレポート・報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習 I

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての基礎的な理解と、リスクマネジメントとCSRの基礎的な理解を深めること。さらに、全員でのディスカッションと各自のプレゼンテーションを通し、コミュニケーション能力、発言力、表現力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されているリスク管理や企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)に関して、経営情報システムの観点から講義する。

学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. 情報社会について
2. 情報システムとデータの重要性
3. システムリスクについて
4. Excelno応用、VBA
5. ホームページ作成
6. プレゼンテーション、表現力の重要性
7. リスクマネジメントについて
8. 企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)について

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

基礎演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 パワーポイントの構成と機能
- 第3講 プレゼンテーションとは何か
- 第4講 プレゼンテーションの計画
- 第5講 プレゼンテーションの技法
- 第6講 発表とディスカッション (1)
- 第7講 発表とディスカッション (2)
- 第8講 発表とディスカッション (3)
- 第9講 発表とディスカッション (4)
- 第10講 発表とディスカッション (5)
- 第11講 発表とディスカッション (6)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に、適宜配布する。

【参考文献・資料】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

基礎演習 I

浦山章二

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

経済の規模の拡大とグローバル化により、われわれの仕事や生活に対する経済の影響が大きくなっている。新聞を見ると経済に関するニュースがあふれている。経済ニュースを理解するためには経済、ビジネス、会計、税務、法律などの幅広い知識が必要である。さまざまな経済ニュースを学問として調査研究し、全員で話し合っ理解を深め、理解するために必要な知識を習得することをこの授業の目標とする。

【授業計画】

毎日発生している経済ニュースや過去の経済ニュースの中から、特に興味深いものを選んで各自が調査研究し、全員で話し合っ理解を深めていく。

【評価方法】

経済ニュースの調査研究や話し合いの状況を見て、経済ニュースの理解度を判定する。

【テキスト】

日本経済新聞
日経・経済記事の読み方 (2007年版)

【参考文献・資料】

インターネット

基礎演習 I

大塚英揮 (浅井敬一郎)

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、経営戦略論に関する基礎理論を習得する。
- (2) 習得した基礎理論を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

基礎演習 I

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、経営戦略論に関する基礎理論を習得する。
- (2) 習得した基礎理論を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

基礎演習 I

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習はまずビジネスとジェンダーの接点において、各学生の問題意識、関心領域を意見交流し、それらに沿った資料の講読をおこなう。原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料、雇用機会均等法などの資料を講読をする。各自が分担部分をレジメ作成し報告・討議する。

- 1) 関心領域の意見交流～ジェンダーとビジネス・労働～
- 2) 産業社会学、開発社会学、雇用関係法制の基礎文献資料
- 3) ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの事例分析をおこなう。
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
- 4) 学生の企画による企業訪問、ディベート、夏期合宿などを実施
- 5) 国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘し、講演を頂き、討議を行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

新しい産業社会学（大塚 有斐閣）
開発社会学（恩田 ミネルヴァ書房）
職業とジェンダー（岡村他 日本評論社）
女性学・男性学～ジェンダー論入門（國信他 有斐閣）

基礎演習 I

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

- ディベート訓練
- パブリックスピーキング
- プレゼンテーション
- QC管理と手法
- 財務諸表の見方、企業会計原則、経営分析、

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習 I

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスのあり方、経営のチェックポイント、起業に向けての理論武装などについて考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

適宜必要資料等についてコメントする。

基礎演習 I

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one assigned international business topic each week. Assigned textual materials will be mostly in Japanese language, and English language documents will be used as supplementary study sources. Students will be encouraged to discuss and refine their knowledge of each topic in class. A schedule of the study assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Introduction to traditional and newly developed international law
2. Basic concepts of international trade
3. International trade terms (INCOTERMS)
4. Typical international trade processes
5. Contracts for international transactions

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation in class discussions, as well as scores attained in quizzes and a final examination. There will be a mid-term quiz on materials covered in classes to that point. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary materials will be provided throughout the course when appropriate. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

基礎演習 I

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この基礎演習Iの共通テーマは、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。このような共通テーマに接近するために、種々の教材を活用して、発表の仕方や討論の仕方等を実践にそくして学修する。学生各人の問題意識が芽生えかつ発展するにしたがって、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

【評価方法】

演習形式のこの授業では、講義形式の多くの授業とは異なり、学生の皆さんが主役である。各人の主体的・能動的・積極的な行動が授業を活性化させる。よって皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

【日本経済新聞】を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにならしてほしい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

基礎演習 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. Orientation
2. L.1 : Globalization in Business and Culture
3. L.2 : Business Manners: Body Language
4. L.3 : Names, Titles, and Terms of Respect
5. L.4 : Business Etiquette
6. L.5 : Individualism and Group Spirit
7. L.6 : Working Overseas
8. L.7 : Coping with Language and Culture Shock
9. L.8 : Hospitality and Friendship
10. L.9 : Negotiations: Cultural Differences
11. L.10 : Negotiation for "Win-Win" Solutions
12. L.11 : US and Japanese Business: A Case Study
13. L.12 : Marketing, Advertising, and Distribution
14. Final Examination

【評価方法】

期末試験、英語でのスピーチ、プレゼンテーション（レポート）、出席率、授業の参加態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

1. *Global Understanding: Success in International Business*, (Makoto Shihido and Bruce Allen, Seibido, 2002)

【参考文献・資料】

異文化にみる非言語コミュニケーション：Vサインは屈辱のサイン
Nonverbal Communication in Diverse Cultures (御手洗昭治 ゆまに書房 2000)

基礎演習 I

中村雅文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. 簿記・会計知識の習得と理論的研究
2. 学生による発表とディベートによって進めるのを基本とする。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

必要に応じ授業において別途指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じ授業において別途指示する。

基礎演習 I

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

パソコンの基本リテラシーを確実にマスタするとともに、ケースを通じて、ロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

Excelでマスターする ビジネスデータ分析 実践の極意 (住中光夫 アスキー)
PowerPointでマスターする勝ち抜く提案プレゼンの極意住中光夫 アスキー)

基礎演習 I

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

「視点の多様性」をテーマに、以下の「文化」と「コミュニケーション」の基礎・関連概念を学習します。

1. 「コミュニケーション」「文化」とは。ビジネスとの関連性
2. 「意味」とは
3. 「聞くこと」とは
4. 言語メッセージ
5. 非言語メッセージ
6. 文化とアイデンティティ
7. 文化と「価値観」
8. 価値判断
9. ステレオタイプと差別

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多文化社会と異文化コミュニケーション (伊佐雅子 監修 三修社)
異文化トレーニング：ボーダレス社会を生きる (八代京子、町恵理子、小池浩子、磯貝友子 三修社)

基礎演習 I

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

経済・金融統計の理解を図るためテキストを使用し、質疑応答により進める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

基礎演習 I

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

商業簿記2級レベルの教材
その他レジュメで対応

基礎演習 I

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の入門書や会計に関する新聞や雑誌の記事などを利用して、上記のテクニックが自然と身につくように演習を進める。課題についてはあらかじめ提示するので、事前によく準備して演習に臨むこと。必要に応じて、合宿や工場見学などの課外活動を行うこともある。

【評価方法】

事前の準備、演習への参画、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

基礎演習 I

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報技術 (IT) の中でもハードウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習 I

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

NHK海外放送、CNN、ABC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

基礎演習 I

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. 広告に関する基礎知識の習得 (テキストを用いた輪講及び討議)
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得 (サブゼミ・勉強会)

【評価方法】

出席状況と課題 (輪講資料) の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

基礎演習 I

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成します。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めるために、問題解決能力が身につくようみんなで議論を深められるように努めます。

【授業計画】

最初の演習では、「大学で何を学ぶのか」について討論したり、ビジネスの学問を学習する方法、考え方を身につけるようにします。その後、ビジネスを支えている諸制度の意味について考えるとともに、計数的手段の貢献的機能について検討する。それをとおして、現代経済の動向とビジネス改革の道筋を見つめてほしいと思う。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使うが、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

基礎演習 II

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

経済および企業の状態を映し出す株価の特徴を活かし、株式のバーチャル取引（例：トレーディング・ダービー）を行い、経済ニュースだけでなく実際の企業を身近に感じ、興味を持てるように指導する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

東大生が書いたやさしい株の教科書（東京大学株式投資クラブAgents著 インデックス・コミュニケーションズ）
すぐわかる株式投資2007年度版（日本経済新聞社編著 日本経済新聞社）

基礎演習 II

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) 新聞の経済記事を読む上で最低限必要とされる経済・企業経営の仕組みについて学ぶ。基礎的なテキストを輪読する。報告者が担当箇所をレジメにまとめ、報告し、質疑応答を行い、テストを行う。
- (2) ゼミ対抗のディベートを行う。
- (3) 3年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み集中）。
- (4) テキストとは別にテーマを与え、共同レポートを作成しプレゼンテーションを行う。

【評価方法】

演習でのプレゼンテーション、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

演習時に指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習 II

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりませながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

基礎演習 II

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習 II

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての基礎的な理解と、リスクマネジメントとCSRの基礎的な理解を深めること。さらに、全員でのディスカッションと各自のプレゼンテーションを通し、コミュニケーション能力、発言力、表現力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されている、リスク管理や企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)に関して、経営情報システムの観点から講義する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. 経営管理
2. 情報処理と分析力の重要性
3. 統計学
4. 情報システムを利用した業務の効率化
5. エンドユーザー・コンピューティング
6. 内部統制について
7. 戦略的総合リスク管理 (ERM:Enterprise Risk Management)について

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

経営管理 (有斐閣アルマ)。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

基礎演習 II

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文の構成と用語の使用、レポート分析の方法
- 第3講 レポート分析 (1)
- 第4講 レポート分析 (2)
- 第5講 レポート分析 (3)
- 第6講 レポート分析 (4)
- 第7講 レポート分析 (5)
- 第8講 レポート分析 (6)
- 第9講 レポート分析 (7)
- 第10講 レポート分析 (8)
- 第11講 レポート分析 (9)
- 第12講 レポート分析 (10)
- 第13講 まとめ

【評価方法】

レポート分析の発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に、適宜配布する。

基礎演習 II

浦山章二

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

経済の規模の拡大とグローバル化により、われわれの仕事や生活に対する経済の影響が大きくなっている。新聞を見ると経済に関するニュースがあふれている。経済ニュースを理解するためには経済、ビジネス、会計、税務、法律などの幅広い知識が必要である。さまざまな経済ニュースを学問として調査研究し、全員で話し合っ理解を深め、理解するために必要な知識を習得することをこの授業の目標とする。

【授業計画】

日々発生する経済ニュースや過去の経済ニュースの中から、特に興味深いものを選んで各自が調査研究し、話し合っ理解を深める。

【評価方法】

経済ニュースの理解度により判定する。

【テキスト】

日本経済新聞
日経・経済記事の読み方 (2007年版)

【参考文献・資料】

インターネット

基礎演習 II

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 1) テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティングの各論について学習する。
- 2) 本から学び取った理論的知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- 3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- 4) 基礎演習の集大成として、他大学とのディベートを行うことで、目的を持ってゼミ員がゼミ活動に取り組めるよう留意する。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の中で適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

基礎演習 II

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期授業の継続
原則的に産業社会学、雇用機会均等法改正法、開発社会学の基礎資料の講読をする。
各自が分担部分をレジュメ作成し報告・討議する。

- 1) ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
- 2) 将来のライフプランの立て方、就職活動の方法
- 3) 新しい雇用に関する法制、家族関係の変容について
- 4) 学生の企画による企業訪問、夏期合宿（学外研修）などを実施
- 5) 英語資料講読：社会問題についてのテキスト、ジャーナル記事を英文講読
- 6) 国内外の専門家をゲストスピーカーとして招聘

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

新しい産業社会学（犬塚他 有斐閣アルマ）
開発とジェンダー（田中他 国際開発出版会）
女性学・男性学～ジェンダー論入門（國信他 有斐閣アルマ）

基礎演習 II

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う

法律関係

- 1) 労働法（差別問題・セクハラを含む）、
- 2) 商法、税法
- 3) 独占禁止法

品質関係

基本的考え方、QC手法、ISOなど

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習 II

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。特にプレゼンテーション能力の向上と鳥瞰図的視野から見た分析能力の向上を目指す。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

必要に応じて適宜指導する。

【参考文献・資料】

適宜準備する。

基礎演習 II

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

The objective of this course will be to provide students with basic understanding of international business contract law.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one assigned international business topic each week. Assigned textual materials will be mostly in Japanese language, and English language documents will be used as supplementary study sources. Students will be encouraged to discuss and refine their knowledge of each topic in class. A schedule of the study assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. International contracts terms and terminology
2. Trends in uniformity of international sales contracts
3. Detailed study of the provisions of the United Nations Convention on Contracts for the Sales of Goods

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation in class discussions, as well as scores attained in quizzes and a final examination. There will be a mid-term quiz on materials covered in classes to that point. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary materials will be provided throughout the course when appropriate. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

基礎演習 II

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この基礎演習IIの共通テーマも、基礎演習Iのそれと同じく、ビジネス社会の「国際語」である「複式簿記の機構に支えられた企業会計」を学んで、考えよう、ということである。

基礎演習Iの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を、さらに明確化させかつ発展させる。そして、そのような各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。

【評価方法】

この基礎演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

基礎演習 II

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. Orientation
2. L.13: Communication in the "Thumb Generation"
3. L.14: Women in the International Workplace
4. L.15: Changes in Employment Systems
5. L.16: Establishing Trust in International Business
6. L.17: International Business and the Internet
7. L.18: Business and the Law: Foreign Lawsuits
8. L.19: Questions about Globalization and Free Trade
9. L.20: What is Success in the Global Business World?
10. Speeches/Presentations (1)
11. Speeches/Presentation (2)
12. Speeches/Presentations (3)
13. Speeches/Presentations (4)
14. Final Examination

【評価方法】

期末試験、英語でのスピーチ、プレゼンテーション（レポート）、出席率、授業の参加態度などを総合的に評価する。

【テキスト】

1. *Global Understanding: Success in International Business* (Makoto Shihido and Bruce Allen Seibido 2002)

【参考文献・資料】

異文化にみる非言語コミュニケーション：Vサインは屈辱のサイン？
(*Nonverbal Communication in Diverse Cultures*) (御手洗昭治 ゆまに書房 2000)

基礎演習 II

中村雅文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の発表した内容を全体で議論し、講義を織り交ぜながら進める。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

授業において別途指示する。

【参考文献・資料】

授業において別途指示する。

基礎演習 II

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、ロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

Excelでマスターする ビジネスデータ分析 実践の極意 (住中光夫 アスキー)
PowerPointでマスターする勝ち抜く提案プレゼンの極意住中光夫 アスキー)

基礎演習 II

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習Iで学習したコミュニケーションの基礎を踏まえ、ビジネスに関連のある小集団・組織・メディアとコミュニケーションについて更に学習する。

1. 「コミュニケーション」の基礎の復習
2. 小集団のコミュニケーション
「よりよいグループワークとは」、チームワーク、リーダーシップ
3. 組織コミュニケーション
「組織文化を探せ!」、ロゴ・行事・物語分析
4. メディア・コミュニケーション
「広告の舞台裏」、イメージ・メッセージの構築とその影響、記号論

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーション、授業への参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

基礎演習 II

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

経済・金融統計の理解を図るためテキストを使用し、質疑応答により進める。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

基礎演習 II

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

商業簿記2級レベルの教材
その他レジュメで対応

基礎演習 II

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の入門書や会計に関する新聞や雑誌の記事などに加え、ネット上にあるさまざまな会計情報を利用して演習を進める。課題についてはあらかじめ提示するので、事前によく準備して演習に臨むこと。必要に応じて、合宿や工場見学などの課外活動を行うこともある。

【評価方法】

事前の準備、演習への参画、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

基礎演習 II

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報技術 (IT) の中でもソフトウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習 II

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

NHK海外放送、CNN、ABC、BBCなどのニュースを通して国内、海外の出来事を英語で把握する。

毎月、事前に特定の番組を留守録画します。これを学生は必ず事前にマルチ・リソース・センターで視聴し、理解につとめる。ゼミでは理解できない箇所をお互いに教え、反復練習をする。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

基礎演習 II

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に引き続き

1. 広告に関する基礎知識の習得 (テキストを用いた輪講及び討議)
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得 (サブゼミ・勉強会) さらに、
3. 実際の広告を題材に、効果の測定や分析、ディスカッション (グループワーク・ゼミ内発表)

【評価方法】

出席状況と課題 (輪講資料) および討議、ゼミ内発表の内容により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

基礎演習 II

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成します。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めるために、問題解決能力が高められるような努力を支えます。

【授業計画】

少人数の構成であるので、自分の考えをまとめて発表し、他人の意見に耳を傾けながら、ビジネスについて学びつつ討論の楽しさを身につける。ビジネス社会で役立つ知識を身につけるため、ここでは何よりもまず管理のための計数的手段を取り上げ、その機能を組織の文化的・経済的諸要因との関係において把握します。なお、大学生活を送るにあたって悩んでいることや、履修上の問題を抱えている者は、相談してほしい。

【評価方法】

協調性、レポートの内容などを総合的に判断して評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使用します。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

インターンシップ概論

上原 衛

【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適な職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づける。

【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 職業と人生について
3. 各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジネスマナー講座
7. キャリアプランの作成
7. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎 五島幸一 ブイ チ トルン 浅野敬志
永田 祐 小島祥美

【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適な職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後に、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。

1. ガイダンス
2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
4. 報告レポートの作成と提出

【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

簿記 I

三浦克人

【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業の目標】

この授業の目標は、日商簿記検定3級レベルの記帳技術を習得し、これから履修することになる会計学の諸分野の基礎を身につけることにある。（この授業は、簿記Iを再履修する3年生以上を対象として開講する。）

【授業計画】

1. 簿記の目的と役割
2. 貸借対照表と損益計算書
3. 取引と勘定
4. 仕訳帳と元帳
- 5.～6.現金・預金取引
- 7.～8.商品売買取引
- 9.～10.掛取引と貸倒れ
- 11.～12.手形取引
- 13.～14.その他の債権・債務取引
- 15.～16.有価証券・固定資産取引
- 17.～18.伝票と訂正仕訳
- 19.～22.決算
- 23.～28.総合問題

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

別途指示する。テキストにしたがって講義をすすめるので、必ず購入すること。

簿記 II

三浦克人

【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業の目標】

この授業の目標は、日商簿記検定2級レベルの記帳技術を習得し、これから履修することになる会計学の諸分野の基礎を身につけることにある。(この授業は、簿記IIを履修する3年生以上を対象として開講する。)

【授業計画】

1. 現金預金・日商簿記2級の範囲 (1)
2. 現金預金・日商簿記2級の範囲 (2)
3. 有価証券・日商簿記2級の範囲 (1)
4. 有価証券・日商簿記2級の範囲 (2)
5. その他の債権・債務取引・日商簿記2級の範囲 (1)
6. その他の債権・債務取引・日商簿記2級の範囲 (2)
7. 手形取引・日商簿記2級の範囲 (1)
8. 手形取引・日商簿記2級の範囲 (2)
9. ~15. 特殊商品売買取引
16. ~20. 株式会社の簿記
21. ~23. 本支店会計
24. ~26. 決算
27. ~28. 総合問題

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

別途指示する。テキストにしたがって講義をすすめるので、必ず購入すること。

国際会計

田代樹彦

【授業の概要】

今日、国際的に資金調達を行う企業は、それぞれの国の会計基準に準拠して財務諸表を作成することが求められている。その一方で、各国で異なっている会計基準を統合し、単一の会計基準たる国際会計基準を適用しようという動きがある。本講義では、このような会計基準を取り巻く国際的な動向ならびに我が国の会計制度が直面している問題を取り上げていく。

【授業の目標】

本講義の目標は、近年進められている会計基準の国際的統合の流れについて、(1)歴史的、経済的背景、(2)中心的役割を担ってきた国際会計基準審議会の活動及び国際会計基準、(3)各国の対応、を理解すると共に、我が国の会計制度を国際的な文脈で理解することにある。

【授業計画】

- (1) ガイダンス
- (2) 国際会計の意義：国際会計の枠組み・必要性・主要研究領域
- (3) 国際的な財務報告と会計基準の国際的調和化：企業活動の国際化と財務報告、会計基準の多様性をもたらす要因とその問題点、会計基準の国際的統合化の必要性と推進主体
- (4) 国際会計基準審議会：国際会計基準委員会と国際会計基準、コア・スタンダード、国際会計基準審議会への発展的改組、会計基準の統合化
- (5) 国際会計基準：国際会計基準の概要・概念フレームワーク
- (6) アメリカと国際会計基準：アメリカの会計制度の枠組み・統合化への対応
- (7) EUと国際会計基準：ドイツ・フランス・イギリスの会計制度の枠組み、EUにおける会計基準の統合化、国際会計基準への対応
- (8) その他の国と国際会計基準：その他の国々による国際会計基準への対応
- (9) 日本の会計制度と国際会計基準：日本の会計制度の特徴、統合化への対応

【評価方法】

平常点、レポート等の課題、テストによる総合評価

【テキスト】

ジョージ・ベンストン、他著『会計制度改革への挑戦』税務経理協会

【参考文献・資料】

武田安弘編著『財務報告制度の国際比較と分析』税務経理協会
佐藤信彦編著『国際会計基準制度化論』白桃書房

監査論 I

前川三喜男

【授業の概要】

現代の株式会社制度を支える一つの制度として、専門的な能力を有する独立の第三者による財務諸表の検証とその結果報告が求められている。それが会計監査である。本講義では、公認会計士による財務諸表監査の目的や制度についての基本的な知識を学習する。

【授業の目標】

監査の基本を理解する。

【授業計画】

- 第1回 監査の意義
- 第2回 監査の類型
- 第3回 会計士監査の歴史的展開
- 第4回 監査とディスクロージャー
- 第5回 監査制度1
- 第6回 監査制度2
- 第7回 監査人の資格と要件
- 第8回 公認会計士制度
- 第9回 監査人の職業倫理
- 第10回 監査人の独立性
- 第11回 監査人が負うべき法的責任
- 第12回 不正・違法行為と監査人の義務
- 第13回 粉飾決算と訴訟
- 第14回 監査基準の必要性
- 第15回 まとめ

【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト(10~15分程度)を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

監査論 II

前川三喜男

【授業の概要】

財務諸表の適正性を判断するためにどのような手続きが必要とされるのかについて、監査基準を中心として学習する。また、会計士監査における課題や問題点を取り上げ、監査の本質についての理解を深める。

【授業の目標】

監査の基本を理解するとともに監査実務についても修得する。

【授業計画】

- 第1回 監査契約
- 第2回 予備調査
- 第3回 監査計画
- 第4回 内部統制
- 第5回 リスク・アプローチ
- 第6回 実証的監査手続
- 第7回 実査
- 第8回 立会
- 第9回 確認
- 第10回 監査調査
- 第11回 監査結果
- 第12回 監査意見の形成

【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト(10~15分程度)を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

経営分析 I

浅野敬志

【授業の概要】

企業が公表する財務諸表を中心とする会計情報は企業についての重要な情報の一つである。会計情報から企業の成績を把握するために必要な基本的な技法を学習する。

【授業の目標】

実践的な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的に分析できるようにすること。

【授業計画】

- 第1回 経営分析の必要性
- 第2回 財務諸表を理解する
- 第3回 成長性の分析 (1)
- 第4回 成長性の分析 (2)
- 第5回 収益性の分析 (1)
- 第6回 収益性の分析 (2)
- 第7回 採算性の分析 (1)
- 第8回 採算性の分析 (2)
- 第9回 安全性の分析 (1)
- 第10回 安全性の分析 (2)
- 第11回 総合分析 (まとめ)
- 第12回 実例を使つての総合分析 (1)
- 第13回 実例を使つての総合分析 (2)
- 第14回 実例を使つての総合分析 (3)
- 第15回 実例を使つての総合分析 (4)

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

3ステップ式だからキャッシュフロー重視の経営分析がらくらくできる本 (増木清行著 あさ出版)

会計学特論 I

杉本典之

【授業の概要】

現代の企業に求められる会計情報ないし会計ディスクロージャーの範囲はかなり広い。そうしたニーズに応えるためには従来の企業会計原則や商法だけでは対応しきれない。そのため、制度上もさまざまな会計基準が設けられている。本講義では、そうした会計基準を中心に解説し、現代会計制度に対する理解をより深いものとする。

【授業の目標】

情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス (及び会計監査のプロセス) から成り立っている。会計学特論Iでは、主として会計測定のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

【授業計画】

- 下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。
1. 株式会社会計を典型とする企業会計
 2. 情報システムとしての企業会計
 3. 企業会計の基本的構造と会計基準の位置づけ
 4. 会計測定のプロセスと会計基準
 5. 勘定記録と会計情報

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－ (杉本典之著 同文館)
キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－ (杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにならなければならない。
必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

経営分析 II

浅野敬志

【授業の概要】

会計情報による経営分析の基本的な手法についての理解を深め、実際に企業が公表している会計情報をもとに経営分析を行い、企業の安全性・成長性・収益性などを把握するための方法を習得する。

【授業の目標】

実践的かつ高度な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的かつ詳細に分析できるようにすること。

【授業計画】

1. 企業価値を創造する会計戦略
2. ROEの使用方法－武田薬品工業のケース－
3. ROAの使用方法－ウォルマート・ストアーズのケース－
4. ROICの使用方法－日産自動車のケース－
5. 売上高営業利益率の使用方法－ソニーのケース－
6. EBITDAの使用方法－NTTドコモのケース－
7. フリーキャッシュフローの使用方法－アマゾン・ドット・コム of のケース－
8. 株主資本比率の使用方法－東京急行電鉄のケース－
9. 売上高成長率の使用方法－GEのケース－
10. EPS成長率の使用方法－花王のケース－
11. EVATMの使用方法－松下電器産業のケース－
12. 会計指標の選択とポートフォリオ

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

企業価値を創造する会計指標入門 (大津広一著 ダイヤモンド社)

【参考文献・資料】

財務諸表分析 (桜井久勝著 中央経済社)
ゼミナール現代会計入門 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)
ビジネス・アカウンティング－MBAの会計管理－ (山根節著 中央経済社)

会計学特論 II

杉本典之

【授業の概要】

企業活動が多様化しグローバル化する中で、より迅速なディスクロージャー、企業グループ全体についての会計情報、資金に関する情報、企業の現在価値に関する情報など、企業に求められる会計情報の内容や質も多様化している。本講義では企業会計に求められる課題や制度上の最近の動向を取り上げる。

【授業の目標】

情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス (及び会計監査のプロセス) から成り立っている。会計学特論IIでは、主として会計伝達のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

【授業計画】

- 下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。
1. 情報システムとしての企業会計
 2. 会計情報を搬送する決算財務諸表
 3. 決算財務諸表をめぐる会計基準
 4. 会計基準の国際的調和化
 5. 各国の会計基準と国際会計基準

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
会計理論の探究－会計情報システムへの記号論的接近－ (杉本典之著 同文館)
キャッシュフロー計算書－その国際的調和化の現状と課題－ (杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにならなければならない。
必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

税務会計

森 恒夫

【授業の概要】

税務会計といってもその範囲はかならずしも明確ではない。本講義では、範囲を法人税法および所得税法に絞り、その基本的な考え方や重要な概念・項目などについての解説を行う。

【授業の目標】

- (1) 税務会計の基本的考え方及び基本原理の理解
- (2) 税務会計の計算構造につき、通則的な規定と個別規定の体系的関連及び仕組みの理解

【授業計画】

- 第1回 税法の意義
- 第2回 税務会計の概要
- 第3回 租税法律主義
- 第4回 税法の体系と税金の種類
- 第5回 応能負担原則と税の平等問題
- 第6回 法人税の仕組み
- 第7回 確定決算主義の意義
- 第8回 企業利益と課税所得
- 第9回 寄付金と交際費
- 第10回 減価償却
- 第11回 使途秘匿金
- 第12回 同族会社課税
- 第13回 別表について
- 第14回 所得税の仕組み
- 第15回 連結納税制度

【評価方法】

単位認定試験及び出席などを加味する

【テキスト】

未定

英文会計

白木俊彦

【授業の概要】

基本的な英文会計の用語について解説するとともに、国際会計基準および米国FASBの会計基準による財務諸表の用語・様式について講義する。また、必要な範囲で国際会計基準の条文自体も取り上げるほか、実際の英文による財務諸表と国内基準による財務諸表との比較も行う。

【授業の目標】

具体的に企業が提供している財務諸表を入手することができることをまず習得する。その後、基本的な英文財務諸表の会計基礎用語を理解し、英文による貸借対照表、損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書を読むことができることを目標とする。さらに、重要な会計方針及び注記事項を理解できることを目標とした。

【授業計画】

講義と演習方式で行う。以下の内容について解説し、用語等については演習をして理解を確認しながら進めていく。

1. 英語による会計用語の解説
2. 国際財務報告基準の用語解説
3. FASB基準書及び国際財務報告基準の内容
4. アニュアルレポートの理解
5. 上記以外の理論的な文献解説

【評価方法】

定期試験及び講義の中で行う演習結果と出席状況及び講義中の態度も含めた総合評価による。

【テキスト】

講義の中で指示する。

【参考文献・資料】

国際財務報告基準等、各社ホームページに開示されるアニュアルレポート等

経済学概論

石坂綾子

【授業の概要】

最初に「経済学とは何か」について述べ、次に「資本主義経済システムの特徴」と「市場経済と政府の役割」について経済学の基礎的知識を与え、さらに「資本主義経済システムの成立と展開」について歴史的視点から考察する。

【授業の目標】

経済学の理論を通じて、経済のしくみや市場（マーケット）の本質を知ることによって、社会とのかかわりや世の中の動きについて理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 市場経済システム
3. マーケットメカニズム
(1) -需要と供給-
(2) -規制と保護による損失-
4. 社会主義の失敗
5. 金融仲介機能
6. 株式会社
7. 競争社会の光と影
8. 所得の決定
9. 市場の失敗 -政府の役割-
10. 大不況を克服する方法
11. グローバルエコノミー
12. 貿易黒字の発生
13. 日本型システムの崩壊

【評価方法】

中間試験と期末試験の成績によって評価する。2つの試験の評価比率は、50%ずつである。

【テキスト】

特に指定しない。第1回目の授業において資料を配布する。

【参考文献・資料】

痛快！経済学（中谷 敏著 集英社インターナショナル/集英社文庫）

現代ビジネス事情 I

森下允之

【授業の概要】

世界に独立国（independent）はなく、みな相互依存国（interdependent）である。国内ですべての取引が完結し、海外との接点がない、あるいは影響を受けないビジネスはない。現代のビジネスにとり国境の壁は低くなっており、企業は全世界で調達生産・販売している。この実態を企業の海外拡張の側面を有する海外直接投資の視点から分析し、主要投資先国のビジネス環境を紹介し、空洞化問題など、国内産業に与える影響を論ずる。

【授業の目標】

国境を越える企業の動きと意義を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 世界貿易の大潮流
- 第2回 ビジネスの国際化（生産・調達の海外依存度の高まり）
- 第3回 国際投融資の目的と形態（直接投資、証券投資）
- 第4回 証券投資の急増とその功罪
- 第5回 マルチ企業による超大型企業買収合戦の功罪
- 第6回 日本の対外直接投資（本邦企業の海外進出とグローバル戦略）
- 第7回 対外直接投資が国内産業に与える影響（産業空洞化問題）
- 第8回 日本への対内直接投資（日本の優良企業も外資に狙われる）
- 第9回 WTOと自由貿易協定（日本の対応方針）
- 第10回 カントリー・リスクとビジネス・リスク
- 第11回 東南アジア諸国の投資環境
- 第12回 NIES（韓国、台湾、香港）の投資環境
- 第13回 中国の投資環境

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、この計画にとらわれず、随時、新しい事態に関し、解説を加える。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを適時配布する。

【参考文献・資料】

2006年版ジェトロ貿易投資白書（日本貿易振興会）

現代ビジネス事情 II

石坂綾子

【授業の概要】

ヨーロッパ諸国の金融業を中心に、その基本的特徴を具体的事例を挙げて考察する。

【授業の目標】

グローバル化の進展によって、日本・アメリカ・ヨーロッパの三極を軸に、国境を超えた競争が激しくなっている。アメリカ・ヨーロッパ諸国の企業による日本への進出と日本企業の海外進出が相互に活発化している。アメリカ・ヨーロッパ諸国との関連トピックスを中心に、産業ごとの特徴について理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 銀行・証券・保険業（アメリカ・ヨーロッパ）
3. 鉄道業（ヨーロッパ）
4. 高級ブランド（ヨーロッパ）
5. 航空業（アメリカ・ヨーロッパ）
6. 旅客機メーカー（アメリカ・ヨーロッパ）
7. コンピューター産業（アメリカ）
8. 鉄鋼業（ヨーロッパ）
9. 自動車産業（アメリカ・ヨーロッパ）
10. 流通業（アメリカ・ヨーロッパ）
11. 通信業（アメリカ・ヨーロッパ）
12. 石油産業（アメリカ）
13. 食料品ビジネス（アメリカ・ヨーロッパ）

【評価方法】

出席状況と単位認定レポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業においてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業において適宜提示する。

比較文化論 I（日・米）

鈴木哲至

【授業の概要】

日本とアメリカの文化を比較するとき、表層のみならず深層文化へ思いをめぐらし考察することにより、日米の人々の意識の違いが浮き彫りになってくるに違いない。この授業では日本とアメリカの文化の中で、変化しつつあるものとそうでないものを見つめながら、深層にある隠れた文化をつきとめる試みをする。

【授業の目標】

様々な文化人類学的切り口を通して日米文化を比較することにより、内と外から見た日米深層文化の客観的な捉え方を認識することを目標とする。また課題を通して新聞の批判的な読み方、文章の要約の仕方にも身に付ける。

【授業計画】

アメリカ文化関連新聞記事の切り抜きの発表、課題の文献（英語）の要約の発表の後、講義、討論などにより、毎回のテーマの考察をする。また、美しいビデオ映像などにより、視覚的にも日米文化の比較を楽しみながら授業を進める。

- パート 1 文化の基盤
1. 文化の型
 2. 自然環境
 3. 宗教
 4. 政治
- パート 2 文化のスナップショット
5. 権力
 6. 時間
 7. 多様性
 8. 性意識
 9. 新聞
 10. 買い物とビジネス
- パート 3 変わりゆく価値観
11. 新しい家族
 12. 新しい学生
 13. 新しい働き手

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート、その他を総合的に評価する。

【テキスト】

日本とアメリカー深層文化へのアプローチ（Paul Stapleton著 金星堂）

ファイナンス特論

細野義晴

【授業の概要】

資金の需要者と供給者との間には、現在、多種多様な金融機関が存在している。これらの金融構造を学習し、現在の各種金融機関の特色とその役割を理解する。

【授業の目標】

家計・企業といった経済主体の金融行動が、どう行われているかを、理論的・実証的にみとらえ、その中で日本の金融機関の金融行動がどう変わり、金融構造がどう変化して、経済社会の発展を支えてきたかを理解する。

【授業計画】

1. 日本の資金循環と各経済主体の金融行動
貨幣の機能と日本の資金循環、家計の金融行動、企業の金融行動、政府の金融行動、経済主体別資金過不足の動向、など。
2. わが国の金融機関の体系とその変化
近代的金融機関の成立、第2次大戦後に確立した金融システムと金融機関の体系、金融の自由化・国際化による金融システムの変化、など。
3. 金融機関の業務とその変貌
中央銀行の機能と金融政策、民間金融機関の業務とその変貌、公的金融機関とその役割の変化、など。
4. わが国の金融構造と金融機関行政の変化
高度成長時代の金融構造の特色、護送船団方式の金融機関行政、低成長時代への移行に伴う金融構造の変化、市場機能重視の金融機関行政とそこでの金融機関経営、など。
5. 金融ビッグバンと金融機関の将来像
金融ビッグバンの背景とその歩み、金融ビッグバンの金融機関と国民生活への影響、不良債権処理とペイオフ問題、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

1. 金融（貝塚啓明・奥村洋彦・首藤忠著 東洋経済新報社）
2. 図説、わが国の銀行（全国銀行協会連合会調査部編著 財経詳報社）

マスコミュニケーション論

小塚哲司

【授業の概要】

新聞、テレビなどによって伝えられるニュースは、国内外で起る日々の動きを映す鏡である。IT革命により、グローバル化、スピード化する21世紀高度情報化社会。マスメディアは、そうした刻々と起る地球レベルのニュースを、迅速に収集し、公正な価値判断をし、国民の「知る権利」に答えるのが役割である。それは「報道の自由」が保証されて可能だが、逆に厳しい職業倫理も求められる。新聞記者、海外特派員の体験を踏まえ、主として新聞報道を素材として、ニュース報道への理解を深めるとともに、マスメディアの責務と職業観、勤労観も考えていきたい。

【授業の目標】

具体的なニュースの中で、知る権利、言論の自由、人権への認識を深める。

【授業計画】

1. マスメディア、新聞、ジャーナリズムの役割と機能
高度情報化時代の中で、それらが果たすべき役割。その歴史と日本、世界の新聞事情、デジタル時代を迎えたメディア事情。
2. マスコミの倫理と功罪
一度に大事件などを不特定多数に伝えられる点で、マスコミは有効だが、一つ誤ると大混乱する。公平な視点を欠けば、偏った見方を伝えてしまう。加害者、被害者の人権、プライバシーに十分な配慮が必要で、報道倫理は厳しく問われる。少年非行、実名、匿名問題の訴訟例、いじめ自殺、戦争とジャーナリズム、イラン核問題など、具体的なニュース報道で検証したい。
3. 授業を面白くし、時代を考える手助けとして、毎週、主なニュースを解説。

【評価方法】

教室での応答、毎日の小レポートと期末レポートで総合評価する。

【テキスト】

未定。

【参考文献・資料】

ジャーナリズムの思想（原寿雄著 岩波新書）

ビジネス概論 I

市古 勲

【授業の概要】

我々の生活は企業無しではもはや成り立たない程、企業と深い関係がある。本講義では、ビジネスの中心である企業および企業が抱える問題の全体像を理解することを目的とする。まず企業はどのようなもので、どのような活動をしており、各々の企業が、どのような構造・形態をしてるのかを取り上げる。次に企業は誰のため、何のためにあるのかという、コーポレートガバナンス（企業統治）の視点から企業を分析した上で、企業の社会的責任や社会貢献の問題についても取り上げる。

【授業の目標】

現代社会における企業の現実を分析するための枠組みを受講生に提供することが、本講義の目標である。

【授業計画】

1. ガイダンス—講義の進め方、企業とは何か—
2. 企業観—企業の見方—
- 3～5. 企業の種類（1）、（2）、（3）
6. 株式会社の特徴と仕組み
7. ケース分析—個人企業が会社になること—
8. 企業の種類（4）—公開・非公開会社、その他の形態—
7. 所有と経営の分離
9. 株主と企業の関係—M&Aに関わる問題—
10. ケース分析—会社は誰のものか—
- 11～12. コーポレート・ガバナンス（1）、（2）
13. 企業の社会的責任
14. 総復習、最終回（第15講）に試験を行う

【評価方法】

分析レポート（40%）、試験（60%）の比率で総得点を算出し、評価付けを行う。

【テキスト】

講師の自作レジュメ（以下の参考文献を基礎に作成されている）

【参考文献・資料】

テキスト経営学 [増補版] (井原久光 ミネルヴァ書房)
ベーシック会社法入門 (宍戸善一 日本経済新聞社)
企業形態論 (小松章 新世社)
日本型コーポレートガバナンス (伊丹敬之 日本経済新聞社)

アントレプレナー特論

真田幸光

【授業の概要】

本講義では、ビジネスの原点とも言うべき「起業」、即ち、人々が「業を起す」という初期過程からビジネスとは何かを考察していくことを目的としている。起業をするには、財務分析等の定量的考察のみならず、市場環境調査、労務管理、リーダーシップなど、幅広い視点からビジネスの本質を捉えていく必要が生じ、こうした幅広い視点を研究することによって受講生のビジネスに対する学問的知識の向上と共に実践的な知識・ノウハウの向上を図っていくべく、講義を展開する。尚、実践的知識・ノウハウ向上の為、開講中、3～4人前後の外部講師（外資系企業経営陣、ベンチャー企業経営者、ベンチャーキャピタル経営者、マスコミ関係者、行政関係者などを予定）を招き、講義を受けた後、担当教員とのディベート、更には受講生との意見交換などを組み入れていくことを予定している。

【授業の目標】

本授業はビジネスを起す際に必要な倫理観、目的意識、経営スキル、組織運営等々を習得しながら、ビジネスの原点を探ることを目的としている。

従って、必ずしも「起業」の為だけの技術論に固執して授業を展開するのではなく、幅広く「企業経営」全般をも概観しながら、経営者としての有り方を学生諸君に理解してもらうことを最終目標としている。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. ビジネスとは何か
3. 起業の契機
4. コアビジネスの作り方
5. 販売戦略
6. コスト部門の効率化戦略
7. 人材活用
8. 企業組織論
9. ファイナンス
10. 中期計画の立て方
11. 投資家の視点と起業
12. ケース・スタディー 1
13. ケース・スタディー 2
14. 総括
15. 理解力試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

【授業の概要】

労働法の基礎知識について講義する。それから企業風土、組織について説明する。更に日本の労働慣行の崩壊について解説する。そのうえで、日本と欧米との人事・労務管理の違いなどを踏まえて、今後の人事・労務管理の変化について説明する。

【授業の目標】

人と組織についての基礎的知識を持つ。そして、労働基準法の概要を知る。更に日本の労働慣行・労働市場の今までと将来について理解する。

【授業計画】

人というものについて色々な視点から考察する。そのうえで労働基準法などについて講義する。更に企業風土、組織、権限などについて解説する。また日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊とその原因について考察する。更に今後の労働市場の変貌について説明する。また日本と欧米との人事・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。

そのようなことを踏まえて、今後の人事・労務管理において予想される変化と個人としての対応について解説する。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

チャネルマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

メーカーが自社商品のシェアを高めていく上で、流通チャネルをどう管理していくかは非常に重要な意味を持つ。本講義では次の3つのトピックスについて取り扱う。(a)「チャネル」の形状、「チャネル」を構成する基本要素であるメーカー、卸、小売三者間の取引関係、(b) メーカーが流通業者とどのような取引関係を結び、どう流通業者を管理するのが最適なのか、(c) メーカーと流通業者間の「製販統合」、これら3つのトピックスについて具体的ケースを用いて学習し、流通に関する専門的知識を習得する。

【授業の目標】

((1) 流通チャネルの構造がどのように定まるのか、(2) 日本型流通の特徴は何か、(3) 流通をめぐる環境の変化と流通業の対応)に関する知識を習得する。

【授業計画】

1. 流通チャネルとは何か (1)
2. 流通チャネルとは何か (2)
3. 流通の基礎理論 (1) 機能代替可能性、取引数最小化
4. 流通の基礎理論 (2) 取引費用アプローチ
5. 流通の基礎理論 (3) パワー理論、帰属原理
6. 日本型流通システムとは何か
7. 日本型流通 (1) 専売店制
8. 日本型流通 (2) 返品制
9. 日本型流通 (3) 製販統合と製販連携
10. 環境変化と日本型流通の変質 (1) 流通規制緩和
11. 環境変化と日本型流通の変質 (2) 流通外資の参入
12. 環境変化と日本型流通の変質 (3) 流通におけるパワー関係の変化
13. 環境変化と日本型流通の変質 (4) 流通情報化の進展
14. 環境変化と日本型流通の変質 (5) 卸売業の機能強化
15. まとめ

【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%)

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代流通 (渡辺達朗 有斐閣)

eビジネス

林 誠

【授業の概要】

前半はe-ビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをeビジネスのタイプ事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やe-ビジネスの現状と課題について学習する。後半はe-ビジネスのしくみをエージェントシステム、オークションをとおして学び、e-ビジネスを支援する情報推薦システムについても見ていく。最後にe-ビジネスのシステムを構築する際の概要を留意点を中心に学んでいく。

【授業の目標】

最新のICT技術動向とeビジネスの様々なモデルを学習し、eビジネスの戦略策定やビジネスプランの立案が出来る能力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 eビジネスとは
- 第3回 eビジネスのタイプ
- 第4回 ビジネスモデル特許と課題
- 第5回 インターネットマーケティングの変遷
- 第6回 eビジネスの現状と課題
- 第7回 eビジネスの成功モデル (1)
- 第8回 eビジネスの成功モデル (2)
- 第9回 eビジネスの基盤技術
- 第10回 Web 2.0 の概念と技術 (ブログとSNSの活用)
- 第11回 eビジネスのシステム構築概要
- 第12回 eビジネス戦略策定
- 第13回 eビジネスのプランの立て方
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、課題および試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

スマートシンクロナイゼーション (山下洋史、村田潔 同文館)
企業Webサイト構築最新常識 (戸田克己 技術評論社)

国際ビジネス法

JOLLY, James A.

【Course description】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に考察する。

The aim of this course is to train students in the basic concepts of business law that are currently used in international trade. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of basic Japanese and English vocabulary of legal terminology to be able to converse in an international atmosphere. The course textbook will be in Japanese and students will be required to read and absorb basic concepts covered in these. Supplemental materials will be provided in Japanese and English to augment the lessons.

【Course objectives】

1. To provide students with basic knowledge and understanding of the legal concepts relate to international business.
2. To equip students with abilities to recognize the implications that legal problems have for international business dealings.

【Course schedule】

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Classification and content of Legal Matters (法の分類とその内容)
2. Parties related to international contractual transactions (国際解約の当事者)
3. Characteristics of international trade dealings (国際売買の特色)
4. International trade dispute resolution practices (国際取引紛争の解決)
5. International investment practices (国際投資)
6. International technology transfer practices (国際議実移転)
7. Intellectual property rights (知的所有権)

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation and scores in quizzes and the final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in each segment. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

国際取引法入門：当事者の視点から (富沢敏勝 窓社 1999年) Each student is also expected to have and use his/her own Japanese/English dictionaries.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

職業指導論

宮部幸雄

【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

【授業の目標】

1. 自らの個性や適性を最大限に発揮するライフサイクルの中での、将来の人生設計を進めるような職業を見いだすべく、職業のもつ意義と役割について考察する。
2. 進路指導の理論に基づく実践的な指導能力を身につけることを主なねらいとする。

【授業計画】

- 第1章 進路指導の歴史と発展
- 第2章 教育課程と進路指導
- 第3章 進路指導における組織と体制
- 第4章 特別活動における進路指導
- 第5章 進路指導の方法と技術
- 第6章 進路相談の方法と技術
- 第7章 進路指導の評価
- 第8章 資格取得指導
- 第9章 産業構造、職業構造の変化と進路指導
- 第10章 職業生涯設計の在り方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

自作教材

有価証券法

藤田修輔

【授業の概要】

商取引の決済等において重要な役割を果たしている手形について、手形法がどのように規定しているのかについて講義する。高度ではあるが、テキストを用いながら法の基本的な考え方の理解を深める。

【授業の目標】

企業の決済方法が多様化した現在においても手形及び小切手による支払いは依然として大きな位置を占めている。本講義において抽象的に手形・小切手での決済方法を論じるとどめることなく、具体的事例に即して受講者の手形・小切手に関する法的理解を深める。

【授業計画】

- 1) 手形・小切手の法的構造と経済的機能
- 2) 手形行為の特色 (原因関係と手形関係) (以下、約束手形を中心に)
- 3) 手形行為の成立要件・方式
- 4) 手形の振出
- 5) 手形の裏書 (裏書の意義・効力・善意取得・抗弁の制限)
- 6) 特殊な裏書
- 7) 手形の支払
- 8) 手形の不渡りと銀行取引停止処分
- 9) 遡 求
- 10) 手形保証
- 11) 為替手形・小切手

【評価方法】

筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】

新手法・小切手法 (有斐閣双書) (上柳克郎・北沢正啓・鴻常夫編 有斐閣)

【参考文献・資料】

各授業の際に必要なに応じて指示する。

ビジネスと法

藤田修輔

【授業の概要】

現代企業がビジネスの現場で遭遇すると思われる問題を取り上げ、法律的側面から検討する。また、ビジネスに関する興味深い裁判例を取り上げ、解説するとともに、今後企業が対応すべき新たな領域や問題についても考察する。

【授業の目標】

企業がビジネス上直面する法律分野である会社法、民法、商法、手形小切手法、民事執行法、労働基準法、独占禁止法、知的財産法などについての一般的な知識を、現実の取引やトラブル事例（裁判例）の検討を通じて身につける。

【授業計画】

- 1) ビジネスに関する法の概要（さまざまな法律と裁判の制度について）
- 2) 企業の形態（さまざまな企業の形と法律）
- 3) 株式会社
株式会社の設立、内部組織、資金の調達、株式会社の変動（営業の譲渡、合併、会社の清算など）
- 4) 企業の取引
契約の締結と効力、契約の解除、解約に基づく損害賠償請求
- 5) さまざまな契約
売買契約、賃貸借契約、消費貸借契約、その他の契約
- 6) 不法行為の責任
- 7) 債権の保全と回収
緊急時の回収、担保による回収、強制執行による回収
- 8) 企業の法的な整理手続
破産、民事再生、会社更正など
- 9) 労働関係に関する法
- 10) 経済法、独占禁止法
- 11) 知的財産の管理
特許権、実用新案権、商標権、著作権など
- 12) 紛争の解決方法
民事訴訟、調停など

【評価方法】

筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】

書店で購入できるコンパクトな分量のものでよいので六法を準備すること。基本的なテキストは使用しないが、必要に応じて資料を授業の都度配布することがある。

【参考文献・資料】

講義の対象がきわめて広範なので、各法律分野の講義に入る時に紹介する。

専門演習 I

小橋 勉

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) 経営戦略、人事労務、国際経営など、企業経営の基礎について、テキスト、雑誌の記事を輪読し、実際の事例を交えながら考察する
- (2) ゼミ対抗のディベートを行う。
- (3) グループごとに共同レポートを作成し、プレゼンテーションを行う
- (4) マネジメントゲームを2年生と合同で行う（春休み、夏休み集中）

【評価方法】

演習での報告、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけでなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

適宜指示する

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

モジュール III・IV

吉村文雄 上原 衛 大塚英揮 三浦克人

【授業の概要】

モジュールI・IIを踏まえて、ビジネス分野の基本知識習得をさらに高め、意欲的に、自ら進んで課題に取り組む態度を育成します。

【授業の目標】

ビジネスに欠かせない経済・金融・会計を含む幅広い分野についての関心を高め、新聞・雑誌などを読むように仕向け、ビジネス学部の学生としての自覚をもたらします。

【授業計画】

経済・金融・会計を含むビジネスの幅広い分野について担当教員がそれぞれの視点からさまざまなテーマを取り上げます。

【評価方法】

出席状況および理解度テストによる。

【テキスト】

必要に応じてプリントを配布します。

専門演習 I

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

身近な企業を取り上げ、企業の分析手法について学習する。具体的には、複数の分析視点から企業を分析し、さらに企業の経営戦略とその効果、問題点についても客観的に検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

財務諸表分析（桜井久勝著 中央経済社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）
ビジネス・アカウンティング-MBAの会計管理-（山根節著 中央経済社）

専門演習 I

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況については重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 I

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての専門性と応用力を身につけ、リスクマネジメントと企業の社会的責任 (CSR:Corporate Social Responsibility) についての理解を深めること。さらに、コミュニケーション能力、発言力、表現力に加え、分析力、企画力、創造力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されている、リスク管理や企業の社会的責任 (CSR:Corporate Social Responsibility) に関して、経営情報システムの観点から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識とリスクマネジメントやCSRに関する専門的な知識を習得する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. ACCESSの基礎と応用
2. Excelの応用とVBA
3. ホームページ作成
4. 経営情報論
5. 株式投資シミュレーション
6. 戦略的総合的リスク管理 (ERM:Enterprise Risk Management) について

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示・紹介する。

専門演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 インターネットを活用した情報収集と情報発信
- 第3講 HTMLの機能 (1)
- 第4講 HTMLの機能 (2)
- 第5講 HTMLの機能 (3)
- 第6講 ホームページの作成 (1)
- 第7講 ホームページの作成 (2)
- 第8講 ホームページの作成 (3)
- 第9講 ホームページの発表と評価 (1)
- 第10講 ホームページの発表と評価 (2)
- 第11講 ホームページの発表と評価 (3)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度、出席などを統合的に評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 I

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティングの実際に関して学ぶ。
- (2) 習得した知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- (4) グループに分かれ、自分たちで決めたテーマに沿って論文を作成することで、資料収集・文章作成のスキルを身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

【テキスト】

授業内に指示する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

専門演習 I

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続各自の問題意識領域の掘り下げる。関連専門資料、情報の検索方法の習得。就職活動の方法なども具体的な先輩の事例から紹介する。4年になったときに卒業論文のテーマとなるような関心領域を探求する。

テーマの例

- 1) 女性のビジネス界における正規雇用継続と家族
- 2) ファミリーフレンドリー企業とは
- 3) 雇用機会均等法と実態
- 4) 女性・男性のキャリア形成
- 5) 女性・男性の社会的地位の国際比較

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

キャリア・職業選択を考える（女性と仕事未来館 刊）
職業キャリアとライフコースの日米比較研究（日本労働研究機構刊）

専門演習 I

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、IIでの学習内容を踏まえ、国内及び国際社会に必要な、人事労務管理、効率化の進め方、問題解決手法などの能力・知識を深める学習をするとともに、国際社会での仕事の進め方について取り組んでいく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

専門演習 I

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考察する。
その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

適宜必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 I

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

The objective of this course will be to study and become familiar with the various forms of business structures and how they are used in global business arrangements today. Included in this will be study of the typical contact forms and business documents related to such trade interactions.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. Topics will include:

1. International business arrangements: agency, distributorship, franchise, joint venture and plant export agreements
2. Regulation of international companies and their subsidiaries
3. Licensing contracts and arrangements

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 I

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Iの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

基礎演習IとIIの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1週	Chapter 1	Aspects of Nonverbal Communication-1
第2週		〃
第3週	Chapter 2	Aspects of Nonverbal Communication-2
第4週		〃
第5週	Chapter 3	Body Movements and Gestures
第6週		〃
第7週	Chapter 4	Facial Expression
第8週		〃
第9週		Midterm Exam.
第10週	Chapter 5	Eye Behavior and Gaze
第11週	Chapter 6	Territoriality
第12週		〃
第13週	Chapter 7	Personal Space
第14週		〃
第15週		Final Exam

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆どを英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況と共に総合的に判断する。

【テキスト】

Nonverbal Communication (S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo, 2002)

【参考文献・資料】

ジェスチャー:しぐさの西洋文化(デズモンド・モリス他、角川書店、1992)

専門演習 I

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、IIで学習した知識・能力をさらに深める。ビジネスのベストプラクティスと最新IT動向を学習する。ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

出席、課題提出、プレゼンテーション、ゼミ活性化への貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。
資料、ケースはプリント配布。

【参考文献・資料】

Web進化論(梅田望夫 ちくま新書)

専門演習 I

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I・IIで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習する。大きく以下の2つのテーマを設定して学習し、各自又はグループでレポート作成や発表を行う。

1. 「コンフリクト・対立・交渉」の学習と分析
2. 企業の求める「コミュニケーション力」とは

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 I

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

専門演習 I

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組みを理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の解説書
その他レジメで対応

専門演習 I

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の基本知識、財務諸表の見方、経営分析の方法について学習する。

【評価方法】

出席状況、演習への積極的な参画、レポートなどにより評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習 I

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報システムとその開発方法についての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 I

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習 I

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. 消費者行動・消費者心理に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

専門演習 I

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成します。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高められるように努めます。

【授業計画】

管理会計は組織の中の仕事を遂行するのに必要な様々な情報を提供するための技術と行為です。この授業では、初めに組織の観点から内部会計システムの技術の側面について検討し、その後、会計情報の性質と役割および管理会計技法の特徴を説明します。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使います。

【参考文献・資料】

授業を進めるなかで、適宜示します。

専門演習 II

浅井敬一朗

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日本企業の経営システム、生産システムおよび国際経営に関する文献の輪読を行う。

エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する。

また、後期授業終了時まで卒業論文もしくは、単位認定レポートの概要について必ず完成させること。

【評価方法】

演習でのプレゼンテーション、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

演習時に指定する

【参考文献・資料】

日本のもの造り哲学（藤本隆宏著 日本経済新聞社）

専門演習 II

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

身近な企業を取り上げ、企業の分析手法について学習する。具体的には、複数の分析視点から企業を分析し、さらに企業の経営戦略とその効果、問題点についても客観的に検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

財務諸表分析（桜井久勝著 中央経済社）
企業分析シナリオ（西山茂著 東洋経済新報社）
ゼミナール現代会計入門（伊藤邦雄著 日本経済新聞社）

専門演習 II

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 II

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況については重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 II

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての専門性と応用力を身につけ、リスクマネジメントと企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）についての理解を深めること。さらに、コミュニケーション能力、発言力、表現力に加え、分析力、企画力、創造力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されている、リスク管理や企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）に関して、経営情報システムの観点から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識とリスクマネジメントやCSRに関する専門的な知識を習得する。さらに、分析手法の応用としてのコンピュータ・シミュレーション、ケース・スタディーを利用した実社会の経営戦略の研究、経営情報理論を学ぶ。また、自らが考える新たな事業計画を作成し、発表と意見交換を行い、理解を深める。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. コンピュータ・シミュレーション
2. 経営情報論
3. 経営戦略ケース・スタディー
4. 新規事業計画の作成と発表
5. 戦略的総合リスク管理（ERM:Enterprise Risk Management）

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 II

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) グループ別にあるテーマに沿って研究を行い、成果を論文にまとめる。
- (2) 作成した論文をもとに他大学と討論を行うことで、「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝えるスキルを身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

【テキスト】

授業内に指示する。

【参考文献・資料】

授業内に指示する。

専門演習 II

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 課題説明（1）
- 第3講 課題説明（2）
- 第4講 グループ作業説明
- 第5講 グループ作業実施（1）
- 第6講 グループ作業実施（2）
- 第7講 グループ作業実施（3）
- 第8講 グループ作業実施（4）
- 第9講 グループ作業実施（5）
- 第10講 グループ作業実施（6）
- 第11講 グループ作業実施（7）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

提案書の内容、プレゼンテーション、出席、グループ作業への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の開始時にレジメを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 II

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習1、2、専門演習1で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続。
各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆のための基礎的資料の調査。
テーマ例としては産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。資料調査を継続。
リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。就職活動の方法、問題点の検討をする。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし。随時資料などを配布する。

【参考文献・資料】

専門演習 Iに同じ

専門演習 II

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生各自の問題意識にそったテーマを絞り込み、主体的に資料収集、文献による学習、ヒヤリングなどに取り組んでもらい、知識・考え方を深める。必要に応じて企業経営、国際企業経営など関する講義を織り交ぜる。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する。

専門演習 II

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 II

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. Textbook materials will be provided in Japanese as much as possible. Students will be encouraged to research internet materials (in Japanese and in English) to supplement text materials. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Topics will include:

1. International regulation of intellectual property rights (IPR)
2. Detailed studies of domestic laws and international treaties related to patent, copyright, trademark and other IPR
3. The workings of international regulatory bodies related to IPR, such as WTO, TRIPs and WIPO

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 II

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1週	Chapter 8	Touching Behavior
第2週	Chapter 9	Time
第3週	Chapter10	The Voice and Vocal Expression - Characteristics of the Voice
第4週	Chapter11	The Voice and Vocal Expression - Information Communicated through the Voice
第5週	Chapter12	Clothing as Communication
第6週	Chapter13	Personal Artifacts as Communication
第7週	Chapter14	Environmental Influences on Communication
第8週		Midterm Exam
第9週	Chapter15	What the Environment Communicates
第10週	Chapter16	Verbal Expression and Nonverbal Communication
第11週	Chapter17	Differences in Nonverbal Communication of Americans and Japanese
第12週		Extra classes
第13週		〃
第14週		Final Exam

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆ど英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況を総合的に判断する。

【テキスト】

Nonverbal Communication (S. Kathleen Kitao, and Kenji Kitao, Ikubundo, 2002)

【参考文献・資料】

ジェスチャー：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

専門演習 II

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IIの共通テーマも、専門演習Iのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

専門演習Iでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習IIIへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 II

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、II、専門演習Iで学習した知識・能力をさらに深める。ビジネスのベストプラクティスと最新IT動向を学習する。ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

出席、課題提出、プレゼンテーション、ゼミ活性化への貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。
資料、ケースはプリント配布。

【参考文献・資料】

Web進化論（梅田望夫 ちくま新書）

専門演習 II

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、基礎演習II、専門演習Iで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習する。大きく以下の2つのテーマを設定して学習し、各自又はグループでレポート作成や発表を行う。

1. 企業と「危機管理」のPR
2. 「聞くこと・聴くこと」と多文化共生

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 II

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

専門演習 II

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組みを理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

財務諸表に関する解説書
その他レジメ対応

専門演習 II

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

演習Iでの学習内容をふまえ、企業分析を行う。また、分析結果を題材として、プレゼンテーションとディベートを行う。

【評価方法】

出席状況、演習への積極的な参画、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習 II

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

IT革命と業種・業態に関する知識修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 II

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

国に応じ演習中に指示する。

専門演習 II

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に引き続き

1. 消費者行動・消費者認知に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

さらに、

3. 仮想広告を作成し、効果の測定や分析、ディスカッション（グループワーク・ゼミ内発表）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）および討議、ゼミ内発表の内容により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

専門演習 II

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成します。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高められるように努めます。

【授業計画】

管理会計行為を社会的関係としてとらえる。つまり、管理会計の方法や手段を人間間の関係を投影したものとして理解します。詳細は授業にて明示します。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価します。

【テキスト】

吉村文雄「組織の会計論」森山書店を使います。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示します。

専門演習 III

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

7つの習慣（スティーブン・R・コビー著 キング・ベアー出版）
企業分析入門（第2版）（パレブ他著 東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

専門演習 III

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 III

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 III

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習 III

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなリスクに対してどのように対応すべきかという戦略的総合リスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 III

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 問題とは何か
- 第3講 問題の分析
- 第4講 解決策の策定
- 第5講 問題解決セッション (1)
- 第6講 問題解決セッション (2)
- 第7講 問題解決セッション (3)
- 第8講 問題解決セッション (4)
- 第9講 問題解決セッション (5)
- 第10講 問題解決セッション (6)
- 第11講 問題解決セッション (7)
- 第12講 まとめと講評 (1)
- 第13講 まとめと講評 (2)

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席などで評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 III

大塚英揮（浅井敬一郎）

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

経営戦略論の中で各自関心のある分野を選択し、その分野の文献をまとめ、レジュメにて発表し、輪読する。最終的に提出する単位認定レポートの作成を目指し、文章力アップのための指導も行う。

【評価方法】

発表内容、発言の多寡などゼミへの取り組みで評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する。

専門演習 III

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

経営戦略論の中で各自関心のある分野を選択し、その分野の文献をまとめ、レジュメにて発表し、輪読する。最終的に提出する単位認定レポートの作成を目指し、文章力アップのための指導も行う。

【評価方法】

発表内容、発言の多寡などゼミへの取り組みで評価する。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

授業内で指示する。

専門演習 III

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、II、専門演習I、IIで学習したことを踏まえて、各自のリサーチテーマにそって和英資料講読、資料調査の継続。就職活動を進める。各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆の開始とリサーチの継続。

テーマの例として日本の女性基幹労働者、キャリア継続と家族的責任、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。各自の関心のもてるテーマについて資料調査を継続。就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジュメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。先輩から就職活動の体験談を聞く。企業コンサルタントなどから若年労働者のキャリア形成の変容について聞く。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし。随時資料配布。

【参考文献・資料】

専門演習I、IIと同じ。さらに日本労働研究機構の専門誌、論文を講読。

専門演習 III

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が選択した分野において取り組んだ内容を授業において発表し、その指導をしていく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み、および取り組んだ結果を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 III

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 III

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

This course is designed to provide students with practical knowledge of how private parties to international transactions handle and resolve the conflicts and disputes that arise from such transactions. Students will become familiar with the litigation process in formal court proceedings or in more informal non-judicial settlements (alternative dispute resolution), from initial filing to final payment of judgment.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at beginning of the term. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. Topics will include:

1. Structure of typical legal systems and judicial systems
2. Overview of the litigation process commonly used in lawsuits
3. Alternate dispute resolution (ADR)

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 III

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

Nonverbal Behavior の下位分野の一部である下記の項目について読解、discussion, presentation, 英語でのスピーチを行う。

1. Facial Expression
2. Eye Behavior and Gaze
3. Territoriality
4. Personal Space
5. Touching Behavior
6. Time
7. The Voice and Vocal Expression -- Characteristics of the Voice
8. The Voice and Vocal Expression -- Information Communicated through the Voice

【評価方法】

毎週実施する英語による時事問題やグローバル的トピックについてのスピーチ、期末試験、同じく英語での presentation, 出席率などを総合的に判断し、決定する

【テキスト】

Nonverbal Communication, S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao. Ikubundo, 2002

【参考文献・資料】

叢書・身体と文化： 表象としての身体、鷲田清一、野村雅一、大修、2005。
発話にともなう身振りの機能、西尾新、風間書房、2006
姿勢としぐさの心理学、P.E. Bull, 北大路書房、2001

専門演習 III

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IIIの共通テーマも、専門演習I及び専門演習IIのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生は、「卒業論文・制作」という授業も履修することになるので、その授業での成果を折々に発表する。

それ以外の学生も、専門演習I及び専門演習IIでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 III

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、基礎演習II、専門演習I、専門演習IIでの学習内容を踏まえて、各自の興味やリサーチテーマに沿った資料の輪読、コミュニケーションスキルのトレーニングを行う。就職活動を進める。

【評価方法】

出席、課題の準備や内容、参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 III

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講 学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する

専門演習 III

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習 III

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

グループ討議を中心に、発表力と思考能力向上のトレーニングを行う。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 III

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習 III

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成します。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

内部会計の特徴を企業会計と結びつけながら明らかにし、コントロールと意思決定の結合としての管理会計技法のあり方を議論する。具体的には、次の順序になります。

1. 企業会計とは何か。
2. 内部会計の特徴
3. コントロールとは何か。
4. 意思決定とは何か。

【評価方法】

出席およびレポートなどにより評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使うが、適宜資料を配ります。

【参考文献・資料】

教科書の中から必要な文献・資料を指示します。

専門演習 IV

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

3年間にわたるゼミ活動の集大成として、戦略論、組織論などに関する興味深い文献をいくつかとりあげ輪読する。なお輪読を進めていくにあたっては、文献に書かれた理論的知識をまとめ、それを現実の例にあてはめる訓練に力を入れていく予定である。経営学とは何か、に関する大まかなイメージを各人が頭の中にきちんと作り上げ、社会に出たときに「経営学を学んだ」経験がどう役に立つのかを理解する、ことを最終目標としたい。

【評価方法】

演習でのプレゼンテーション、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートを提出すること。

【テキスト】

使用しない。随時配布する。

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習 IV

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

これまでの総復習として、企業およびその業界の分析を行う。その際に、総資本利益率等、様々な比率を計算し、企業の問題点を導出するだけでなく、同業他社や市場の分析等を通じて、当該問題点の改善策も検討する。

【評価方法】

ゼミへの参加、取り組みなどを考慮して決定する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレブ他著 東京大学出版会）
企業分析（増補版）（山口孝他著 白桃書房）
要説 経営分析（青木茂男著 森山書店）

専門演習 IV

石川雅之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 IV

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 IV

石橋善弘

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日常生活、ビジネスに関わる数学的な問題について、講義、学生の発表、討論をセミナー形式で行う。

【評価方法】

出席状況およびレポートまたは試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

未定

専門演習 IV

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなリスクに対してどのように対応すべきかという戦略的総合リスクマネジメントについて、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 IV

梅田敏文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 コンテンツの作成 (1)
- 第3講 コンテンツの作成 (2)
- 第4講 DVDの作成方法説明
- 第5講 DVD作成 (1)
- 第6講 DVD作成 (2)
- 第7講 DVD作成 (3)
- 第8講 DVD作成 (4)
- 第9講 DVD作成 (5)
- 第10講 発表 (1)
- 第11講 発表 (2)
- 第12講 発表 (3)
- 第13講 発表 (4)

【評価方法】

DVDの内容、発表態度、出席で評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 IV

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

マーケティングの中で各自関心のある分野を選択し、その分野の文献をまとめ、レジュメにて発表し、輪読する。それによりマーケティングの専門知識を習得する。

【評価方法】

発表内容、発言の多寡などゼミへの取り組みで評価する。

【テキスト】

授業内にて指示する。

【参考文献・資料】

授業内にて指示する。

専門演習 IV

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習、専門演習 I～IIIで学習、リサーチしたことを踏まえて、論文執筆。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。
テーマ例として、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分、開発途上国への開発協力とジェンダー視点など。

就職活動と並行して論文執筆を進める。
リサーチ進行状況を各自がレジュメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

基礎演習、専門演習 I～IIIに同じ。さらに各自の問題意識にそって専門ジャーナル、紀要論文を講読する。

【参考文献・資料】

随時資料配布。

専門演習 IV

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が取り組んだ内容を授業において発表し、まとめができるように討議・指導していく。

【評価方法】

出席状況、演習での報告、およびレポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 IV

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 IV

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

The aim of this course will be to acquaint students with the most typical of legal problems that are encountered in international trade and business transactions. Students should gain practical knowledge of how these problems arise, how they are to be handled, and the forum in which settlement can be made.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. Topics will include:

1. Comparison of the various national domestic laws related to monopoly and unfair trade, product liability, and financial regulation.
2. Current practices and trends in international regulation of trade related issues.
3. Examination of the structures and procedures of WTO, WIPO and TRIPs as relates to these trade related issues.

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 IV

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

Nonverbal Behavior の Artifacts とその他の関連分野に関して各々の学生の選択した国の非言語行動について約40分の英語にあるpresentationを行い、20分の質疑応答に対処する。

【評価方法】

上記のプレゼンテーション、出席率などを総合的に考慮し、判定する

【テキスト】

Nonverbal Communication, S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao, Ikubundo, 2002

【参考文献・資料】

ジェスチュア：しぐさの西洋文化、デズモンド・モリス他、多田道太郎、奥野卓司訳、角川選書、平成4年

非言語行動の心理学：対人関係とコミュニケーション理解のために、V.P. リッチモンド、J.C. マクロスキー著、山下耕二編訳、北大路書房、2006

専門演習 IV

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IVの共通テーマも、専門演習IIIのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況について複数回発表する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 IV

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、基礎演習II、専門演習I、専門演習II、専門演習IIIでの学習内容を踏まえて、各自の選択した分野やテーマに沿って取組んだ内容を授業で発表し、ディスカッションをファシリテートする。

【評価方法】

出席、授業態度、発表の内容と成果などを総合して評価する。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 IV

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第12講 学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する

専門演習 IV

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習 IV

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

種々のケースを用いて、企業の情報化推進の現状と課題を考察する。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 IV

森下允之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

学生の関心度と重要性から、対象地域・国・テーマを学生ごとに選択させ、卒論に耐えられるような報告書を作成する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の報告書への意見表明も含む）を総合的に評価する。

専門演習 IV

吉村文雄

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成します。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

現代の管理会計論の傾向をとらえ、現在の企業実務において発展している管理会計技法の有り様と限界を明らかにします。具体的には、以下のようになります。

1. 現代の管理会計論の特徴。
2. 戦略管理会計論の特徴。
3. 各企業の内部会計実務の検討。
4. 新たな内部会計実務。

【評価方法】

出席およびレポートなどにより総合的に評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』森山書店を使います。

【参考文献・資料】

テキストの中に出てくる文献・資料を適宜配布します。

卒業論文・制作

浅井敬一郎

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、下記の(1)～(4)の提出期限内に最低各2回、計8回以上の中間報告を行う。必要に応じ個別指導を行う。

- (1) 5月上旬までに論文骨子の提出
- (2) 7月下旬までに論文概要の提出
- (3) 10月下旬までに第1稿の提出（できる限り9月末までに完成させること）
- (4) 最終稿提出（12月中～下旬）

【評価方法】

卒業論文の内容はもちろん、出席状況、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある(1)～(4)を全て提出しなければ単位を認定しない。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

卒業論文・制作

浅野敬志

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

【評価方法】

卒論の内容およびその発表を考慮して決定する。

【テキスト】

卒論の内容に応じて必要な資料を配布する。

卒業論文・制作

石川雅之

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

卒業論文・制作

石坂綾子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

基礎演習、専門演習の総まとめとして、履修生が関心を持つ論文テーマを設定し、卒業論文を完成させる。

【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文執筆を進める。論文骨子（5月）、論文概要（7月）、初稿作成（11月）の過程において個別報告・個別指導を行い、完成度を高めていく。

【評価方法】

卒業論文作成へ向けての日常的な姿勢と提出された論文によって評価する。

【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

卒業論文・制作

石橋善弘

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

基礎演習、専門演習を通じて習得した知見をもとに、卒業論文を制作させる。また論文作製のための技術、論文口頭発表のための技術を習得させる。

【評価方法】

日常の勉学態度および作製された卒業論文の良否によって評価する。

卒業論文・制作

上原 衛

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの決定を行い、テーマに沿った資料・事例・データ・文献の収集・調査と分析方法について指導する。論文骨子の作成、論文概要の作成、初稿作成の過程に従い、学生各自に個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、卒業論文内容により総合的に評価する。研究の新規性・独創性、有用性に加え論旨の展開、従来研究の調査、研究成果の意義が明確であるかを重視する。

【テキスト】

指定しない。

卒業論文・制作

梅田敏文

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。
各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

【テキスト】

特になし。

卒業論文・制作

大塚英揮

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各自が卒論の中間発表を行い、作成にあたって受講生と教員がコメントを行う。

【評価方法】

卒業論文の内容と作成プロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

授業内にて指示する。

【参考文献・資料】

授業内にて指示する。

卒業論文・制作

國信潤子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

- 1) 卒論テーマの画定と研究方法の決定。当該領域の先行研究を講読する。
- 2) 論文執筆方法の指導と論文構成作成
- 3) テーマの例
雇用機会均等法と実施状況
女性管理職のキャリアコース
男女の家族的責任
国際開発協力におけるジェンダー視点 など

【評価方法】

完成論文による評価

【テキスト】

特になし。個人の問題意識にそって、随時文献・資料検索指導あるいは文献紹介。

【参考文献・資料】

各自の研究テーマにそって選択する。学術論文、専門ジャーナル論文などの検索方法を指導する。

卒業論文・制作

小池弘道

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個人別の指導を行なう。

【評価方法】

卒業論文により評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

卒業論文・制作

真田幸光

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

論理的な思考回路の構築と単純明快なる文章作成能力の向上を目標とする。

【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

卒業論文・制作

JOLLY, James A.

【Course description】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【Course objectives】

卒業論文の完成

To provide students with guidance in the preparation and completion of their senior theses.

【Course schedule】

After the first class session, consultation and counselling sessions between individual students and instructor will be arranged and appointed as needed. Students will be requested to prepare their own time-line plan of how they will develop and complete their work by the second week of the term. Students must also keep the instructor currently informed on the progress of their work and are expected to promptly report any problems encountered which delay their progress.

【Assessment】

Grades will be awarded based upon subjective evaluation of diligence of effort, quality of research, and quality of content of the completed work.

【Textbooks】

No textbook will be assigned.

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

卒業論文・制作

ジョリー幸子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個々の当該専門演習履修者の卒論テーマに沿って必要時において、適宜指導する。

【評価方法】

卒論作成のための、研究企画、先行研究などの関連資料の検索、執筆の過程における進捗率、及び完成した卒論の内容、貢献度などを総合的に考慮し、判定する。

卒業論文・制作

杉本典之

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Iないし専門演習IVの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の作成に挑戦する学生は、5月中旬に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文作成のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文作成作業の具体的な進展に併行して改めて学修し直す。

【評価方法】

卒業論文の出来栄によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

卒業論文・制作

福本明子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の作成についてグループ又は個別の指導を行う。各自が卒業論文のテーマの決定後、先行文献の収集と読解、独自の実験、観察や分析、論文執筆について指導を行う。

【評価方法】

卒業論文への取組み姿勢、論文の形式、内容の視点から評価する。

【テキスト】

必要に応じてテキストやプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じてテキストやプリントを配布する。

卒業論文・制作

藤井正志

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

【評価方法】

卒業論文に対する取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

適宜指定する

卒業論文・制作

前川三喜男

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行う
卒論内容の添削

【評価方法】

卒論の内容で評価

【テキスト】

なし

卒業論文・制作

三浦信宏

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

学生個々人のテーマ、進捗状況に応じて対処する。

【評価方法】

卒論の内容によって評価する。

【テキスト】

内容に応じて指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

卒業論文・制作

森下允之

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

和文のみならず英文資料を読解、利用しながら、質の高い論文作成を指導。この課程で、英語の専門用語の習得も目指す。

【評価方法】

卒論への姿勢（自分の分のみでなく、他の学生の卒論への意見表明も含む）および卒論の内容と水準などを総合的に評価する。

卒業論文・制作

吉村文雄

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおいての研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させます。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

内部会計を中心に問題点を把握し、その解決法の把握を通じて研究テーマを決定します。あるいは、将来の職業選択を踏まえてその職業に必要な技法や思考法をとらえて研究テーマを決定します。論文の作成に当たっては、随時双方向的に議論を深めていきたい。

【評価方法】

卒業論文の制作をもって評価します。

【テキスト】

一応、吉村文雄『組織の会計論』を使うが、文献を多用する必要から適宜指示します。

【参考文献・資料】

テキストを中心に文献・資料を提示します。

〈ビジネス学部特別講座科目〉

資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

藤井正志

【授業の概要】

現在、証券業務に従事している各分野のプロが、基礎から最先端かつ専門的な資本市場と証券投資について実践的な講義を行います。直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何かについて考え、金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターンのか考え方、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業の目標】

資本市場の役割、投資とリスク・リターンの考え方、株式・債券投資について理解し、実務面についての知識も習得すること。

【授業計画】

- (1) ガイダンス
- (2) 経済情報の捉え方
- (3) 経済成長と金融資本市場
- (4) 証券投資のリスク・リターンについて
- (5) ポートフォリオ・マネジメント
- (6) 債券市場の役割と投資の基礎知識 (1)
- (7) 債券市場の役割と投資の基礎知識 (2)
- (8) 株式市場の役割と投資の基礎知識 (1)
- (9) 株式市場の役割と投資の基礎知識 (2)
- (10) 投資信託の役割とその仕組みについて (1)
- (11) 投資信託の役割とその仕組みについて (2)
- (12) 資本市場における投資家心理について
- (13) 資産運用とライフ・プランニング

※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】

出席状況と毎回の授業で提出するレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてそのつと関連資料を配布する。

【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）

ジェンダーと社会

中島美幸

【授業の概要】

文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

【授業の目標】

「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 表現する女性の困難(1)——イギリス小説誕生の背景
- 第3回 表現する女性の困難(2)——樋口一葉の挑戦
- 第4回 「青鞥」の女性たちの主張
- 第5回 <母>の表現——母性神話を問う
- 第6回 <娘>の表現——恋愛と自立と
- 第7回 ことばとジェンダー
- 第8回 男性作家のジェンダー
- 第9回 幼い頃に出会った表現——「シンデレラ」
- 第10回 教科書のなかのジェンダー
- 第11回 映画のなかのジェンダー
- 第12回 <家族像>を描きなおよす

【評価方法】

学期末レポートを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。(詳細は授業にて説明する)

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第3回 恋愛と結婚
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 母になるということ、父になるということ
- 第6回 多様性とエンパワメント
- 第7回 女性に対する暴力の根絶
- 第8回 「男らしさ」からの解放
- 第9回 「働けぬ男」と「働けない女」
- 第10回 近代的性別分業——現在と2055年の日本
- 第11回 男女をめぐる国際比較
- 第12回 女性学・男性学の誕生
- 第13回 テスト

【評価方法】

学期末テストを基本に、授業毎に提出のコメントカードの総合計によって評価する。(詳細は授業にて説明する)

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

少子化時代に不可欠といわれるワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)が、戦後の日本社会でなぜ阻害されてきたのかを、新聞記者としての取材の成果を通じて明らかにし、その実現へ向けた方策をさぐる。

【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要な働き方の仕組みや男女平等のための法制度、男女がともに働いて子育てできる経済・社会構造のあり方を総合的に身につけさせ、両立できる働き方のため個人が将来をどう設計すればいいかを考えさせる。

【授業計画】

新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。

1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
2. ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
3. 格差社会と少子化のはざま～不安定雇用と福祉削減に揺れる「子育てできる社会」
4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】

『家事の値段』とは何か(久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年)

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門(田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年)
ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か(竹信三恵子著 岩波書店 2002年)

女性学・男性学

中村 彰

【授業の概要】

1999年6月に成立した「男女共同参画社会基本法」がめざす社会システムを検証し、仕事の場や家庭、地域で、私たち男女がフェアに対等に生きるとは何かを説明します。日本における女性運動、男性運動のあゆみにもふれ、先人たちの心根を学びます。セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、過労死、中高年の自殺など、そのときどきの社会問題を男女共同参画の視点で読み解きます。

【授業の目標】

男女共同参画社会とは何か? 新聞などのプリント、ビデオなどで判りやすく講義します。ワークショップで自分を振り返る工夫も試みます。

【授業計画】

- 1 ジェンダーと男女共同参画社会
- 2 日常に潜むジェンダー・バイアス
- 3 女子差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法
- 4 ドメスティック・バイオレンス
- 5 セクシャル・ハラスメント
- 6 恋愛・性をめぐるジェンダー
- 7 多様な性を考える一性自認・性指向・インターセックス
- 8 メディア・リテラシー
- 9 教育とジェンダー
- 10 仕事社会がもたらしたもの
- 11 高齢社会とジェンダー
- 12 育児支援とジェンダー
- 13 福祉・医療現場とジェンダー
- 14 ジェンダーからみた障害者問題

【評価方法】

レポートにより評価します

【テキスト】

中村彰『男性の「生き方」再考 —メンズリブからの提唱』世界思想社 2005
伊藤公雄ほか『女性学・男性学 —ジェンダー論入門』有斐閣 2002

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することを目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことは目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉榮興 河北大学出版社）

比較文化

星山幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、種々の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化と文明
2. 文化の理解
3. 民族と国家と文化
4. ナショナリズムと文化
5. イスラームの文化
6. イスラームとジェンダー
7. トルコの農村の暮らしと文化
8. 南北問題とモノの国際化
9. 食の文化
10. グローバル化とローカル化
11. 異文化交流

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%
期末試験 30%
期末レポート 50%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

国際交流

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
 - ・自治体と国際交流
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・地球市民教育
 - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
 - ・先進的組織運営のさまざまな事例
 - ・交流から共生へ

【評価方法】

レポート及び平常点で評価する

【テキスト】

オリジナル教材

【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

生涯学習

藤井基貴

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業の目標】

受講者が生涯にわたる学習をみずから計画、実行していくための力量形成をはかることを目標とする。授業では生涯学習に関する基礎知識を解説し、受講者には実際に自己分析、キャリアシート作成などの作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 生涯学習と学校教育
- 3 生涯発達と発達課題
- 4 戦後日本の教育改革
- 5 生きがいと自己実現
- 6 人生と学習計画
- 7 学習意欲と労働
- 8 生涯学習施設の活用
- 9 まとめ

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価
（評価のポイントについては第一回の授業にて説明する）

【テキスト】

テキストは特に指定しない。毎回A3サイズのプリントを配布する。

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習（関口礼子他編著 有斐閣アルマ）
生涯学習の展開（香川正弘他編著 ミネルヴァ書房）
資料でみる教育学（篠田弘編、福村出版）
参考文献については随時紹介する。

日本の歴史

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 人間の歴史が日々のたえない暮らしの中からつくられることを理解すること
- (2) 家族や親族をめぐるあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶこと
- (3) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟すること

【授業計画】

- (1) 婚姻と家族・親族の諸形態1＜妻問婚の特徴＞
- (2) 婚姻と家族・親族の諸形態2＜婿取婚と嫁取婚の成立＞
- (3) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (4) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」
- (5) 氏・名字・姓の歴史
- (6) 戸と戸籍
- (7) イエとヤケ
- (8) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (9) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (10) 家族と親族＜日本の親族体系の特徴＞

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

東洋の歴史

大森信徳

【授業の概要】

東アジア地域に大きな影響を及ぼした中国の歴史・文化について学び、その文化的特質を考察するとともに、自国の文化との比較を通じて、相互間にいかなる共通性・異質性が存在するかという点についても議論したい。

【授業の目標】

個々の事象を手がかりに、中国の文化的風土、中国人のメンタリティーについて考察し、ステレオタイプに依存した見方から抜け出して、自分なりの見識を培うことを目標とする。

【授業計画】

(1) 先史 (2) 殷周 (3) 春秋戦国 (4) 秦漢 (5) 魏晋南北朝 (6) 隋唐 (7) 宋 (8) 遼西夏金元 (9) 明 (10) 清
毎回一つないしは二つのテーマについて、基本的の上を示したように時代順に講義を進める予定である。文献史料のみならず、遺跡・美術品・出土文物などのモノも数多く扱うため、ビデオやOHCなどの視覚教材を積極的に活用する。

【評価方法】

期末試験およびレポートによる課題提出にもとづき総合的に評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布する。

【参考文献・資料】

教場で提示する。

西洋の歴史

北村陽子

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業の目標】

他者との線引きを行い、異質なものを排除するナショナリズムがどのように発展し、何によって補強されたのか。この点をナショナリズム発祥の地ヨーロッパの歴史を学ぶことで理解すると同時に、その危険性にも留意し、現代社会を建設的に分析する視点をもつようになってほしい。

【授業計画】

1. はじめに－国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
3. イギリスの国民国家－「イングランド」から「イギリス」へ
4. アメリカ合衆国の国民国家－誰が「アメリカ人」か？
5. フランスの国民国家－国民共同体創出の理念型
6. ドイツの国民国家－統一国家形成までの道のり
7. おわりに－20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、学期末テストをもとに行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム（谷川稔 山川出版社）
- 国民国家を問う（歴史学研究会編 青木書店）
- ヨーロッパ市民の誕生（宮島喬 岩波書店）
- その他講義中に指示する。

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙 二葉亭四迷
4. 三輪弘忠 巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明 鈴木三重吉
7. 千葉省三 浜田廣介
8. 少年詩 童謡 金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑 江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉 坪田譲治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験 レポート 出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）などの歴史や文化的意義について講義し、ビデオなどによる鑑賞も行う。

【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
2. 日本芸能演劇史概説
3. 芸能の発生について
4. 神楽について
5. 伎楽・舞楽・散楽について
6. 田楽について
7. 猿楽について
8. 能について
9. 狂言について
10. 歌舞伎について
11. 文楽について

また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

【参考文献・資料】

- 日本演劇全史（河竹繁俊著 岩波書店）
- 演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編 平凡社）

書道

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させろ。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

書道

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書之美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の手本、古典法帖。

音楽

松下伸也

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、いろいろなジャンルの名曲を鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業の目標】

音楽の情操教育を通して創造性・自己表現力を養い感性を磨く。アンサンブルを体験し他人とのコミュニケーションを図る。

【授業計画】

- 第1回 自分の身体の楽器を知る
- 第2回 腹式呼吸と身体の使い方（えっ？赤ちゃんは「ラ」の音で誕生してくるの？）
- 第3回 ヴォーカルトレーニング1（腹式呼吸と身体の使い方2 男子は腹式呼吸はすぐマスターできるのに女の子はなぜ難しい？）
- 第4回 ヴォーカルトレーニング2（腹式呼吸と身体の使い方3（柔軟）「アイーン体操」）
- 第5回 ヴォーカルトレーニング3（自分の声域を知る）
- 第6回 ヴォーカルトレーニング4（自分の楽器を磨く）
- 第7回 鑑賞1（声楽曲・声楽作品の鑑賞）
- 第8回 鑑賞2（声楽作品以外を中心とした鑑賞）
- 第9回 創作（音の出る仕組みを知る）
- 第10回 演奏法1（音楽の3要素）
- 第11回 演奏法2（コード・和音付け）
- 第12回 実践1（発表会に向けてグループ分け）
- 第13回 実践2
- 第14回 実践3
- 第15回 実技演奏発表会

【評価方法】

実技発表を5割、平常点（出席状況・授業態度・達成度・授業内でのレポート）を5割として評価する。

【テキスト】

必要に応じ適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じ授業内で紹介する。

大衆文化

鈴木 亙

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業の目標】

消費社会における戦後若者文化の実態解明を通じて、文化の逆転現象を確認し、人間にとって消費に基づく大衆文化がいかなるものか、その本源に迫りたい。それが今後の各自にとってどういう意味があるかにも触れたい。

【授業計画】

- 1 戦後世代の特徴からみた大衆文化の諸相を探る
 - 1：1 団塊の世代（1965～1975）
 - 1：2 新人類（1980年代）
 - 1：3 団塊ジュニア（1990年代）
 - 1：4 新人類ジュニア（2005～2015）
- 2 大衆文化を支える消費社会を分析する
 - 2：1 現状認識
 - 2：2 『消費社会の神話と構造』（ボードリヤール）
 - 2：3 人間の本源的な欲求としての消費（G・バタイユ）
- 3 モダンの脱構築＝21世紀の大衆文化との戯れ方を探る

【評価方法】

出席、受講態度、提出物によって総合的に評価する。学習意欲のある、明るく元気な学生の受講を歓迎します。

【テキスト】

必要に応じて、授業中に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて、授業中に指示する。

映像文化

小倉 史

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。欧米やアジアの映画との比較の視点から日本映画の特徴について講義し、映画への興味と関心を高める。

本講義では、特に「ホームドラマ」というジャンルに着目し、日本映画のなかで「家族」がどのように表象されてきたかを考える。比較対照として欧米の映画、アジアの映画、TVドラマなどにも幅広く視野を広げるつもりである。また、関連する映像作品は授業内に鑑賞する機会を設けたい。

【授業の目標】

「ホームドラマ」というサブジャンルを通して、映像表現の特質を理解し、映像を意識的に「見る」習慣を身につける。

【授業計画】

1. イントロダクション～映画のジャンルを考える～
2. 「ファミリー・メロドラマ」というジャンル
3. 日本映画に出現した「ホームドラマ」とその変遷
4. 崩壊する家族（1）アメリカ映画編
5. 崩壊する家族（2）日本映画編
6. 異端家族・擬似家族の表象（1）アメリカ映画編
7. 異端家族・擬似家族の表象（2）日本映画編
8. 「ホームドラマ」の様式と映像表現
9. 食卓の場面から捉える「ホームドラマ」
10. 終わりに～近年のTVドラマを批評する～

【評価方法】

学期末にレポートを課す。出席状況と授業後提出してもらったコメントの内容も加味する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

『映画ジャンル論』（加藤幹郎著、平凡社）
『〈家族〉イメージの誕生 日本映画にみる〈ホームドラマ〉の形成』（坂本佳鶴恵著、新曜社）

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っている。例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物界の分類
2. 生物の進化
- 第2-6回 3. 植物と人の関わり
 - 1) 農耕の始まり
 - 2) 世界の農耕文化
 - 3) 日本農耕文化の起源と発展
4. 人が手を加えた植物-作物
 - 1) 作物とは？
 - 2) 世界の作物の起源
- 第7-8回 5. 作物改良の原理と方法
 - 1) 作物改良の原理
 - (1) メンデルの法則-遺伝学
 - (2) 遺伝の物質的基礎
 - 2) 作物の改良方法
- 第9回 6. バイオテクノロジー
- 第10回 1) バイオテクノロジーとは？
- 第11-12回 2) 作物の改良とバイオテクノロジー
 - (1) 細胞・組織培養
 - (2) 遺伝子操作
 - (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに食べるか？
 - (1) 倫理
 - (2) 安全性

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界

江崎敏之

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球上の生物の持つ共通性と特殊性を学ぶ。生命の単位である細胞という概念を知り、細胞の外部から内部への情報伝達のしくみ、細胞の発生や分化のしくみ、生殖や遺伝のしくみなどをとりあげ、生命の基本を理解する。

【授業計画】

- 第1回 1. 生物の多様性と一様性
 - 1) 生物の系統
 - 2) 生体を構成する物質
- 第2回～4回 2. 生物体のつくりとはたらき
 - 1) 細胞の構造
 - 2) 酵素
 - 3) 光合成と呼吸
- 第5回～10回 3. 生命の連続性
 - 1) 生殖と減数分裂
 - 2) 発生と分化
 - 3) 遺伝
 - (1) 遺伝の法則
 - (2) 遺伝子と染色体
 - (3) 遺伝情報の複製
 - (4) 遺伝子の発現
- 第11回～13回 4. 動物の反応
 - 1) 刺激と反応
 - 2) 体液の恒常性
 - 3) 動物の行動

【評価方法】

出席状況とテストによる。

【テキスト】

使用しない。

生命の科学

林 博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞。
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

生命の科学

小野佳成

【授業の概要】

ヒトの生命維持機構を他の脊椎動物と比較しながら解説する。

【授業の目標】

ヒトの生命維持機構が効率的に上手く働き、生命維持が行われているかを理解する。

【授業計画】

1. ヒトはなぜ食べるのか？ (1) ビタミン・エネルギー源
2. ヒトはなぜ食べるのか？ (2) 消化と吸収
3. ヒトはなぜ食べるのか？ (3) 肥満
4. ヒトは陸上で生活できるのか？ (1) 腎臓と排尿
5. ヒトは陸上で生活できるのか？ (2) 肺呼吸
6. ヒトは陸上で生活できるのか？ (3) 運動器官
7. ヒトは冬にも活動できるのか？ (1) 恒温
8. ヒトは冬にも活動できるのか？ (2) 心臓と血管
9. ヒトは細菌、ウイルス等の微生物からどのようにして身体を守っているのか？ 感染防御
10. ヒトはどのようにして見るのか？ 眼と視覚
11. ヒトはどのようにして音を聞くのか？ 耳と聴覚、平衡感覚
12. ヒトはどのようにしてにおいを感じるのか？ 鼻と嗅覚
13. ヒトはどのように殖えるのか？ 胎生
14. ヒトはどこから来たのか？ 進化について

【評価方法】

小テストと出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

なし

食品の科学

杉浦信彦

【授業の概要】

ヒトの生命の源泉は食物に在り、幸福の源泉は健康に在るといわれている。生涯を通して健やかで安らかな暮らしを続けるにはどうしたらよいのか。生命と健康を脅かす様々なリスクに対処しながら健康を守るための手段を、食品と栄養の視点から学びます。

【授業の目標】

1. 食と健康のかかわりの基礎的知識を学ぶ。
2. 食品の表示を知り、正しい知識に基づいた食品の選択を考える。
3. 過剰および不足栄養成分と生活習慣病とのかかわりを学ぶ。
4. 食の化学的安全性について添加物や農薬の功罪を中心に考える。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 食と健康を考える“食の5条件とは”
3. 食品の表示
4. 健康補助食品・サプリメント
5. 現代人に不足する成分元素 1)カルシウム
6. “ ” 2)鉄
7. 過剰栄養とメタボリックシンドローム
8. 食生活の安全 1)食品添加物
9. “ ” 2)天然着色料と合成着色料
10. “ ” 3)合成保存料の功罪
11. “ ” 4)合成甘味料の恐怖
12. “ ” 5)残留農薬とポストハーベスト
13. 飲料水の化学的安全性を考える。

テーマによりVTR視聴や簡単な演習を行います。

【評価方法】

出席回数、授業内容についてのメモリーシートおよびレポートの提出により評価します。

【テキスト】

使用せず、適時プリントを配布します。

【参考文献・資料】

適時紹介します。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能を持っているかを理解する。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

【参考文献・資料】

講義の際 紹介

生活の化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき構造式やエックス線結晶構造を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、日曜雑貨の化学、ホルモンとフェロモンの化学、身のまわりの毒の化学、薬と作用の化学、知っておきたい病気と治療法などの分野から毎回トピックスを取り上げ、最先端の研究成果も紹介しながら、なぜ？ どうして？ という素朴な疑問に図やイラストを多用しながら答える。また、最近テレビコマーシャルを賑わした数々の生活関連ヒット商品の化学的なきみを解説、化学の楽しさ、面白さを学ぶ。

【評価方法】

期末に提示する問題の答えをレポートで提出させ、レポートの内容と出席した実授業時数で評価。

【テキスト】

毎回配布するプリント(A3両面)で講義。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

環境の保護

田部一史

【授業の概要】

いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれを取りまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：人為による砂漠の拡大
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
- 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：生体防御
- 第9講 環境汚染とがん：遺伝子を狂わせる物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
- 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
- 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。
(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることであろう。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 憲法総論
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 国民主権
- 第5回 平和的生存権と戦争の放棄
- 第6回 基本的人権
- 第7回 国会
- 第8回 内閣
- 第9回 裁判所
- 第10回 地方自治
- 第11回 憲法の変動と保障
- 第12回 国法の諸形式
- 第13回 国家と国家統治の基本
- 第14回 日本国憲法と法の支配
- 第15回 政府の手續に関わる諸権利

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義I (第2版) (初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門政治学

西尾林太郎

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業の目標】

現代政治や現代社会について主体的な視座を確立する。

【授業計画】

1. 国内政治と国際政治
 - a 国際社会とは？
 - b 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - c トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - d イスラム原理主義とグローバルスタンダード
2. 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - a 「都市国家」のデモクラシー
 - b 市民社会と大衆社会
 - c 立法国家と行政国家
 - d 社会契約論
3. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
4. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 冷戦構造と55年体制
 - b 政党政治と市民参加

【評価方法】

試験(教科書と自筆ノートのみ持込可)と出席状況による。

【テキスト】

市民政治再考(高島道敏 岩波ブックレット617)

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

入門政治学

李 相睦

【授業の概要】

本講義は、政治学を勉強する人々に、政治学に関する基本概念の意味を的確に把握させると共に、更にその諸概念間の関係を正確に理解させる点に、その目的がある。本講義の関心は、現代の政治が現実如何なる問題に直面しているのか、又それを理解する上で、今日の政治学が、何を示唆しているのか、との点を理解する所にある。その際、その分析に当たっては、概ね現代の政治や社会に見られる様々な事象を説明の素材として用いることとする。

【授業の目標】

1. 国内・国際政治
 - a 国家とは？
 - b 政治とは？
 - c 国民国家、ナショナリズム、国際社会、国際貢献
2. 政治の機構
3. 地方自治
4. 現代の政治過程
 - a 政治と利益団体、NPO、市民運動
 - b 選挙、官僚、議会
 - c マスメディアとマスコミュニケーション
 - d 議会制デモクラシーと市民
5. 社会福祉
 - a 高齢者社会
 - b 児童福祉
6. 戦後国際社会と日本の政治
 - a 内政と外交
 - b 国際社会
 - c 日本政治

【授業計画】

政治に関心を持たせ、その基礎的な理解を追及する。
試験（持ち込み可）と出席状況による。

【評価方法】

試験70% レポート20% 出席10%

【テキスト】

阿部 斉『政治学入門』（岩波書店）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。
授業は、ディベート方式、教科書は必ず読んで来ること。

入門法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法学学習と文学作品
3. 法学学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門経済学

細野義晴

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業の目標】

経済の基礎理論にとどまらず、経済の実情把握に重点をおいて、わが国の経済の仕組みの変化やそこでの課題なども講義し、日々の新聞などで見聞きする経済の動きが十分理解できるようになることをめざす。

【授業計画】

1. 経済学とその体系
経済学とは、マクロの経済とミクロの経済、市場のメカニズム、など
2. マクロ経済のとらえ方
GDP統計のしくみ、三面等価、有効需要と乗数のメカニズム、など
3. 日本の経済と景気
日本経済の成長と景気変動、バブルとバブル崩壊後の経済動向、など
4. 個人のくらしと経済
個人の消費行動の理論、消費と貯蓄、貯蓄と金融資産の選択、など
5. 企業の経済活動
企業の生産活動の理論、消費者余剰と生産者余剰、独占の弊害、など
6. 政府の経済活動
財政のしくみと役割、日本の財政事情と財政改革、地方の財政、など
7. 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行と金融政策、金融ビッグバン、など
8. 日本と世界の経済
経済のグローバル化、国際収支のしくみ、外国為替相場の変動と影響、など

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない。（資料配布）

【参考文献・資料】

- (1) What's 経済学（辻正次・八田英二著、有斐閣）
- (2) 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）

入門法律学

高橋秀治

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、いろいろな生活場面ごとに、法律がどのようにになっているのかを、身近な事例を挙げたりしながら考察していきます。

【授業の目標】

それぞれの法律や、その基礎にある考え方に触れて、またそれらの考え方を実際の生活に当てはめてみることに。

【授業計画】

授業では、冒頭でそれぞれの回に関係する問題を考え貫き、その解説も含めながら講義をしていきます。項目としては、いまのところ以下のようものを考えています。

1. 法律を学ぶということ
2. 憲法の大切さ
3. 民法と毎日の生活
4. 罪と罰と刑法
5. 商法と起業のための基礎知識
6. 民事訴訟法を知って裁判所を使いこなす
7. 刑事訴訟法と裁判員制度
8. バイト・OL・サラリーマンと労働法
9. 国際法から見た日本
10. 意外と身近な行政法
11. いろいろな国や地域の法律
12. 法律の歴史をひもといてみる
13. 法律はないけれど法律的な解決が必要な新しい問題

【評価方法】

学期末の筆記試験を基本にして評価します。

【テキスト】

授業でプリントを配付します。その他に、小型の『六法』を購入してください。（詳細は第一回目の授業で話しますが、ポケット六法（有斐閣）、コンパクト六法（岩波書店）、新六法（三省堂）などがあり、価格は1700円～1800円程度です。）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介したり、配付します。

入門社会学

高木真理子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会など、社会を総合的に研究する学問である。学生の関心と興味を中心に、現代社会の課題を分析対象に取り上げ社会学の入門とする。

【授業の目標】

身の回りで起こっていることに興味をもち、それについて深く考察できるようにしよう。

【授業計画】

世界で、そして日本でおこっている身近な事柄をとりあげ、社会のしくみや制度に目を向ける。『社会学のエッセンス』という本をテキストとして使いながら、大体以下のテーマについて、受講者とともに考えていきたい。授業回数によって割愛するテーマがでてくることを了承してもらいたい。

1. 他者を理解すること
2. アイデンティティ
3. ステイグマ ラベリング理論
4. 日常生活の演技
5. 正常と異常
6. 現実と虚構
7. ジェンダー
8. 規範と制度
9. 社会の構造と機能
10. コミュニケーション
11. 権力
12. イデオロギー
13. 共同体（コミュニティ）
14. 宗教
15. 社会的想像力

【評価方法】

出席20%、小テスト20%、レポートまたは期末テスト60%

【テキスト】

友枝敏雄 他著 『社会学のエッセンス』 有斐閣アルマ

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

入門社会学

堀田裕子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総合的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

【授業の目標】

人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもうち破っていたらと思います。

【授業計画】

- 1) イントロダクション——社会学とは
- 2) 社会化と自我——人「間」になるプロセス
- 3) 相互行為——地位と役割の社会的意義
- 4) 行為——行為の意味を「理解」する
- 5) 集団と組織——集団での活動とルール
- 6) 未組織集合体——人間は群れるとどうなるか
- 7) 権力と支配——支配する側／される側
- 8) 見えない権力——権力主体不在の権力
- 9) ジェンダー——女と男をめぐる諸問題
- 10) 家族——変わりゆく家族と少子高齢化
- 11) 社会病理——自殺や犯罪はなぜ起こるか
- 12) 教育——学校は何を教える所か
- 13) 情報化——ハイパースペースの中の人間
- 14) 医療——病気と健康はいかにして作られるか
- 15) まとめ——社会調査と社会をみる眼

【評価方法】

出席20%、筆記試験80%で評価します。（受講者数によっては若干の変更もあり得ますので、詳細については講義にて説明します。）

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介します。

入門心理学

青柳真紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界1
3. 無意識の世界2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習1
7. 学習2
8. パーソナリティ1
9. パーソナリティ2
10. 対人関係1
11. 対人関係2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- a. 知覚と感覚
- b. 要素と全体（ゲシュタルト心理学）
- c. 学習と記憶
- d. 忘却と変容
- e. 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- f. 防衛機制
- g. フロイトとユングの精神構造モデル
- h. 心理療法
- i. 心理テスト
- j. 個人と集団
- k. 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

入門文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、テキスト、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するためにVTR資料なども活用する。

1. 文化とは何か?
2. 性別と社会
3. 婚姻と家族
4. 宗教と信仰
5. 独特の民族文化
6. 民族と国家

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートは持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつど指示する。

国際情勢

瀬戸裕之

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業の目標】

アジアの国際関係の形成と発展、並びにアジアと日本の関係を、歴史的背景およびアジアが抱える課題をふまえて理解すること。

【授業計画】

1. アジアの国家形成－植民地からの独立
2. アジアと革命－中国革命とその後の展開
3. アジアと冷戦－朝鮮戦争とヴェトナム戦争
4. アジアの地域統合－ASEANの形成と発展
5. アジアの民主化－開発体制と民主化
6. アジアにおける日本の戦争
7. アジアに対する日本の援助

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受検しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業において、関連文献を紹介する。

現代のマナー

近藤乃美子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

現代のマナー

嘉悦祐子

【授業の概要】

コミュニケーションを円滑に進めるには、相手を尊重する気持ちや思いやりが大切で、マナーとはこの相手を思いやる気持ちを形にしたものである。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

自分の気持ちをどのような形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
 - (1) 挨拶
 - (2) 表情
 - (3) 態度
 - (4) 身だしなみ
 - (5) 言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問と来客対応
7. 報告、連絡、相談
8. 文書のマナー
9. 冠婚葬祭
10. テーブルマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要により授業中に指示する。

文章表現法

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングとしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拓けてもらえることがのぞましい。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～12回

例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、修辭法など具体的に講義。

この間に課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊提示します。

話し方作法

三久保角男

【授業の概要】

音声表現。

(1)日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 (2)読む・話すことの実践と応用 (3)言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話をするのが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的に言葉で伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】

- 1. 話し言葉概論
ことばの機能 話し言葉の特徴 共通語と方言
- 2. 日本語の音声 1 (発声)
呼吸法 音声器官 発声法
- 3. 日本語の音声 2 (発音)
拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
- 4. 話し言葉の表現技法
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
- 5. 文を読む
短文の読み 朗読
- 6. 話しをする
パブリックスピーキング リポート インタビュー
- 7. 話し言葉の用法
言葉事情 言葉の変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。

【評価方法】

筆記試験。随時のレポートも評価に加味する。

【テキスト】

毎回、レジュメ・資料を配布する。

話し方作法

鷲塚美知代

【授業の概要】

音声表現。

(1)日本語の発音のメカニズム、豊かな表現のための技術 (2)読む・話すことの実践と応用 (3)言葉の用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーションのメカニズムを知る。

【授業の目標】

わかりやすい話し方とはどのようなものか。言葉の乱れを見直し、自分の意見をまとめ発言する。言葉に敏感になり表現力を養う。
状況に応じた話し方を身につける。

【授業計画】

- 1 伝わる話し方。若者ことばから脱却するには？
- 2 発声の基礎知識(腹式呼吸、発声法)
- 3 発音の基礎知識(母音、子音、鼻濁音、無声化など)
- 4 共通語アクセント
- 5 現代ことば事情(気になることば、メディアとことば)
- 6 敬語(種類と働き、適切な表現)
- 7 表現力を磨く
- 8 自分をことばで表現してみよう

授業は講義が中心になるが、可能な限り積極的に実践を伴うものにする。

【評価方法】

レポートによる。随時、授業内に提出するコメントあり。

【テキスト】

レジュメ・資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

キャリアの形成

樋口貴子

【授業の概要】

現代の企業社会の実態、ビジネスパーソンとしての予備知識、将来の職業選択にあたっての参考事項などを話します。

【授業の目標】

自立/自律したビジネスパーソンとして人間的な魅力を備え、社会変革の激しい時代を自らの手で切り拓きながら、たくましく且つたおやかに生き抜くために、学生生活を通じて何を感じ、どう行動すればよいのかを、自らのキャリアデザイン(人生設計)を描きながら思考を深めます。
また、複雑化・高度化する産業社会において仕事にますます専門性が求められる中で、プロ人材として求められる能力・スキル・心構えなど、ケーススタディを交えて学びます。

【授業計画】

- 【前期】
 - ・社会経済の動向とキャリア形成の必要性
 - ・キャリア形成プロセスとコンピテンシー
 - ・キャリア発達理論と関連ワーク
 - ・職業選択理論と自己理解ワーク
 - ・仕事理解と職業研究ワーク
 - ・モデリングと関連ワーク
 - ・意思決定理論と関連ワーク
 - ・キャリアデザインと目標設定
- 【後期】
 - ・21世紀の人材像
 - ・プロフェッショナル意識と職業観
 - ・コミュニケーション能力と自己表現
 - ・ビジネスマナーと社会常識
 - ・キャリア開発と課題形成

【評価方法】

筆記試験と出席状況

【テキスト】

キャリアの形成(樋口貴子著)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

現代社会と倫理

大野波矢登

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業の目標】

近現代の倫理学の代表的な理論を理解し、現代社会における倫理問題に関する思考能力と表現能力を身につけること。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をなすべきかを考える。具体的には、以下のようなトピックスを1回または2回の授業で順に取り上げていく。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用（道徳的意思決定の方法）
4. 社会の安全性と科学技術者の責任（クローン技術はどのように応用されるべきか？）
5. 環境倫理学の主張（自然保護は何をめざしているのか？）
6. インターネット時代の倫理（知的財産は誰のものか？）
7. 内部告発と社会の浄化（内部告発は行なうべきか？）

【評価方法】

小レポート（3、4回授業時に書いてもらう予定）と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座（新田孝彦著 世界思想社）
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境（加藤尚武著 NHKライブラリー）
科学技術社会論の技法（藤垣裕子著 東京大学出版会）

ライフサイクルと健康

村本名史

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 健康に必要な運動・栄養・休養
3. 運動時の体の機能
4. 体の構造
5. 骨密度・体脂肪測定
6. ボディデザインと運動
7. 生活習慣病、メタボリックシンドローム
8. 環境と体（ベッドレスト、無重力、高所、極地）
9. 傷害と障害、救急法
10. 発育と発達、加齢と老化
11. スポーツのすすめ
12. 健康を妨げるもの（タバコ、お酒、病気、事故）
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

【参考文献・資料】

田口貞善・山地啓司「運動・健康とからだの秘密」近代科学社、1998。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて考える。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション（理想と現実）
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをともに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

概論：第1回	心の病とその歴史
第2回	いろいろな病と症状のとらえ方
第3回	ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
各論：第4回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第5回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第6回	うつ病と現代社会を考える
第7回	ストレスとその反応：神経症と心身症
第8回	やまらない、止まらない：薬物依存
第9回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第10回	大人とは異なる児童・小児の心の問題
第11回	老人と高齢者の病：器質性障害（認知症など）
総論：第12回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第13回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第14回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに多角的な視点から心の健康について考える。

【授業の目標】

心の問題について、大学生の教養として必要なレベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の構造～心をどう捉えるか？
2. 心の発達
3. 脳と心
4. ストレスと心の健康
5. 心の病とは？
6. 心の病のいろいろ

【評価方法】

出席状況、授業態度、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

講義の中で順次紹介する。

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

【授業の目標】

病気は生体内の受容体や酵素が過剰に働くことで発症し、くすりの多くは過剰な働きを抑制することで効くことを学ぶ

【授業計画】

- 第1回 まず全授業の講義要旨「病気とくすりのまとめ」を配布説明したのち、最近の医薬品業界や薬事行政の傾向と新薬開発のプロセスなどを解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、くすりの生体内運命とくすりの新しいかたちをはじめ受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬品副作用被害救済制度など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でズバリ答える
- 第5回 医師の処方が必要なが保険適用外の生活改善薬をはじめ、最新の一般用医薬品（OTC）と常用される医療用医薬品を解説
- 第6回 頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた
- 第7回 花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた
- 第8回 病気の早期発見に不可欠な生活習慣病検査値の読みかた
- 第9～12回 生活習慣病の高血圧、がん、糖尿病をはじめ、若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因とくすり効くしくみ

【評価方法】

期末に提示する問題の答えをレポートで提出、レポートの内容と出席した実授業時数で評価する

【テキスト】

プリント（A3両面）を毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

最近の研究成果を含め多数あるので、初回授業で紹介する

スポーツと文化

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには教育が関係する
8. スポーツには政治が関係する
9. スポーツには科学が関係する
10. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
11. スポーツには民族性が反映される
12. スポーツには商業主義がつきまとう
13. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象をあげつつある
14. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツと文化

門間博

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. 導入、授業の全体について
2. スポーツとは何か（スポーツの起源とその歴史）
- 3～4. スポーツの魅力
- 5～6. スポーツとメディア
- 7～8. スポーツと商業主義
- 9～10. スポーツと政治・経済
- 11～12. スポーツと教育
- 13～14. スポーツと倫理
15. まとめ

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)」とすることを宣言する」という決議が採択された。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されている。

本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学ぶ。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする予定。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指す。

【授業計画】

- 1.オリエンテーション(本講義の目的とスケジュールなどの説明)
- 2.ボランティア活動とは?
 - 1) ボランティアの社会的意義と個人にとっての意義
 - 2) ボランティア、NPO/NGO、市民活動の概念整理
- 3.地域で活躍するボランティア活動
 - 1) こども・教育分野
 - 2) 社会福祉分野
 - 3) 環境分野
 - 4) 国際協力・交流分野
- 4.ボランティア、NPOセンター、市民活動推進機関の役割
- 5.ボランティア活動とマネジメント
- 6.企業とのコラボレーション(連携・協働した活動)
- 7.行政とのコラボレーション(連携・協働した活動)
- 8.総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、レポート、授業態度により、総合的に評価する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

入門ボランティア

橋本吉広

【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいかというボランティア発想を鍛える自問型授業です。

【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて、ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているのかなど考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

【授業計画】

- 1-2. 生死と関わるボランティア～ボランティアの責任を考える／国境なき医師団の活動から
- 3-4. 住まうこととボランティア～高齢者の住宅事情／宅老所の実践から
5. ボランティアとは誰か～ 障害者の自立と支援とは
6. ボランティアにできること～ワーキング・プアーを考える
7. 自然と向き合うボランティア～災害救援活動から
8. ボランティアの現代(中間まとめ)
- 9-10. ボランティアと行政・企業との協働
11. ボランティアとNPO・市民事業
- 12-13. ボランティア活動のマネジメント～資金調達の世界／ガバナンス
14. さあボランティアの世界へ
15. 試験

【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます(30%程度)。期末試験を実施し、学習の成果を確認します(65%程度)。

【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

【参考文献・資料】

『平成16年版国民生活白書』(内閣府)

『ボランティア学を学ぶ人のために』(内海成治他編 世界思想社)

民主主義と人権

本 秀紀

【授業の概要】

日本国憲法は人権と民主主義を保障しているが、その制度と仕組みについて、人権をまもる法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業の目標】

「民主主義と人権」をめぐる新聞報道などから、できるかぎり身近で具体的な素材を取り上げつつ、まずは現実を知り、その上で諸問題への対応を考える力を養う。

【授業計画】

基本的には講義形式で行うが、受講生の問題関心を高めるため、適宜質疑をしたり、ビデオを観る予定である。

授業内容は現在のところ、以下の項目からいくつかを選択する予定だが、そのときどきのトピックによって変更もありうる（ちなみに2006年度は、「本編」として、性同一性障害、過労自殺、育児休業、ドメスティック・ヴァイオレンスなどを、「番外編」として、教育基本法改正、在日米軍再編問題などを取り上げた）。

- 1 はじめに：「民主主義と人権」って？
- 2 個人の尊重と人権：性同一性障害、同性愛、個人情報保護
- 3 企業社会と人権：過労死、育児休業、労働者差別
- 4 女性と人権：ドメスティック・ヴァイオレンス、労働と女性差別
- 5 マスメディアと人権：プライバシー侵害、メディア規制立法
- 6 子どもと人権：校則・体罰、少年法、いじめ・児童虐待
- 7 医療と人権：インフォームド・コンセント、安楽死・尊厳死
- 8 外国人と人権：参政権、出入国管理、外国人差別、難民問題
- 9 平和と人権：民主主義：米軍再編と自衛隊の海外出動、憲法改正
- 10 ゴミ問題と民主主義：廃棄物処分場と環境、住民投票
- 11 政治の仕組みと民主主義：選挙制度、国会・内閣、政党法制

【評価方法】

学期末の筆記試験を基本とし、ビデオへの感想などを加味する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

テキストブック現代の人権〔第3版〕(川人博編著 日本評論社)
ハンドブック国際化のなかの人権問題〔第4版〕(上田正昭編 明石書店)
それぞれの人権〔第3版〕(憲法教育研究会編 法律文化社)
など。なお、必要に応じて、講義の際に資料・レジュメ等を配布する。

宗教的人間論

磯部 隆

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起している。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業の目標】

具体的な歴史上の宗教思想家の生涯の分析を通して、具体的に宗教的人間の特徴について考える。そして、今年は明恵について考えます。

【授業計画】

第一回は授業概要の具体的な説明を行いません。

第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに政治と宗教との関係について考えてみたいと思います。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。また定期試験を行います。

【テキスト】

1. 明恵の生涯 (磯部隆著 大学教育出版)

【参考文献・資料】

積尊の歴史の実像 (磯部隆著 大学教育出版)

地域コミュニティ論

安藤純子

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業の目標】

今日の地域社会に関する行政上のさまざまな政策や制度を通じて、私たちの生活がいかに地域社会と深く関わっているかを理解することを目的とする。

【授業計画】

- 1 イントロダクション
- 2 地域社会の歴史と構造 1
- 3 地域社会の歴史と構造 2
- 4 地域社会の歴史と構造 3
- 5 地方分権とコミュニティ 1
- 6 地方分権とコミュニティ 2
- 7 コミュニティとネットワーク 1
- 8 コミュニティとネットワーク 2
- 9 コミュニティ活動の実践例 1
- 10 コミュニティ活動の実践例 2
- 12 まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

健康と医学

小野佳成

【授業の概要】

最近、いろいろ健康問題が注目を浴び、「病気腎移植」「がん難民」「メタボリックシンドローム」「低侵襲治療」等の耳慣れない言葉がマスコミによって報道される。本講では、これらの健康問題を取り上げ、医学的な見地から解説する。

【授業の目標】

マスコミで取り上げられる最近の健康に関する問題を理解する。

【授業計画】

- 1) 病気腎移植：宇和島での生体腎移植
- 2) がん難民
- 3) 骨粗鬆症
- 4) 低侵襲治療
- 5) ノロウイルス：下痢集団発生
- 6) メタボリックシンドローム
- 7) 認知症：アルツハイマー病
- 8) 女性は膀胱炎になりやすい？：尿路感染防御機構
- 9) 高齢者社会：「おむつ」一兆円産業
- 10) ビロリ菌による胃炎
※適時追加する予定です。

【評価方法】

小テストと出席状況によって評価する。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料配付する。

人類と宇宙

安野志津子

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえつつ、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業の目標】

学生のものの見方が、少しでも科学的に考えられるようにしたい。一方楽しい授業でもありたい。

【授業計画】

－地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHC、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 大宇宙101の謎（山岡均 河出書房新社）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 天文年鑑 2007年版（誠文堂新光社）
- (5) 宇宙年鑑 2007（アストロアーツ）

現代の芸術5（演劇）

海上宏美

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業の目標】

各国の現代演劇や国内の現代演劇を毎回ビデオで鑑賞することを通じて、演劇の現代芸術としての側面を具体的に理解していく。

【授業計画】

- 毎回、国内外の演劇、劇作家、演出家、劇団などの作品を見ていく。
- ・ドイツの演劇 ベルリナー・アンサンブル、プレヒトのソングなど
 - ・ポーランドの演劇 タデウシュ・カントール、アカデミア・ルフなど
 - ・イギリスの演劇 シェイクスピア、ピーター・ブルックなど
 - ・フランスの演劇 モリエールのタルチュフなど
 - ・アメリカの演劇 テネシー・ウィリアムズ、ロバート・ウィルソンなど
 - ・ロシアの演劇 チューホフ、マールイ劇場など
 - ・中国の演劇 北京人民芸術院など
 - ・日本の新劇 文学座、俳優座、劇団四季など
 - ・日本のアンガラ演劇 寺山修司、唐十郎、鈴木忠志など
 - ・日本の小劇場演劇 野田秀樹、平田オリザ、宮城聡など
- 必要に応じてダンスなども見ていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術（演劇に限定しない）を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

現代の芸術3（美術）

藤井健仁

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業の目標】

近代の美術運動が当時の社会情勢等と密接に連動して生まれていることを知り、現在の文化、流行にも影響を与え続けていることを理解する。

【授業計画】

前半

キュビズム、タダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として樹脂パテ等(¥2500)を各自が購入する。

【評価方法】

授業後半に提出する制作物を重視する。

【テキスト】

使用しない。配布するプリントのみ。

【参考文献・資料】

なし

物理学

岡田克彦

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業の目標】

物理学における法則や原理には、新しく発見された観測事実や実験結果を統一的に説明するため考え出されたものが多いことを学ぶとともに、法則や原理が身近ないろいろの現象に関係のあることを理解し、物理学に親しみを持たせるようにする。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 力のつりあい
- 2 力と運動
- 3 エネルギー
- 4 運動量
- 5 摩擦力
- 6 熱と温度
- 7 熱と仕事
- 8 振動と波動、音と光
- 9 静電気
- 10 電流、ジュール熱
- 11 近代物理学

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。適宜演習を行い、出欠席を調査する。期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

図解雑学 物理のしくみ（改訂新版）（井田屋文夫 ナツメ社）

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようなかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業の目標】

統計学の基礎的な知識を身につけるとともに、統計解析の基本的な手法について実際の調査・実験データを扱うことによって習得することを目指す。

【授業計画】

1. 統計学とは
2. データの性質
3. 度数分布
4. 基礎統計量 (1): 代表値・散布度
5. 基礎統計量 (2): 尖度・歪度
6. 正規分布
7. 2変量の関係 (1): 相関・回帰
8. 2変量の関係 (2): 連関
9. 母集団と標本
10. 統計的推定 (1): 点推定
11. 統計的推定 (2): 区間推定
12. 統計的検定の基礎
13. 平均値の差の検定 (1): t検定
14. 平均値の差の検定 (2): 分散分析

【評価方法】

課題の提出とその結果、および定期試験の結果をあわせて評価する。

【テキスト】

本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本
(吉田寿夫著 北大路書房)

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

横関美津紀 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

小沢 茂 STEPHENSON, Brett 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー)のSpeed Reading機能を用いた課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

横関美津紀 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・ブランクテストなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

SUTHONS, Philip 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

二村慎一 MCGOLDRICK, Gemma 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC I C

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 - ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)
 - ・問題解説 (25分)
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)
- リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC I D

天野純子 太田晶子

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 - ・演習 (文法問題・リーディング・リスニング) (30分)
 - ・問題解説 (25分)
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)
- リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC II C

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 - ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)
 - ・問題解説 (25分)
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)
- リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

ASU TOEIC II D

STEPHENSON, Brett PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高、半期に2コマ (I、IIの両科目を受講した場合)、4年間続けて履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外での読解演習 (60分×7日×13回) とリスニング演習 (60分×7日×13回) (それぞれ91時間相当) が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説 (15分)
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説 (15分)
 - ・演習 (おもに、リスニング・リーディング) (30分)
 - ・問題解説 (25分)
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)
- リスニング演習 (60分×7日) = 毎回7時間相当分
(合計 7時間×13回=91時間)

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示 (外国語教育センターの掲示板) を参照のこと。

Get together and Talk I

石橋千鶴子 福本明子 太田晶子 WOODMAN, Jo-Anne

【授業の概要】

英語集中授業、ディスカッション、フィールドワーク、合宿などから構成される英語対話実践セミナー。本学および中部地区在住の留学生が、セミナー・アシスタントとして参加する。多様な文化背景を持つ留学生と行動を共にし、共通語の英語を使ってコミュニケーションを持つことにより、英語対話力の強化を目指す。

*注意

本科目は申込者多数の場合、抽選により履修できない場合もある。また、1、2年生は、学期の合計履修単位に上限が設定されているので、本科目の履修を希望する場合、余裕を持って登録すること。

【授業の目標】

異なる文化背景を持つ留学生とのコミュニケーションを通して、英語運用能力の向上を目指すと共に、文化の多様性に対する認識を深め、それに対応できる柔軟な視点の育成を目指す。

【授業計画】

前期 2007年9/3(月)～7(金)、
後期 2008年2/12(火)～16(土)に実施予定

英語集中授業、フィールドトリップなどを含む15コマ相当の活動を行う。

詳細は掲示および説明会(前期:6月中旬、後期:11月下旬の予定)で発表する。指定された期間(前期:6月末、後期:12月上旬)に外国語教育センターを通じて履修の申し込みを行う。

【評価方法】

全日程の活動を総合的に評価する。

【テキスト】

英字新聞記事、英文パンフレットなどを使用。

【参考文献・資料】

インターネットなどを通して各自情報収集する。

Get together and Talk II

NORRIS, Harry T.

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのブロードバンド接続によるビデオ会議機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学の学生と意見交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

There are three main objectives.

1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held over 2nd and 3rd periods, 10.50 - 2.50.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will include

1. Death penalty
2. The article no. 9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Homework and Chat preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

<http://www.apple.com/support/isight/>

上級英語セミナー2007A

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。(ただし、1年生および編入生(1年目)は前期開講の本科目「上級英語セミナー2007A」は受講できない。)

【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「上級英語セミナー2007A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限(担当教員: BROWNING, Jeremy)、木曜日1限(担当教員: WRINGER, Paul)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer: To be announced.

Browning: Handouts will be provided

上級英語セミナー2007B

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット(4単位)を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Aims:

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Course plans:

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「上級英語セミナー2007B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。水曜日1限(担当教員: BROWNING, Jeremy)、木曜日1限(担当教員: WRINGER, Paul)の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer: To be announced.

Browning: Handouts will be provided

上級英語セミナー2007C

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2007C」は受講できない。）

【授業の目標】

横山
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

Course Plan:

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「上級英語セミナー2007C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：The Student Times その他

上級英語セミナー2007E

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2007E」は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子
英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran

Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子
スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2007E」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー2007D

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山
通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

Course Plan:

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「上級英語セミナー2007D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山：The Student Times その他

上級英語セミナー2007F

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
英語を通して様々な国内、海外の実状、社会問題等の背景知識を広げ、英語、日本語を問わず、要点をまとめて発表する習慣を身につける。

【授業計画】

Bev Curran

In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子
スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

「上級英語セミナー2007F」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

Traditional Arts in Japan

山田久美子 小沢 茂 二村慎一 MCGOLDRICK, Gemma

【授業の概要】

日本の伝統文化に携わる方をゲストスピーカーとして招き、伝統文化に直に触れ、その歴史、現状などを英語で学ぶ。

【授業の目標】

伝統文化に直に接する機会は、日常生活では多くない。この授業を通して、一から伝統文化を学び、日本の優れた文化を理解し、それを自らの言葉で表現できるようにする。

【授業計画】

日本の伝統文化に携わる専門家をゲストスピーカーとして招き、講義を受ける。講義の際、あらかじめ、その伝統文化についての学習を行う。

日本舞踊（西川流）

尺八

琴

からくり

華道

歌舞伎

能・狂言

などの分野からのゲストスピーカーを迎える。詳しくは、最初の授業の時に説明する。

なお、狂言などの公演鑑賞のため、3000円程度の経費を必要とする場合がある。

【評価方法】

レポート 80% （各授業のレポート等）

出席 20%

【テキスト】

プリント

【参考文献・資料】

講義時に配布

Central Japan

福本明子 若山真幸 太田晶子 小沢 茂

【授業の概要】

中部地方から世界に向かって進出する企業の第一線で活躍している方をゲストスピーカーとして迎え、企業の社会での役割、活動、スピーカーの経験等を英語で講義してもらう。この講義は、ゲストスピーカーの授業に対する事前、事後の学習も行う。

【授業の目標】

地元企業で活躍する方をゲストスピーカーとして招き、その講義を聞き、実社会における企業の役割、また厳しい現状等を理解し、より広い視野を育てることを目標とする。授業での内容を理解し、それを自分の言葉（英語又は日本語）でまとめることができるようにする。

【授業計画】

ゲストスピーカーは、

Hilton Nagoya

中部電力

中日新聞社

ブラザー工業

ファイザー株式会社

Harman/Becker Automotive Systems - Japan

アイ ティ クリエイト

日経メディアマーケティング株式会社

太陽化学株式会社

などから招待の予定。詳しくは、最初の授業で説明する。

【評価方法】

出席と事前、事後、最終レポートを総合的に評価する。最初の授業で説明する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

配布プリント、ゲストスピーカーの企業ウェブサイト

Multiculturalism in Aichi

ブイ チトルン

【授業の概要】

社会のグローバル化とともに一つの地域や国だけでは解決できない問題などが生まれている。愛知県においても製造業の発展に伴い諸外国から移住されてきた人々が年々増加している。多様な人種・文化・価値観が混在している愛知県における多文化社会の実態を理解し共生社会構築への道を考える。

【授業の目標】

- * 日本社会および愛知県における多文化性を理解すること
- * 行政・企業・NPOによる多文化共生事業の現状を理解すること
- * 県内における外国人コミュニティの実態を理解すること
- * 外国人労働者等を送り出し国の現状を理解すること
- * 在住外国人支援事業を理解すること
- * 授業は英語で進行するため英語力アップも期待すること

【授業計画】

1. Japan as a Multicultural Society
2. History of Multiculturalism in Japan and Aichi Prefecture
3. Services and Activities of Nagoya City and Nagoya International Center, especially in Consultation and Advisory for Foreign Residents
4. Helping Each Other For A Friendlier Community through Voluntary Activities
5. JICA's Cooperation Activities and Development Education
6. Activities of the Philippines Society
7. Life of a Brazilian in Aichi
8. Japanese Teaching in Community
9. Activities of Foreign Students in Aichi
10. NGO Activities in supporting of Foreign Residents
11. Information and Communication through English Magazine
12. Report on the Society and Culture of Trainee's Sending Asian Country / Report on the Multicultural Society like Australia

【評価方法】

出席率、レポートおよび授業中の発表にて評価する。

【テキスト】

プリント資料など配布。

PowerPoint Presentations

LEWIS, Paul

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・ コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・ アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・ 他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

- 以下の項目を学習する。
- ・ Introduction to PowerPoint
 - ・ Creating a basic slide show
 - ・ Formatting
 - ・ Editing text
 - ・ Using images
 - ・ Adding animation
 - ・ Adding sounds
 - ・ Advanced PowerPoint

【評価方法】

- ・ Participation & Attendance
- ・ Class work
- ・ Final Presentations

【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

PowerPoint Presentations

NORRIS, Harry T.

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究の成果、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、動画・音声・写真などを盛り込みながらPowerPointを使ってまとめ、英語による情報発信が行えるよう訓練する。

【授業の目標】

- ・コンピュータを使って、これまでの学習・研究成果を視覚的効果の高い情報発信ができる手法を身に付ける。
- ・アイデアや意見を英語で論理的に口頭発表できる自己表現力を身に付ける。
- ・他者のプレゼンテーションを聴いて、英語で討論を行える能力を身に付ける。

【授業計画】

以下の項目を学習する。

- ・ Introduction to PowerPoint
- ・ Creating a basic slide show
- ・ Formatting
- ・ Editing text
- ・ Using images
- ・ Adding animation
- ・ Adding sounds
- ・ Advanced PowerPoint

【評価方法】

- ・ Participation & Attendance
- ・ Class work
- ・ Final Presentations

【テキスト】

Computers for Communication: PowerPoint (2007). Perceptia Press.

【参考文献・資料】

授業中に随時紹介する

Presentations on the Web

NORRIS, Harry T.

【Course description】

学生が世界に向けて学修成果を英語で情報を発信し、受け手から情報を得て、双方向の情報交換を広げていく機会となるよう、主にホームページ・動画・ラジオ（音声ストリーミング）での英語による情報公開をサポートする。英語を専門とする学科以外の学生でも研究成果を積極的に世界に向けて英語で発表できるよう、英語での自己表現力育成を主な目的とする。

【Course objectives】

To make students aware of how to make a web page and how to prepare information for posting on the Web.

【Course schedule】

Introduction
ASMAP linked company research
Making a web poster using Microsoft Word
Making a radio style commercial using GarageBand
Making a TV style commercial using PowerPoint, Quicktime and iMovie
Posting to a web page using iWeb.

【Assessment】

Assessment will be based on attendance and 4 assignments.
1 .Data collection
2 .Poster
3 .Radio CM
4 .TV CM

【Textbooks】

None

Booklet Publishing

STEPHENSON, Brett

【授業の概要】

所属学科に関係なく様々な卒業研究、多文化共生理解モジュールや講演会の事後学習の成果を、視覚的効果を高めてポスター、冊子、レポートにまとめ、英語を使って世界に向けた情報公開が行えるよう訓練する。

The purpose of this course is to provide students with practical guidance on the preparation and presentation of research projects in English. The course will focus on the acquisition of practical research skills which will assist students in presenting posters, pamphlets and reports in the course of their future studies. Given the practical nature of the course, students will be expected to prepare and present research projects throughout the course of the program.

【授業の目標】

- By the end of the course students will be able to:
- ・ produce visual aids which add to the impact of their oral presentations
 - ・ understand the structure and content of printed media, such as newspapers, magazines and journals
 - ・ utilize English language resources
 - ・ write short, simple English sentences to present research findings

【授業計画】

- ・ Brainstorming
- ・ Arranging ideas logically
- ・ Oral presentation
- ・ Visual presentation
- ・ Presentation design and structure

【評価方法】

- ・ Participation and attendance
- ・ Completion of assigned projects
- ・ Presentation of assigned projects

【テキスト】

Handouts will be provided in class

【参考文献・資料】

Students will be referred to appropriate reference materials throughout the course.

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 周素芬 楊衛平 湯海鵬 吳凌非

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

大森信徳 張玉玲 曹志偉 周素芬 嚴萍 陳惠貞

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- | | |
|------|----------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | あいさつ表現 |
| 第六課 | 時間の表し方 |
| 第七課 | 年齢を言う |
| 第八課 | 家庭を語る |
| 第九課 | 自分の家を語る |
| 第十課 | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 中塚亮

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在几点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 我的大学。伝聞の表現
10. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11. 喜欢什么? 過去の経験表現[V+“过”]
結果や程度表現[V+“得”]
12. 帮我。能願動詞“会”
13. 假期做什么? 結果補語“好”
14. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬 張玉玲 嚴萍

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春假的計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解1A2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

曹志偉 周素芬 杜英起 楊衛平

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、会話能力のさらなる向上を目指す。日常のさまざまなシーンであられる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分です学習できるように配慮した。

- | | |
|------|------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話1A2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コース A *聴解中心

大森信徳 河井昭乃 王麗英 杜英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コース B *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 嚴萍 中塚亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を養成することに特化した授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉とは異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；語気助詞の“吗”と“呢”など
3. “了”；形容詞述語文など
4. “動詞+过”と“形容詞+过”；“在”など
5. 数量補語；“头”と“面”など
6. “有字句”；構造助詞“地”など
7. 量詞の重ね型；“把”構文など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；程度補語など
10. “被”構文；“在・正・正在”など
11. 方向補語；“多么”など
12. 複合方向補語；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

河井昭乃 張 玉玲

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 应该感谢谁。
2. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3. 一件小事。
4. 連動文。動態助詞“着”。
5. 生日宴会。
6. 動詞の重ね型。結果補語。
7. 中国人的问候语。
8. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9. 在中国过中秋节。
10. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11. 骑自行车的张师傅。
12. 数量補語。可能補語。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 3

大森信徳 曹 志偉 周 素芬

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生生活などについて語ることができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
2. 私達の中国語の先生
3. 朝食を食べる
4. タクシーに乗る
5. 宿舎のおばさん
6. 言葉のパートナー

各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA *聴解中心

大森信徳 河井昭乃 巖 萍

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB *読解中心

河井昭乃 曹 志偉 巖 萍 中塚 亮

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 自行车上的宝座儿。
2. 方向補語。程度補語。“把”構文(1)。
3. 雨披。
4. 反復疑問文。反語表現。
5. 服装与色彩。
6. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
7. 逛商场。
8. 形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
9. 一个特别的“村”
10. 伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11. 学汉语趣事。
12. “差不多”の使い方。“把”構文(2)。特殊な動詞述語文。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4(中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースA *聴解中心

河井昭乃 巖 萍

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級コースA(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

曹 志偉 大森信徳

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語るができる。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
 2. 旅行に行こう
 3. 体を鍛える
 4. ついてない一日
 5. ダイエット
 6. 友情に乾杯
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等上級コースB *読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級コースB(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 1

曹志偉 嚴萍

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 1 A * 聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。

【授業の目標】

ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 1 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）6級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 1

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は観光案内・工場見学・宴席や商談会でのやりとりなど、通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 2

曹志偉 嚴萍

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース 2 A * 聴解中心

大森信徳

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしてゆく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 2 B * 読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース 2 A>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース 2 A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 2

大森信徳 曹志偉

【授業の概要】

2. 5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース 2 A>か、<HSK中等高級コース 2 B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文 2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を生身につける。そのために必要とされるスキルを目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項を身につける。

【授業計画】

教科書は観光案内・工場見学・宴席や商談会でのやりとりなど、通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に修得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心とする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それをを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週2回履修を義務づける。

- 第1回 授業概要の説明および韓国・朝鮮語概説
 - 第2回～第5回 ハングルの読み書き1～4、まとめ
 - 1) 基本母音字 (10個)、挨拶1
 - 2) 基本子音字1 (平音9個)、挨拶2
 - 3) 基本子音字2 (激音5個)、名詞1
 - 4) 合成子音字 (濃音5個)、名詞2
 - 第6回～第8回 ハングルの読み書き5～7
 - 1) 合成母音字1 (4個)、形容詞1
 - 2) 合成母音字2 (7個)、形容詞2
 - 3) 終声子音字 (7種)、叙述格助詞
 - 第9回～第10回 発音ルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ
 - 第11回～第12回 尊敬形1、平叙文・疑問文1・2、助詞1・2
 - 第13回～第14回 尊敬形2、否定文、助詞3・4、まとめ
 - 第15回 中間試験
 - 第16回～第17回 上称形、平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2
 - 第18回～第20回 1) 勧誘および命令文、転成語尾1
 - 2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2
 - 3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
- 第21回～第23回 1) 略対上称形、転成語尾3
 - 2) 平常形、先語末語尾1
 - 3) 曖昧形、先語末語尾2
- 第24回～第25回 1) 変則活用2、先語末語尾3
 - 2) 固有数詞、表現練習、まとめ
- 第26回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめての韓国・朝鮮語 (Jo Sulseob プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

金銀珠 キム ソヨン 金芝恵 金由那

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それをを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業概要の説明、こんにちは
- 第2回 韓国は初めてですか
- 第3回 ここが寮です
- 第4回 授業は3月2日からです
- 第5回 どこで売っていますか
- 第6回 MTって何ですか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 スタンドランプを見せてください
- 第9回 一杯飲みましょう
- 第10回 大学生活はどうですか
- 第11回 よく聞けば勉強になります
- 第12回 誕生パーティをしましょう
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (Jo Sulseob・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

キム ソヨン 金由那 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、それをを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業概要の説明、入門講座の復習
- 第2回 サッカーがお好きですか。過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
- 第3回 明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
- 第4回 郵便局に行く。用言の連体形
- 第5回 喫茶店で。変則1、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
- 第6回 韓国料理屋で。変則2、前置きの表現、逆接の表現、助数詞
- 第7回 道をたずねる。変則3、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
- 第8回 総合復習および中間試験
- 第9回 地下鉄の駅で。変則4、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
- 第10回 タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
- 第11回 約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
- 第12回 天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策1

金賢珍 キム ソヨン 姜信和 金美淑

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業概要の説明、入門学習内容の復習
 - 5級完全制覇・挨拶言葉1
- 第2回 挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記
- 第3回 日本語のハングル表記、基本語彙と文法1
- 第4回 基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
- 第5回 漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞、韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習
- まとめ、中間テスト
- 第7回 4級完全制覇・基本語彙と文法1・各種助詞、数詞・助数詞
- 第8回 基本語彙と文法2・過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
- 第9回 基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形
- 第10回 基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
- 第11回 韓国語の発音、応用問題1
- 第12回 応用問題2
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために！！「ハングル」能力検定試験5級・4級 (小坂伸頭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

金賢珍 金美淑 金芝恵 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業概要の説明、韓国・朝鮮語読解1の復習
- 第2回 携帯電話時代、会話文「初出勤」及び派生動詞、引用形、謙讓
- 第3回 情報化時代、会話文「順杯」及び並行動作と逆接の語尾、変則1、～以来
- 第4回 PCパン、会話文「会食」及び補助動詞、引用文縮約形1
- 第5回 コシアン、会話文「業務報告」及び推測や意向を問う、命令、
- 第6回 整理と発展：会話文「北韓山」及び漢字音の理解、十分と禁止、音変化1、大学入試センター試験から1
- 第7回 表現練習、中間試験
- 第8回 韓国人が好きな動物「犬」、会話文「再会」1及び婉曲・感嘆・非難の語尾、進展の語尾
- 第9回 日韓の文化情報誌、会話文「再会」2及び下称、意思表示の語尾
- 第10回 日韓交流の増加、会話文「日本の取材」1及び変則2、目的
- 第11回 指紋押捺撤廃訴訟、会話文「日本の取材」2及び終結語尾、間接疑問、ハンマル
- 第12回 整理と発展：会話文「同僚紹介」および漢字音の理解、指示詞の理解、文を受ける連体形、大学入試センター試験から2
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

金美淑 金由那 金芝恵

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業概要の説明、3級完全制覇・基本語彙と文法1
- 第2回 基本語彙と文法2、韓国語文の日本語訳・日本語文の韓国語訳
- 第3回 各種動詞・形容詞
- 第4回 尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
- 第5回 各種連体形、各種助動詞・接続詞、時制および選択・許容の表現
- 第6回 試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
- 第7回 まとめ、中間テスト
- 第8回 意志、意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
- 第9回 各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感想の表現、
- 第10回 未来推量・意志の表現、伝聞
- 第11回 直接法と間接法
- 第12回 韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

絶対合格のために！！「ハングル」能力検定試験3級（小坂伸朗 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

金賢珍 キムソヨン 金美淑 金芝恵 姜信和

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 韓国・朝鮮語会話1の復習、どこでもかまいません
- 第2回 週末には何をしましたか
- 第3回 今晚またお電話いたします
- 第4回 趣味は料理とか旅行です
- 第5回 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6回 韓国料理ができますか
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 何をしようと思っていますか
- 第9回 どこにいらっしゃいますか
- 第10回 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11回 さる水曜日からです
- 第12回 このバックいくらだった
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話（Jo Sulseob・李正子・金賢珍 プリンテック）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

金芝恵 金由那

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んでも程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 韓国・朝鮮語読解2の復習
- 第2回 日韓相互好感度増加、会話文「日本語案内放送」及び変則1
- 第3回 東アジアの若者たちの文化共有、会話文「日韓間の親近感」及び引用形、引用文連体形、回想連体形
- 第4回 サッカー・ワールドカップ日韓共催、会話文「板門店」及び理由、比況、譲歩
- 第5回 韓国人の日本語学習者、会話文「韓国映画」及び変則2、推量
- 第6回 整理と発展：会話文「海底トンネルへの期待」及び漢字音の理解
- 第7回 表現練習、中間試験
- 第8回 電車の女性専用車両、会話文「PCパン」及び変則2、前置き、接続の語尾、連用形につづく動詞
- 第9回 姓に関する問題、会話文「東大門市場」及び引用形に続く動詞
- 第10回 外国人労働者のための韓国語教室、会話文「コリアンタウン」、省略形、疑問詞の不定用法、ハンマルと敬語体
- 第11回 水不足、会話文「あかすり」及び動詞の名詞形、可能・不可能の連体形、変則3
- 第12回 整理と発展：会話文「祝杯」漢字音の理解と音変化
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

総合韓国語3（油谷幸利・南相環 白帝社）

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話3

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハングルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1回 授業概要の説明、韓国・朝鮮語会話2の復習
- 第2回 専門科目を多めに履修しなければなりません
- 第3回 時間はいつがいいですか
- 第4回 自動引き落としのほうが良いと思います
- 第5回 曇りってどうですか
- 第6回 春と思ったらレンギョと山つつじですね
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 本当に美味しいですね
- 第9回 民俗博物館に行ってきました
- 第10回 庭園文化について知りたいです
- 第11回 どちらが速いですか
- 第12回 使えますとも！
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話 (Jo Sulseob・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策3

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験とおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業概要の説明、各種発音ルール
- 第2回 受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
- 第3回 読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
- 第4回 各種活用表現1
- 第5回 各種活用表現2
- 第6回 注意すべき用言とその用例1
- 第7回 注意すべき用言とその用例2、まとめ、中間テスト
- 第8回 模擬試験1、解答と解説
- 第9回 模擬試験2、解答と解説
- 第10回 模擬試験3、解答と解説
- 第11回 聞き取り・書き取り模擬試験1、解答と解説
- 第12回 聞き取り・書き取り模擬試験2、解答と解説
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

初めての外国語1 (ドイツ語)

藤井たぎる

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

ドイツ語の文法についての知識を増やすことが目的ではない。使えるドイツ語、通じるドイツ語を習得することが目的である。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在(および未来)のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習(ビンゴ・ゲームつき)
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないと意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

また、ドイツ・オーストリアの歴史や文化についても、学生の関心があれば、いくつかのビデオを素材にして紹介します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価するが、本格的には期末試験の点数を重視する。

【テキスト】

プリント配布。

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか? 実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【授業計画】

- 1) 挨拶-自己紹介-20までの数
- 2) 名前・国籍・住んでいるところをたずねる
- 3) 職業についてたずねる - 60までの数
- 4) 何かを示す-持っているものについて話す-
- 5) 好きなものを言う - 100までの数 - 小テスト
- 6) 年齢についてたずねる - 疑問文と否定文の作り方
- 7) 1000までの数 - 買い物と喫茶店での注文の仕方
- 8) 趣味について話す- 小テスト
- 9) 時間の使い方 - 時間割について話す
- 10) 一週間のすごし方
- 11) ある場所について説明する - 小テスト
- 12) 家族について話す
- 13) まとめ - 映画観察
- 14) まとめ - 映画観察
- 15) 試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

初めての外国語3 (ロシア語)

杉本一直

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ロシア語への関心を高める。ヨーロッパとアジアにまたがるロシアの風土と文化について学び、その歴史や日本とのかかわりなども理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業の目標】

1. キリル文字の読み方の習得
2. 名詞の性、形容詞の基本変化の理解
3. 日常会話基礎表現の習得

【授業計画】

みなさん、知っていますか? 日本の大学のなかでロシア語を学ぶことができる場所は本当に少ないんですよ。ということは、「ロシア語がわかる人」は日本ではとても希少価値があるのです! 「芸術の国ロシア」の言葉を今すぐ学んでみませんか? 映画の鑑賞会もありますから、楽しみにしてくださいね。

初級のわかりやすい辞書を「テキスト」として授業を進めてきます。まず、例の不思議な形をしたキリル文字を覚え、発音を覚え、そのあとは辞書で遊び(?)ながら「使える単語」「使えるフレーズ」を集めていきます。たくさんたくさん集めたら、あれ、いつのまにかロシア語の達人!

辞書以外に補助教材として会話用プリントを配布します。学ぶ項目は以下のとおりです。

- a. キリル文字と発音
- b. 大きな声であいさつしよう
- c. 買い物に行ってみよう
- d. 乗り物に乗ろう
- f. おなががすいたら...
- g. 自分について話してみよう

【評価方法】

定期試験の成績による。

【テキスト】

ロシア語ミニ辞典(白水社)

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4(スペイン語)」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。
- ・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞(性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

レポートに出席状況を加味して評価。(詳細は授業にて説明する)

【テキスト】

授業中に指示。

初めての外国語5 (イタリア語)

柴田有香

【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野で魅力溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切に、創造力に富んだイタリア人には、親しみと興味が高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。簡単に実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、バルやレストランでの注文の仕方。「私はおなががすいています」「ピザ屋さんは何時に開きますか」「サッカーが好きです」「この靴はいくらですか」など。

実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞(現在)などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら 改訂版 遠藤礼子著 (白水社)

初めての外国語6 (ポルトガル語)

瀧藤千恵美

【授業の概要】

「初めての外国語4 (ポルトガル語)」は、ポルトガル語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。(詳細は授業にて説明します)

【授業計画】

- 第1回. プレゼンテーション
- 第2回. 文字と発音
- 第3回. ser動詞、疑問文と否定文
- 第4回. 名詞の性数
- 第5回. estar動詞、形容詞、指示詞
- 第6回. 規則動詞 (1)、所有形容詞
- 第7回. 不規則動詞 (2)、近接未来形
- 第8回. 規則動詞 (2)
- 第9回. 数詞、時間の表現、不規則動詞 (2)
- 第10回. 不規則動詞 (3)、目的語
- 第11回. 再帰代名詞、再帰動詞
- 第12回. 不規則動詞 (4)、現在進行形
- 第13回. 不規則動詞 (5)
- 第14回. 不規則動詞 (6)
- 第15回. 定期試験

【評価方法】

定期試験と平常点(出席や宿題)の評価により総合判断する。

【テキスト】

CDエクスペレス ブラジルポルトガル語 (黒沢直俊著 白水社)

【参考文献・資料】

ポ和辞書 どんなものでもよいが、オススメは
現代ポルトガル語辞典 (池上岑夫他編 白水社)

コンピュータ入門 I (Word・PowerPoint)

西荒井学 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトウェアに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習を通して学習していく。このため、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法について、基礎知識をコンピュータ実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. Webメールの基本操作
 2. インターネットのしくみとマナー
 3. Windows基本操作 (キー・タイピングを含む)
 4. Windows基本操作 (記憶媒体の取り扱い)
 5. Word基本操作 (文字の入力、編集)
 6. Word基本操作 (文字の装飾、配置)
 7. Word基本操作 (図形の作成)
 8. Word基本操作 (表の作成)
 9. Word基本操作 (その他の機能)
 10. プレゼンテーションの概要
 11. PowerPoint基本操作 (プレゼンテーションの作成)
 12. PowerPoint基本操作 (プレゼンテーションと資料作成)
 13. プレゼンテーション課題制作
 14. 試験
- 「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。
なお、「サブメンタリレッスン(補習授業)」を別途設定する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

コンピュータ入門I 2007年度版 (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

コンピュータ入門 III (Word/Excel応用・Access)

上原 衛 諸上茂光 小林久恵 宇佐美貴史 奥村文徳
勝野祐子 金澤小夜子

【授業の概要】

コンピュータ入門I、コンピュータ入門IIの学習内容を踏まえ、Windowsの高度操作、Wordによる文書作成の高度操作、Excelによる表計算処理の高度操作を学習する。さらに、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原則や仕組み、特徴についての基本的な知識と技法を習得する。

【授業の目標】

Wordによるレポート・論文・ビジネス文書の作成、及びExcelによる表の操作と関数を利用した編集についての高度なスキルと知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
 2. ファイルの高度操作
 3. ネットワークの操作
 4. Wordによる学術文書、ビジネス文書の操作
 5. Excelによるビジネス情報処理
 6. マクロ操作(Excelデータの加工・集計)
 7. マクロ操作(Excelデータの検索・抽出)
 8. Accessの概要
 9. Accessの基本操作(データベースの設計)
 10. Accessの基本操作(テーブルの設計)
 11. Access総合演習 (データベースの操作)
 12. Access総合演習 (データ集計)
 13. まとめ
 14. 試験
- なお、この授業では「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報リテラシーの応用 (伊東俊彦他著、近代科学社)

コンピュータ入門 II (Excelと統計処理)

西荒井学 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。また、ソフトウェアの技能の習得にとどまらず、加工したデータから特性や規則性を導き出す技法を学習していく。コンピュータ入門Iと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基礎となる授業科目である。

【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータのしくみおよびデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史と原理
 2. ハードウェアのしくみとソフトウェアの役割
 3. 情報の表現 (2進数、16進数)
 4. 情報ツールとマナー
 5. Excel基本操作 (データ入力、編集)
 6. Excel基本操作 (数式と関数)
 7. Excel基本機能 (相対参照と絶対参照)
 8. Excel基本機能 (グラフの作成)
 9. Excel統計処理 (度数分布とヒストグラム)
 10. Excel統計処理 (代表値と散布度)
 11. Excel統計処理 (基準値と偏差値)
 12. Excel統計処理 (クロス集計の作成)
 13. Excel課題制作
 14. 試験
- 「ネットワークリテラシ入門」「コンピュータ入門III」「プログラミング入門」「ユーザ部門管理者コース」を履修予定の学生は必ず受講する。
なお、「サブメンタリレッスン(補習授業)」を別途設定する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

コンピュータ入門II 2007年度版 (愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版)

コンピュータグラフィックス入門

石丸 緑 茂籠英典 阿部晋也

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス(CG)を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。このため、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. CGの概要解説
 2. コミュニケーションと情報
 3. プレゼンテーション
 4. 技術の基礎(デジタルデータとアナログデータ・デジタル作品制作工程)
 5. 表現の基礎(画像の表現方法)
 6. 表現の基礎(画像編集)
 7. 映像制作
 8. CG基礎編(3DCGの基礎知識)
 9. CG基礎編(モデリング実習)
 10. CG基礎編(課題制作)
 11. CGアニメーション編(技法・特徴)
 12. Webにおける情報デザイン(Webデザインの現況)
 13. Webにおける情報デザイン(課題制作)
 14. 試験
- 「CGクリエイティングコースI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

「入門Webデザイン」(CG-ARTS協会)

ユーザ部門管理者コース（初級システムアドミニストレータ試験対策）

金澤小夜子 森 有紀 森 友紀 勝野祐子

【授業の概要】

「初級システムアドミニストレータ試験」の合格を目標とする教育科目である。利用者の立場から、担当する業務の情報化を推進するための知識と能力を習得する。コンピュータの活用法、ヒューマンインターフェース設計やシステム運用の技能、パソコンとネットワークの基礎知識、表計算ソフトやデータベースソフトの活用能力について学ぶ。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である初級システムアドミニストレータの資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータの基礎知識
 2. ハードウェアとソフトウェア
 3. 表計算（表計算ソフトの機能・相対参照と絶対参照・IF関数）
 4. 表計算（データベースの種類と特徴・リレーショナルデータベース）
 5. ネットワーク・文章化と発表技術
 6. 業務と業務改善（組織と業務活動・財務会計と管理会計）
 7. 業務と業務改善（問題発見のためのデータ収集・整理・分析）
 8. 情報システム構築支援
 9. 情報システムの運用（情報システムの開発工程）
 10. 情報システムの運用（外部設計の支援・テスト工程の順序）
 11. 午後問題試験対策：解説と演習
 12. 過去出題問題の検証と分析
 13. 過去出題問題の検証と分析
 14. 試験
- この授業では、「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」「ネットワークリテラシ入門」で習得した知識が必要になる。

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価を行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

システム管理者コース I（基本情報技術者試験対策）

戸谷英司

【授業の概要】

「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、将来高度な技術者を目指す者としての知識と能力を習得する。情報技術全般の基本的な知識、基礎的なプログラム設計書作成能力、プログラミングのための論理的思考能力、プログラムのテスト手法などについて学ぶ。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータ科学基礎（基数変換と数理応用・論理）
 2. コンピュータ科学基礎（データ構造とアルゴリズム）
 3. データベース技術
 4. コンピュータシステムの開発（要求分析と設計手法）
 5. コンピュータシステムの開発（システムの運用と保守）
 6. ネットワーク技術
 7. セキュリティと標準化
 8. 情報と経営（業務改善と分析・知的財産権）
 9. 情報と経営（財務会計と管理会計・IE手法とQC手法）
 10. アルゴリズム（整列、探索、文字列処理、ファイル処理）
 11. アルゴリズム（図形、グラフ、数値処理）
 12. プログラム設計・開発
 13. 過去出題問題の検証と分析
 14. 試験
- この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価を行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

CGクリエイティングコース I（CGクリエイター検定Webデザイン部門2級試験対策）

茂籠英典

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標とする教育科目である。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるので、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 情報とコミュニケーションにおけるWebサイトの役割
 2. コンセプト立案から運用までのプロセス
 3. 様々なWeb技術（HTML・スタイルシート）
 4. 様々なWeb技術（Javascript）
 5. 情報の構造とWebサイトへの展開
 6. Webページのデザイン（レイアウト、グラフィックス）
 7. Webページのデザイン（インターフェース、ナビゲーション）
 8. Webページにおける様々な表現手段（Flash）
 9. Webページにおける様々な表現手段（Javaアプレット、CGI、XML）
 10. Webサイトの評価手法と運用
 11. 関連知識（知的財産権など）、過去出題問題の検証と分析
 12. 過去出題問題の検証と分析
 13. 過去出題問題の検証と分析
 14. 試験
- この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。特に「CGクリエイティングコースII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況で評価を行う。

【テキスト】

「Webデザイン コンセプトメイキングから運用まで 改訂版」CG-ARTS協会

システム管理者コース II（ソフトウェア開発技術者試験対策）

中野雅晴

【授業の概要】

「ソフトウェア開発技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。ソフトウェア開発技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

【授業の目標】

ソフトウェア開発技術者の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータ科学基礎上級（情報の基礎理論）
 2. コンピュータシステム上級（ハードウェア、基本ソフトウェア、システム構成）
 3. システム開発と運用（プログラム言語、システム開発手法とプロセスモデル）
 4. ネットワーク技術
 5. セキュリティと標準化
 6. ソフトウェア工学
 7. データベース技術（関係データベースの基礎）
 8. データベース技術（SQLとデータベース設計）
 9. アルゴリズム
 10. システム構成技術（システム設計、テスト技法）
 11. 過去出題問題の検証と分析
 12. 過去出題問題の検証と分析
 13. 過去出題問題の検証と分析
 14. 試験
- この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価を行う。

【テキスト】

授業中に指示する。

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」の合格を目標とする教育科目である。1級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの具体化に関する問題解決能力が必要とされるので、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 基本Webテクノロジーとその活用
 2. 最新のWebテクノロジーの概要
 3. 過去出題問題（マークシート）の検証と分析
 4. 過去出題問題（記述式）の検証と分析
 5. 過去出題問題（記述式）の検証と分析
 6. 過去出題問題（二次試験）の検証と分析
 7. 過去出題問題（二次試験）の検証と分析
 8. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 9. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 10. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 11. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 12. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 13. 自ら提議したテーマに基づいたWeb制作
 14. 試験
- この授業を履修する際には、カリキュラム表の履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況で評価を行う。

【テキスト】

「Webデザイン」CG-ARTS協会

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

全ての情報処理プログラミングに必要な論理演算、データ量や処理スピードに関する基礎知識を理解し、CGやゲームプログラミングで必要となる三角関数やベクトルの基礎的な計算法を習得する。

【授業計画】

1. 命題と制御処理
2. 集合と写像
3. データの表現法と2進法
4. 情報量/計算量の評価
5. 三角関数
6. 2次元ベクトル
7. 2次元図形の表現法
8. 行列
9. 2次元図形の変換
10. 3次元ベクトル
11. 3次元図形の表現法
12. 3次元図形の変換
13. 試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する。

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業の目標】

人工知能の学問分野を概観し、人工知能プログラムや知識の表現、推論についての基礎知識を習得する。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望
14. 試験

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

人工知能概論 第2版 (荒屋真二著 共立出版)

スポーツ科学

山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 丸山治美 村本名史

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	バドミントン・卓球
	2限	門間	バスケットボール・バレーボール
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
火曜日	2限	村本	テニス・バスケットボール
	3限	山本	卓球・バレーボール
	4限	山本	卓球・バレーボール
水曜日	1限	門間	バドミントン・卓球
	2限	門間	バスケットボール・バレーボール
	3限	門間	フットサル・バドミントン
	4限	門間	フットサル・バドミントン
木曜日	1限	寺田	卓球・バドミントン
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
	2限	松田	テニス・ニュースポーツ
	3限	松田	テニス・バドミントン
	4限	松田	テニス・バドミントン
金曜日	2限	門間	ソフトボール・バドミントン
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

山本啓子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔卓球〕(月曜3限前半・月曜4限前半・火曜3限前半・火曜4限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットのグリップと打法
 3. フォアハンド・バックハンド
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
 4. サービスとレシーブ
シングルスゲーム(審判)
 5. シングルスゲーム(審判)
 - 6~7. ダブルスゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
〔バレーボール〕(月曜3限後半・月曜4限後半・火曜3限後半・火曜4限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
 3. サープとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 4. トス・スパイク・ブロック
(スパイクカバー・ブロックカバー)
 - 5~7. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔テニス〕(木曜2限前半・木曜3限前半・木曜4限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる
3. ボールをコントロールする
4. サービスを練習する
5. ルールとマナーを身につける

6~7. ミニゲーム・スキルテスト

〔ニュースポーツ〕(木曜2限後半)

1. ガイダンス
- 2~8. ユニホッケー
ベタンク
ソフトバレーボール
ミニテニス

上記のニュースポーツを実践する。

〔バドミントン〕(木曜3限後半・木曜4限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5~7. ミニゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(月曜1限前半・水曜1限前半・水曜3限後半・水曜4限後半・金曜2限後半)
- 1~2. ラケットとシャトルをコントロールする
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4~6. ミニゲーム
- 〔卓球〕(月曜1限後半・水曜1限後半)
1. ラケットのグリップと打法
 2. フォアハンド・バックハンド
 3. サービスとレシーブ
 - 4~6. ゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- 〔バレーボール〕(月曜2限後半・水曜2限後半・金曜3限前半・金曜4限前半)
1. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
 2. サープとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 3. トス・アタック・ブロック
 - 4~6. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)
- 〔バスケットボール〕(月曜2限前半・水曜2限前半・金曜3限後半・金曜4限後半)
1. ボールに慣れる
 - 2~3. 個人・チームでの基本的な練習
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5~6. ゲーム・スキルテスト
- 〔フットサル〕(水曜3限前半・水曜4限前半)
1. 個人技能の確認
 - 2~3. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
 - 4~6. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)
- 〔ソフトボール〕(金曜2限前半)
- 1~3. キャッチボール・バッティングの基本、練習、ゲーム
 - 4~5. 守備の基本、練習、ゲーム
 6. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)

【評価方法】

出席=70点 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・天候によって種目を変更する場合がある。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔卓球〕(木曜1限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットのグリップと打法
 3. フォアハンド・バックハンド (ロング・ショート・カット・スマッシュ)
 4. サービスとレシーブ
- 5～7. シングルゲーム・ダブルゲーム (スコア記録)
- 〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)
- オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。
1. ガイダンス
 - 2～4. 主にアウトドア種目 (フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー) 等を用いての動き作り
 - 5～8. 主にインドア種目 (卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール) 等を用いての動き作り
- 〔バドミントン〕(木曜1限後半・木曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとシャトルに慣れる
 3. シャトルをコントロールする
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5～8. シングルゲーム・ダブルゲーム (スコア記録)

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
 - ・この授業では、1. エアロビクスの特性・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知るの3点を目標に行う。
- 〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)
1. ガイダンス
 2. エアロビクスとは何か その理論と特性
 3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
 4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
 - 5～6. ボールを使って
 7. 体脂肪
 8. ウェイトコントロール
 9. 骨を強くする
 - 10～15. エアロビクス ダンス パフォーマンス
動きづくり練習 発表・相互評価

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

村本名史

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔テニス〕(火曜2限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとボールに慣れる
 3. ボールをコントロールする
 4. サービスを練習する
 5. ルールとマナーを身につける
- 6～7. ミニゲーム・スキルテスト
- 〔バスケットボール〕(火曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる
 3. 基本的な個人技能の確認
 4. チームでの基本的な練習
 5. ルールとマナーを身につける
 - 6～7. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

山本啓子 松田秀子 門間 博 寺田邦昭 蛭田秀一 村本名史

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	2限	村本	テニス
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
火曜日	2限	村本	バレーボール
	3限	山本	バドミントン
	4限	山本	バドミントン
水曜日	1限	門間	テニス
	2限	松田	バドミントン
	2限	門間	テニス
	3限	松田	バドミントン
	3限	門間	フットサル
	4限	門間	フットサル
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	村本	バスケットボール
金曜日	1限	蛭田	卓球
	1限	門間	テニス
	2限	蛭田	卓球
	2限	門間	テニス
	3限	門間	バドミントン
	4限	門間	バドミントン

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

山本啓子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕(月曜3限・月曜4限・火曜3限・火曜4限)
- 1. ガイダンス
- 2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
- 3. ラケットワーク
- 4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
- 5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
- 6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
- 7. ゲームの進め方、ルール説明
- 8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9~15. ダブルスゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕(水曜2限・水曜3限)
- 1. ガイダンス
- 2. 記録への挑戦(打ち続けよう)
- 3. 歴史的ゲームの追体験
- 4. 用具の特徴(貴重な水鳥の羽根)
- 5. フォーム作り(格好良いフォームで打とう)
- 6. 攻撃的なショット(初速はどれくらい?)
- 7. 守備的なショット
- 8. 基本の戦術
- 9. ダブルスのフォーメーション
- 10. 世界のバドミントンプレイヤーを観よう(VTR)
- 11. ゲームの特徴(心拍数、運動強度はどれくらい?)
- 12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
- 13. ハーフコート・ミニゲーム
- 14. ダブルスゲーム
- 15. スキルテスト

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔テニス〕(水曜1限、水曜2限、金曜1限、金曜2限)
- 1. ガイダンス、競技の概略
- 2. ラケットとボールに慣れる(グリップ、スタンス)
- 3. グランドストローク(フォアハンドを中心に)
- 4. グランドストローク(バックハンドを中心に)
- 5. サーブ、レシーブ
- 6. ボレー、スマッシュ
- 7. ゲームの進め方、ルールとマナー
- 8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9~15. ダブルスゲーム、スキルテスト
- 〔フットサル〕(水曜3限、水曜4限)
- 1. ガイダンス
- 2. 個人技能の確認
- 3~5. ボールコントロールの正確性、巧みに運ぶための基本技術、基本技術を生かしたミニゲーム
- 6~7. 個人技能をもとにチーム編成をし、ミニゲーム
- 8~10. ミニゲームのリーグ戦
- 11~15. リーグ戦、まとめ(記録整理・レポート)
- 〔バドミントン〕(金曜3限・金曜4限)
- 1. ガイダンス
- 2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
- 3. ラケットワーク
- 4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
- 5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
- 6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
- 7. ゲームの進め方、ルール説明
- 8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9~15. ダブルスゲーム

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・ニュースポーツについて、2~6週までのうち雨天の場合には7~14週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
〔バドミントン〕(木曜1限)
- 1. ガイダンス
- 2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
- 3. ラケットワーク
- 4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
- 5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
- 6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
- 7. ゲームの進め方、ルール説明
- 8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9~15. ダブルスゲーム
- 〔ニュースポーツ〕(木曜2限)
- 1. ガイダンス
- 2~3. フライングディスク
- 4~6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 7~10. インディアカ、ミニテニス
- 11~14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
- 15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】

出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

蛭田秀一

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔卓球〕(金曜1限・金曜2限)
1. ガイダンス
 2. 用具の使用法と安全に関する注意点の説明、連続ラリー、簡易ゲーム
 - 3～6. 卓球における各種基本打法の説明と学習(ルール、姿勢、位置どり、グリップ、スウィング、フットワークなど)、サービスとレシーブの学習、簡易ゲーム
 - 7～11. シングルス・ゲームの進め方の説明、打球技術の定着を図るための多人数との対戦、個別指導
 - 12～13. 一流選手の打球技術に関するビデオ学習、ダブルス・ゲームの進め方の説明と実施
 14. 実技テスト、まとめ
- 上記は標準的な実施計画であり、受講者の技能レベルに応じて順序や時間配分を変更する場合がある。

【評価方法】

- 出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

村本名史

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・天候によって種目を変更する場合がある。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔テニス〕(月曜2限)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとボールに慣れる(グリップ、スタンス)
 3. グランドストローク(フォアハンドを中心に)
 4. グランドストローク(バックハンドを中心に)
 5. サービス、レシーブ
 6. ボレー、スマッシュ
 7. ゲームの進め方、ルールとマナー
 8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
 - 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト
- 〔バレーボール〕(火曜2限)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる、構え、動きの基本姿勢
 3. サーブの種類と打ち方
 - 4～6. パス、トス、レシーブ、スパイク、ブロック
 - 7～15. ゲームの進め方、ルール説明、ゲーム
- 〔バスケットボール〕(木曜3限)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる
 3. 基本的な個人技能の確認
 4. チームでの基本的な練習
 - 5～7. ルールとマナーを身につける
 - 8～15. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

- 出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ特殊講座(ボウリング)

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

- 〔ボウリング〕
1. 実習日時 平成19年9月5日(水)・6日(木)・7日(金)
10日(月)・11日(火)・12日(水)
計6日間 9:30～12:40
 2. 説明会 日時 平成19年7月4日(水)12:30～13:15
場所 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス
健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
 3. 場所 星ヶ丘ボウル
 4. 実習費 6,000円
(平成18年度のものでありますので変更する場合があります)
 5. 定員 60名
 6. 内容
1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
2日目 ボウリングの歴史、基本動作
3日目 ボールのコントロール、軌道調整
4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

【参考文献・資料】

山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会、2004。

スポーツ特殊講座(スケート)

鶴原香代子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎技能の習得を図り、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

【授業計画】

1. 実習日時 平成19年9月5日(水)・6日(木)・7日(金)
10日(月)・11日(火)・12日(水)計6日間
時間: 9:30～12:40
2. 説明会 日時: 平成19年7月10日(火)16:40～17:25
場所: 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
・説明会の欠席者は受講を認めません。
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3. 実習場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円 ※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5. 定員 40名
6. 内容 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目 自然滑走、正しい押し出し
3日目 フォアスケイティング・カーブ滑走
4日目 ストップ、バックスケイティングの基本
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況(70%)と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度(30%)により総合評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

大学スケート研究会「アイススケイティングの基礎」アイオーエム,1995。

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の学校教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 日本における近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力とは何か
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力にかかる形成諸段階
 - (1) 養成段階（戦前・戦後の教員養成）
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
 - ・ 法的根拠
 - ・ 研修の種類
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 教育問題をテーマにディベート

【評価方法】

コメント・カード、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教師論

久保義男

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

学校教育における教師の役割について考えとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

【授業計画】

- 1 教職の意義と教師の役割
- 2 教育基本法の趣旨
- 3 中学校・高等学校の目的・目標
- 4 学校教育の歴史
- 5 答申類に見る我が国の教育施策
- 6 愛知県の教育施策
- 7 教育をめぐる現代的な諸課題
 - (1) 青少年の心理と生徒理解
 - (2) 問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
 - (3) 人権教育・同和問題
 - (4) 障害児教育
 - (5) 情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
 - (6) 生涯学習・社会教育
- 8 魅力ある学校づくり
 - (1) 学校評価と開かれた学校づくり
 - (2) 教員評価と学校組織の活性化
 - (3) 危機管理・説明責任

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- | | |
|--------|---|
| 第1時限 | 教師になるためには（教職課程ガイダンス） |
| 第2時限 | 教師に求められる資質・能力 <ul style="list-style-type: none">・ 戦前、戦後の教師像 |
| 第3時限 | いま教師には何が求められているか |
| 第4時限 | 教員養成の歴史 |
| 第5時限 | 学校をとりまくしくみ（教育行政のあり方） |
| 第6時限 | 教育基本法を読む |
| 第7時限 | 学習指導要領とは（その歴史と現行教育課程の問題点） |
| 第8・9時限 | 「学校」をとりまく諸問題 <ul style="list-style-type: none">・ 教師の生活 |
| 第10時限 | 学習指導とは <ul style="list-style-type: none">・ 生徒のためのよりよい勉強法 |
| 第11時限 | 先生になるために最低限、読んでほしい本 |
| 第12時限 | 論文（レポート）の書き方について |
| 第13時限 | 教育に関する現代的諸問題 |
| 最終回 | 試験 |

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育原理

佐藤実芳

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・ 教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・ 教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
 - 動物学からみた人間の特殊性
 - 人間の成長と環境
 - 教育の重要性
 - 人間形成の場
3. 教育の本質
 - 注入主義（ソフィスト～本質主義）
 - 開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
 - 教育目的とは
 - 教育目的の歴史の変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度により総合的に評価する。評価の詳細については、授業にて説明する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

羽場俊秀

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

教育全般に対する根本的なとらえ方、考え方を理解すること。（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 教育原理の進め方
2. 教育学の成立
3. 教育の方法
4. 学校での教育
5. 学校以外での教育
6. 現代の教育問題

【評価方法】

筆記試験（論述）を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあるが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想が書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生はまずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. バスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる
 - 外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 II

冨安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自分自身の自己形成のプロセスへの関心を深め、自己理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

鈴木郁子

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害をもつ生徒への指導が、従来の特殊教育諸学校から、一般学級に在籍する障害児に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから障害児の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、今後教職に就く者にとって障害児の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

それぞれの障害の発生原因、障害の特殊性を理解し、個に応じた発達促進を計る為に学校教育では、どのように配慮する必要があるか理解する。

【授業計画】

- 1 現在の障害児教育の実際を概略理解する。
- 2 心身障害児の種類と障害の程度について理解
特別支援学校に在籍する障害児について
一般学級に在籍する障害児について
- 3 心身障害児の早期発見・早期教育の必要性について理解
- 4 社会自立に向けた後期中等教育の必要性とその実状について理解
- 5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

渡辺かよ子

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

教育行政学（河野和清 ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

解説教育六法（解説教育六法編集委員会編 三省堂）

教育制度

羽場俊秀

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

教育制度の変遷の歴史、特徴、今日的な課題について理解すること。（詳細は授業にて説明する。）

【授業計画】

1. 教育制度を学ぶ意義
2. 学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の変遷
4. 学校教育制度の比較
5. 日本の学校教育制度
6. 現代の学校教育制度

【評価方法】

筆記試験（論述）を行う。レポートを課す場合には、課題に対する意欲なども加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていききたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしながら、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。
なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことにより、「生きる力」と「確かな学力」の育成を目指す現行学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の実際に関しても検討する。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
(1) 教育課程研究の重要性
(2) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
(1) 戦前の教育課程
(2) 戦後の教育課程
ア 学習指導要領第一次改訂
イ 学習指導要領第二次改訂
ウ 学習指導要領第三次改訂
エ 学習指導要領第四次改訂
オ 学習指導要領第五次改訂
カ 学習指導要領第六次改訂
- 3 改訂学習指導要領の普及化
(1) 伝達講習(ブロック、県、各学校)
(2) 実践研究指定校制度
- 4 現行学習指導要領総則編(小・中・高)
- 5 現行教育課程の事例検討(小・中・高)
- 6 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
- 7 教育課程にかかる今日の問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

コメント・カード及び期末考査、出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介または配布する。

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。
なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- 第1時限 講義に関する諸注意
- 第2時限 「教育課程」とは何か
- 第3時限 世界の教育課程改革の歴史(20世紀以前)
- 第4・5時限 世界の教育課程改革の歴史(20世紀以降)
- 第6時限 わが国における教育課程改革の歴史(戦前)
- 第7時限 わが国における教育課程改革の歴史(戦後)
- 第8・9時限 現行の学習指導要領の成立と問題点
- 第10・11時限 教育課程(カリキュラム)を編成するにあたって
・カリキュラム編成の基本問題
・カリキュラム編成の実際
- 第12時限 新しいカリキュラムの試み
・小学校における「英語」の授業について
- 第13時限 諸外国における学校制度と教育課程
※この間、小テストならびに教育をテーマにしたビデオを見る。
※最終回・・・試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

商業科教育法 I

宮部幸雄

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改訂の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

【授業の目標】

新しい学習指導要領について理解を求めるとともに、具体的な学習計画の立案、実施などの経験的学習を通して、商業科の教師としての基礎的資質を身につける。

【授業計画】

- 1 学習指導要領と商業教育
(1) 学習指導要領の性格及び構成
(2) 商業の目標・組織・学科
- 2 教育課程の編成
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画・学習指導案の作成
- 4 各科目の内容とねらい
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
- 5 授業の具体的展開
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法(吉野弘一 著 実教出版株式会社)

商業科教育法 II

宮部幸雄

【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

【授業の目標】

「商業科教育法I」に引き続き、商業の各分野に関する基礎的・基本的な科目を具体的な学習指導計画に基づいた模擬授業のあり方を中心に学習を進め、あわせて「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」について理解を深める中で、教職の使命とその特殊性・専門性について自覚を促す。

【授業計画】

- 1 学習指導と評価
(1) 学習指導の一般原則
(2) 学習指導の形態と方法
(3) 商業教科の評価
- 2 各科目の内容とねらい
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
- 3 資格取得指導の現状と課題
- 4 商業高校における進路指導の視点 進学・就職
- 5 商業教育の将来

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

商業科教育法(吉野弘一 著 実教出版株式会社)

情報科教育法 I

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することがある。

【授業の目標】

高等学校での普通教科「情報」の目標・学習内容・指導方法の概要を理解し、情報科教員として必要となるミニマムエッセンシャルズとしての知識・技能を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション、情報科教育の史的展開と意義について概観する
- 2 高度情報化社会における情報倫理、セキュリティ等について
- 3 コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能について
- 4 普通教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
 - (1)「情報 A」の目標・学習内容・指導方法について
 - (2)「情報 B」の目標・学習内容・指導方法について
 - (3)「情報 C」の目標・学習内容・指導方法について

【評価方法】

出席状況、提出された報告書等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

情報科教育法 II

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Iにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するために必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業の目標】

専門教科「情報」の11科目についてその概要を理解する。教育実習生および新任教師として、教科「情報」の授業をするための基礎的能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション、専門教科「情報」とは何か
- 2 専門教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
- 3 普通教科「情報」の授業の展開
 - (1)「情報 A」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
 - (2)「情報 B」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
 - (3)「情報 C」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実践
- 4 専門教科「情報」の科目「課題研究」の教材収集・開発

【評価方法】

出席状況、提出された学習計画、指導案等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）
（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。
そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。
「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する。
 - (1)儀式的行事 (2)学芸的行事 (3)健康安全・体育的行事 (4)遠足・集団宿泊的行事 (5)勤労生産・奉仕的行事 等以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を話題としてとり入れる。

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。出席・普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃可編著 ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折健二他編 労働旬報社）
<子供>の誕生（フィリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房）
教養主義の没落（竹内洋 中公新書）
立身出世主義（竹内洋 NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋 講談社現代新書）
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）
学級経営の歴史（志村廣明 三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）
<学級>の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社）
「校則」の研究（坂本秀夫 三一書房）
教育には何ができないか（広田照幸 春秋社）
教育学がわかる事典（田中智志 日本実業出版社）
教育に関する私の方法叙説（不破民由 新風舎）

他

教育方法

石黒昭吉

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

学校教育活動の中核を占める学習活動（授業）について、その原理・方法、教育学的技術、評価等を中心的テーマとした講義・演習により、どのように教材を工夫し、どのような授業をすれば学習者は上手く学べるかについて理解する。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション 人間関係を考える
- 2 モチベーションについて
- 3 教材とは、教材をイメージする
- 4 教材づくりをイメージする
- 5 教材の構造を見極める
- 6 学習指導のストラテジーについて
- 7 教材を作成する（情報機器及び教材の活用を含む）
- 8 テストとは、テストを作成する
- 9 評価について
- 10 形成的評価について
- 11 教材の改善について
- 12 まとめ

【評価方法】

積極的な授業参加とレポート、期末に行う試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

【参考文献・資料】

随時紹介する。

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心にしながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用の方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、飛行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- | | |
|----------|--|
| 第1時限 | 講義の進め方と評価などについての注意 |
| 第2時限 | 「生徒指導」（進路指導を含む）では何を学ぶのか |
| 第3時限 | 生徒指導の意義と課題 |
| 第4時限 | 生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展 |
| 第5時限 | 発達心理（青年期の心理） |
| 第6時限 | 生徒理解の方法と技術 |
| 第7時限 | いまの中学・高校生が育ってきた時代背景 |
| 第8時限 | いま学校でおこっていることども |
| 第9時限 | 生徒指導における数々の事例（法令との関わりで）
・学校事故（授業・クラブ活動での事故） |
| 第10時限 | 進路指導について |
| 第11時限 | ゲーム機や携帯電話と子どもたち |
| 第12時限 | 懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり） |
| 第13・14時限 | 学校に関する事柄を特集したビデオを見る。 |
| 最終回 | 試験 |

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

生徒指導（進路指導を含む）

内藤春彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

学校が抱えている今日的課題の認識とその対応策の学習・実践を行い、もって21世紀社会を担う青少年の健全育成に携わることが出来る人間観のある教員の養成を図りたい。

【授業計画】

1. 学校が抱えている今日的課題とその対応策
 - (1) 学校教育の現状と望ましい学校づくり
 - (2) さまざまな不応対に対する生徒指導の在り方
 - (3) 規範意識の醸成
2. 生徒指導の在り方
 - (1) 生徒指導の考え方と指導体制
 - (2) 生徒指導の法律問題
 - (3) 生徒の問題行動
 - (4) 非行少年の補導と処遇
 - (5) 青少年の健全育成と生徒指導関係機関
 - (6) 進路指導
3. 人間観の追求
 - (1) サムエル・ウルマンの「青春とは」
 - (2) 宮沢賢治の「雨ニモマケズ」
4. 生きる力を養うソーシャルスキルトレーニング（SST）の実践
 - (1) 生徒のソーシャルスキルについて
 - (2) 教師のソーシャルスキルについて
 - (3) ソーシャルスキルトレーニング（SST）の実践的研究
 - (4) ソーシャルスキルトレーニング（SST）の実践

【評価方法】

メッセージ交換カード、期末考査及び出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布する。

教育相談（カウンセリングを含む）

冨安玲子

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不応対行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒-教師関係のあり方を考えながら、面接の進め方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師-生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - ・教育相談の位置づけ、教育相談の特徴
 - ・教育相談の進め方
 - ・カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 佐藤成哉 佐藤実芳
富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の8テーマに別れて演習を行なう。

- (1) 福祉-ボランティア活動の在り方（伊藤昭道）
- (2) 学校におけるクライシス・マネージメントの問題（後口伊志樹）
- (3) みんなの学校問題（小栗正彦）
- (4) 人間と自然環境（佐藤成哉）
- (5) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (6) ジェンダーと教育（富安玲子）
- (7) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）
- (8) 国際化を考える（羽場俊秀）

【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

- ※印は後期日程（於 星が丘）
1. 全体、各テーマ別 8月10日 ※1月30日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (3) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
 2. 8月28日 ※2月19日
課題レポートの提出（必要部数の印刷）
 3. 各テーマ別 8月31日 ※2月22日
 - (1) 課題レポートについて報告、質疑応答
 4. 各テーマ別 9月7日 ※2月29日
 - (1) グループとして課題について整理、代表者の選出
 5. 全体 9月12日 ※3月5日
 - (1) グループ代表者の発表、担当教員の指導
 - (2) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実際例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習履修上の心構え、介護等体験実施上の心構えをしっかりと確立すると共に、教育技術・介護等体験の態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習の様子
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録
 - ・実習記録の意義
 - ・実習記録の方法
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
 - ・特別支援教育諸学校教育の理解
 - ・障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」を使用。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

宮部幸雄

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

1. 教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2. 教師として、生徒の指導に必要な、より実際的で専門的な知識と技能を習得する。
3. 教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容と方法
3. 教育実習記録
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

【評価方法】

授業内で発表する。

【テキスト】

教育実習を成功させよう 2007年版（小松喬生・次山信男編 一ツ橋書店）

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えらる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えらる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- (1) 学級担任として
朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- (2) 教科担任として
前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
- (3) 特別活動として
学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がり深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。

（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 生涯学習理念の成立と発展
2. 生涯学習実践の課題
3. 生涯学習と社会
4. 生涯学習と人間
5. 社会教育の意義
6. 社会教育施設の概要
7. 社会教育の内容・方法・形態
8. 社会教育指導者
9. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

国際理解教育論

羽場俊秀

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
 - ・道徳と倫理
 - ・道徳教育思想の展開
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
 - ・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷
 - ・戦後の道徳教育の展開
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
- 6 まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、必要に応じて紹介。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということは、
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点 生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君たちに読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第12時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第13時限	いま「本の世界」で問題になっていること
第14時限	試験
最終回	

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学校図書館メディアの構成

枝元益祐

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるような、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

1. 学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。
2. 学校図書館の各種メディアを特性を理解し、収集、選択する上での諸問題を考察する。
3. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
4. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

【授業計画】

1. 学校教育における学校図書館メディアの効果（総論）
2. 学校教育に寄与するメディア群の特性の把握
 - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
3. 教育の情報化に寄与する学校図書館活動
 - (1) 学校教育における情報メディアと学校図書館メディアとの関連
 - (2) 教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア
 - (3) 教科教育および調べ学習・総合学習に有益な学校図書館メディア構成
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化
 - (3) 子ども（児童・生徒）への資料提供

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成（小田光宏編 樹村房）
分類・目録法入門（木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規）

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能を学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。

そこで、カリキュラム展開の中で学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論）
2. 司書教諭の専門性と学習支援
3. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
4. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
5. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
6. 学校図書館における情報サービスと学習指導
7. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】

特になし

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、事例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこごび
 - (1) 読書との出会いとよこごび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期における読書との出会い
 - (3) 読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭・友人間での読書、対話、読書会
 - (2) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 情報収集のための「読書」と思索のための読書
 - (3) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

教育の情報化にあつて、学校図書館にはその中枢機関としての機能が求められている。その前提となるのがメディアを活用する能力である。その根底となる考え方に焦点を当てる。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等
 - (4) 情報メディアの今後の動向とその対応

【評価方法】

授業内での課題及び試験を総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料を配布する。

博物館概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の発端I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の発端II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめる。
- 8) アメリカの博物館…合衆国独立から現代までの特徴を探る。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の発端
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
 - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
 - ・最近の博物館組織

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 I

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員考…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館の協力…大学・研究機関などとの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組まないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
専門職員としての「学芸員」とは何か
博物館と美術館の発達とその時代背景
博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
博物館の分類と現代性
博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
博物館の相互協力と情報の活用
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
長谷川銹治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
博物館や美術館の展示と陳列構造
博物館がとり扱う資料の収集と保存
博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
文化財の種類と保護にかかわる諸問題
生涯学習の必要性と博物館の関連事業
毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
博物館学論考（長谷川銹治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銹治 戸谷印刷）を参照することをすすめる。

博物館学各論 II

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱いを学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実際について具体的に学ぶ。
 - a 資料の収集
 - b 資料の取扱い
 - ・ 保存箱の種類と取扱い
 - ・ 掛軸の扱いと掛け方
 - ・ 古文書 ・ 和装本の取扱い
 - ・ やきもの ・ 茶碗の取扱い
 - ・ 瓦のみかたと取扱い
 - ・ 刀、太刀のみかたと取扱い
 - c 資料の整理・保存
 - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・ 数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・ 出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 II

赤羽一郎

【授業の概要】

博物館の活動の基礎は「資料」にあり、それを有効活用することではじめて博物館と言えよう。本講座では、その収集・取り扱い・整理・保存・活用について具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館において、「資料」とはどのような存在かを知り、その取り扱いと活用方法について学ぶことが目標である。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取り扱い……基本資料の取り扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
やきもの、和装・卷子本、掛軸その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

出席、実習態度、レポートおよび小テストで評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館学各論 II

瀬川貴文

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」=博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。

- (a) 博物館と博物館資料
- (b) 資料を記録する技術
拓本・実測・写真など。
- (c) 資料を扱う技術
掛軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
- (d) 資料を保管・保存する技術
ドキュメンテーション・保存科学など。
- (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内)の小テストの結果も勘案する。

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館実習

柴垣勇夫

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
 - 1) 展示とは
 - 2) 展示のポイント
・ 動線 ・ 視線 ・ 照明 ・ 温度 ・ 湿度
 - 3) 展示の施設
 - 4) 展示のプロセス
 - 5) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

・ 演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
・ その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銑治 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

赤羽一郎

【授業の概要】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習、博物館見学、博物館実習を中核に、具体的な学芸員活動を様々な観点から学習する。

【授業の目標】

展示についての基礎的な手法を学び、その上で見学会を通して、様々な展示の手法や計画を知ることが目標の一つである。
また、自ら展示企画することで、博物館の展示ができていくまでの流れをシミュレートすることを目標としている。

【授業計画】

1. 展示とは……展示という手法について、その実際と未来像を考える。
2. 展示の実際……計画から、手法、条件などの展示の実際の概要を具体的事例をふまえながら、学んでゆく。
3. 展示にかかわる事業……展示をとりまく、様々な事業（解説、広報、印刷物、講座など）の存在を知る。
4. 展示の企画および実習……各自で企画した展示の計画書を作成し、また展示方法やその活用法を実習する。
5. 展示と教育普及事業……展示を通じての生涯学習機関として、博物館の今後をになう役割と未来を探る。

授業以外に、

- 土曜日に、博物館の展示・施設見学を行う。
- 夏休み中に、各博物館に依頼し館務実習を行う。

【評価方法】

授業および学外での研修の出席・レポート、各自の展示企画についての口頭発表およびその計画書で評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概論（長谷川鏑治 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

川合 剛

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者をつなぐインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。

- (a) 展示とは
- (b) 展示のプロセス
- (c) 展示の構成要素
- (d) 展示と資料保全
- (e) 着想から実施まで
- (f) 解説の方法と印刷物
- (g) まとめ

- *1 土曜日に近隣の博物館の展示見学、施設見学を行う（年5～6回程度）。
- *2 夏休み中に各博物館に依頼し、館務実習を行う。
- *3 夏休み中に海外博物館見学の研修を行う。
- *2、*3に参加しなかった者は、県外博物館の見学を行う。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出、時間内的小テストの結果などにより評価する。

【テキスト】

『博物館学概論』（長谷川鏑治 戸谷印刷）。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がり深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
（詳細は授業にて解説する。）

【授業計画】

1. 生涯学習理念の成立と発展
2. 生涯学習実践の課題
3. 生涯学習と社会
4. 生涯学習と人間
5. 社会教育の意義
6. 社会教育施設の概要
7. 社会教育の内容・方法・形態
8. 社会教育指導者
9. 総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】

情報社会における視聴覚教育の特性や情報・視聴覚機器の持つ機能、宗教と視聴覚との関連、メディアリテラシーの観点から情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割を理解する。情報メディアの特性を把握し送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】

- 1 視聴覚教育の目標
 - 1-1 視聴覚教育の意義
 - 1-2 視聴覚教育の機能
 - 1-3 視聴覚教育の役割と特性
- 2 宗教における視聴覚の役割
 - 2-1 宗教における荘厳
 - 2-2 宗教における音声
 - 2-3 宗教における絵画・彫刻
- 3 情報の活用とリテラシー
 - 3-1 情報とメディア
 - 3-2 情報の記録と保存
 - 3-3 情報の信憑性
 - 3-4 情報活用能力の育成
 - 3-5 プレゼンテーションの意義と機能
 - 3-6 情報モラルとセキュリティー
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
 - 4-1 展示の機能と効果
 - 4-2 学芸員の職務・役割
 - 4-3 視聴覚資料の鑑賞

【評価方法】

毎時の小レポート、指示するレポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】

特になし プリントを配布

【参考文献・資料】

メディア・リテラシー（宮谷明子著、岩波新書）
その他 授業時に指示する

教育学概論

羽場俊秀

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に重点を置いて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていくことにする。その際、取り上げる題材としてプリントやVTRを使用して理解を深めていきたい。

【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 序
2. 教育学の概念
3. 教育学の歴史
(1) 外国
(2) 日本
4. 教育学の課題
5. 学校と教育
6. 社会と教育
7. 家庭と教育
8. 現代と教育
9. 総括

【評価方法】

主に期末試験により評価するが、講義中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

美術史

高橋秀治

【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- | | | | |
|------|--|-------|---|
| 1～4 | 印象派からシュルレアリスムへ
・産業革命と芸術
・写真と絵画
・時間表現
・心理学 | 5～8 | 激動の時代と美術
・第一次世界大戦
・反芸術
・第二次世界大戦
・工業社会 |
| 9～12 | アメリカ美術の時代
・巨大絵画
・アメリカン・ドリーム
・文明の廃棄物
・エコロジー | 13～15 | ニューメディアと美術
・ニューメディア
・身体表現 |

【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えたとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的に見つめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折りにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを顕在化・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、つまり「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。近年は自然科学分野と共に、この「時計」と「戸籍」を解明するための作業が活発に行われている。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、文化人類学、民俗学、さらには文献史学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、つまり「学際」の途を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、それがどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからでもある。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物といった考古資料を活用する際に、欠くことのできない視点であると考えたい。

講義では、西欧に端を発した考古学の理念、日本での考古学研究の歩みと今日の研究の到達点、さらには遺跡・遺物の文化財としての保存・活用について考えていく。

【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
- 2 日本考古学の発展 ア 原始
- 3 〃 イ 古代・中世
- 4 〃 ウ 近世以降
- 5 文化財としての遺跡・遺物
随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、数回のミニ・レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、中国を例にさまざまな角度から検討するものである。
授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察してゆく。
教材としてプリントを配布し、視覚資料（DVD・OHC・地図ソフトなど）を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。
本講座では、日本の文化に多大な影響を与えた「中国」の文化を例として、その地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解説することができるようになることを目標としている。

【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 歴史地理学概説
3. 中国と日本の自然地理を知る
4. 自然地理と歴史の関係概説 史前期から近代まで
ユーラシア大陸の歴史と中国の統治範囲
中国歴代王朝と都の位置関係
5. 中国人の地域概念
「禹貢」の世界から現代の地理意識まで
6. 考古学上の現状
夏殷周三代の歴史とその遺跡
7. 気候変動と歴史の関係
8. まとめ

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価する。
期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国（陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社）
また、授業中に各種文献を紹介する。

生涯学習概論

羽場俊秀

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がり深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業の目標】

わが国の、これまでの生涯学習の成立過程、実践の課題、社会教育全般について理解すること。
(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 生涯学習理念の成立と発展
2. 生涯学習実践の課題
3. 生涯学習と社会
4. 生涯学習と人間
5. 社会教育の意義
6. 社会教育施設の概要
7. 社会教育の内容・方法・形態
8. 社会教育指導者
9. 総括

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価するが、開講中にレポートを課した場合これを評価に加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。IIでは、図書館・情報サービスの実際に関して、最低限知っておくべき事項を紹介し、今後の学習への指針を提供する。

【授業の目標】

「図書館情報学概論I」に引続き、まずは図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。また、図書館については、その多様な性格を包括的に理解するとともに、とくに情報サービスとしての側面に関する理解を深めること。

【授業計画】

1. 情報の流過程
情報の流れと情報メディア/学術情報の流過程
2. 図書館・情報サービスの世界
構成要素と機能/情報システムとしての図書館
3. 協力と競合
図書館ネットワーク/競合する情報サービス
4. 図書館員と情報専門職の世界
5. 図書館情報学の未来

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

図書館情報学概論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

1. 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
2. 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・こころ/人間・人・ヒト
3. 情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

注:「図書館情報学概論I」の単位を取得済でない学生については、「同II」の単位を認定しない。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典(丸善 3,800円税別定価)および配布資料

図書館経営論

雨森弘行

【授業の概要】

図書館の技術的な面-分類・目録等-資料組織とは別に図書館運営上の諸問題-司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館の存在理由についての哲学をしっかり身につけるとともに、図書館に対する社会の要請・期待は何か、それに図書館はどのように応えるべきなのか、応え得るのかについて、図書館経営に係る計画策定・組織機構・管理運営等の在り方について、実際例を参考にしながら理解を深める。

【授業計画】

1. 開講に当たって(受講の動機、目的、目標の確認)
2. 図書館経営の意義
3. 自治体行政と図書館
4. 図書館業務の理論と実際
5. 図書館の組織
6. 図書館の職員
7. 図書館の計画とマーケティング
8. 図書館の施設整備計画
9. 図書館ネットワークの形成
10. 図書館業務・サービスの評価
11. まとめ

【評価方法】

出席点、小レポート、最終レポートにより総合評価する。

【テキスト】

改訂「図書館経営論」(最新刊)(高山正也他編著 樹村房)

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 I

廣田 慈子

【授業の概要】

電子情報技術の急速な発展とグローバルな広がりを背景として、人と情報との関わりが変化してきた。社会はあらゆる面で急速な変化の様相を見せている。「情報サービス基礎論I」では、社会の多様化と情報の多様化と厄大化及び情報流通の変化に直面する「図書館」のサービスについて、主として公共図書館のサービスを念頭において諸問題を概観する。

【授業の目標】

旧来メディアおよび電子化の進む情報メディアなど、情報サービス機関として図書館が直面する諸問題について理解し、社会環境の中で図書館に求められる情報サービスの内容と多様性に対する知識と理解を深め、図書館および図書館員の可能性について考える。

【授業計画】

1. 今日の情報化社会
2. ICT（情報通信）環境と図書館
3. 図書館における情報サービスの意義
4. 図書館情報サービスの事例
5. 図書館種別の情報サービス
6. 現代社会と図書館情報サービスの諸問題

上記内容について、講義を中心に行います。

適宜、小課題やレポート等を課します。

受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 II

廣田 慈子

【授業の概要】

「情報サービス基礎論I」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義を理解した上で、伝統的な情報サービスの必要性および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスについて自らの理解を深める。

【授業計画】

1. 図書館における「情報サービス」
2. 伝統的情報サービスの展開
3. 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
・貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4. 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
・資料組織化／蔵書構築／等
5. 情報通信技術（ICT）環境の変化と図書館サービスの変化
6. 社会環境の変化と図書館サービスの変化
7. 求められる「図書館の情報サービス」

上記内容について、講義を中心に行います。

適宜小課題やレポート等を課します。

受講予定生は「インターネット講習会」を受講しておくこと。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配布資料を用いる。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

レファレンスサービス論

千代由利

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習III（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習を通して実践する。

【授業計画】

1. レファレンスサービス概論
2. 各種情報資源の評価分析・利用方法
3. インターネット情報源
4. 図書・雑誌の探索
5. 出版社、書店、電子出版の情報源
6. 新聞・新聞記事の探索
7. 言葉・事物・事象に関する情報の探索
8. 政府情報、統計情報の探索
9. 人物・組織の探索
10. 地理的情報の探索
11. 歴史的情報の探索

【評価方法】

出席状況、演習レポート等により評価する。

【テキスト】

『レファレンスサービス演習（改訂版）』（山本順一編著 理想社 2006）
（新図書館情報学シリーズ6）

【参考文献・資料】

レファレンスサービス：図書館における情報サービス（長澤雅男著 丸善）
情報源としてのレファレンスブックス（新版）（長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会）

情報検索演習 II（学術情報の探索）

櫻木 貴子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。
LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

情報検索演習 II (学術情報の探索)

後藤宣子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用、および検索結果に対する評価について理解する。LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
さまざまな情報検索の知識や技術を、実際の検索過程で活用する能力を習得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず(プリント配布)。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

櫻木貴子

【授業の概要】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル(データベースサービス)]
1. 文献探索と情報探索
 2. 各種情報源の特徴
 2. 1 雑誌記事(書誌情報)検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引
CD-ROM版
 2. 2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索
(DIALOG)
 2. 3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE
(DIALOG)
 2. 4 引用関係を利用した検索: Social SciSearch (DIALOG)
 2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、
PubMed (NLM/NCBI)
 2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス: LISA (CSA)
 2. 7 図書(所蔵/目次情報)検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat
(OCLC FirstSearch)
 2. 8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル(日経テレコン21)
 2. 9 人物情報検索: 人物情報横断検索 (G-Search)
 3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

後藤宣子

【授業の概要】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。
本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

情報検索演習I(1年次必修)および情報検索演習II(2年次)を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

【授業計画】

- [演習予定の検索対象ファイル(データベースサービス)]
1. 文献探索と情報探索
 2. 各種情報源の特徴
 2. 1 雑誌記事(書誌情報)検索
MAGAZINE PLUS (NICHIGAI ASSIST)、LLIS (DIALOG)、
CiNii (NII)、JST Plus (J Dream)、大宅社一文庫雑誌記事索引
CD-ROM版
 2. 2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索
(DIALOG)
 2. 3 シソーラスを利用した検索
JST Plus (J Dream)、ERICファイル (DIALOG)、MEDLINE
(DIALOG)
 2. 4 引用関係を利用した検索: Social SciSearch (DIALOG)
 2. 5 一次資料が入手可能なシステムの検索
NACSIS-IR (NII)、OCLC ArticleFirst (OCLC FirstSearch)、
PubMed (NLM/NCBI)
 2. 6 ネットワーク情報資源検索・アクセス: LISA (CSA)
 2. 7 図書(所蔵/目次情報)検索
Webcat (NII)、BOOKPLUS (NICHIGAI ASSIST)、WorldCat
(OCLC FirstSearch)
 2. 8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル(日経テレコン21)
 2. 9 人物情報検索: 人物情報横断検索 (G-Search)
 3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

情報メディア基礎論 I

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
特許ファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず(配付資料)。

情報メディア基礎論 II

櫻木貴子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解すること。

【授業計画】

- 1 情報流通と情報メディア
- 2 学術情報の流通モデル
- 3 情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
出版流通過程と制度
オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
学術雑誌の機能、査読制度
雑誌論文の構成
抄録作成法、引用法、
プレプリント、e-print
レター、editorial comment
 - (3) 新聞
新聞の流通制度
新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
学会、会議録
 - (5) 特許資料
特許制度
パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
情報検索システムの歴史
検索技術、シンソーラス
 - (8) インターネット
ネットワーク情報資源の特徴
WWWの評価
Web citation、メタデータ
ウェブ・アーカイビング
- 4 情報流通モデルの修正
- 5 電子環境下における情報メディア

【評価方法】

平常点、レポートおよび試験によって評価する。

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

情報メディア論 V（科学技術情報メディア）

櫻木貴子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である学術雑誌を中心に解説します。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識です。学術雑誌を理解するポイント、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにあります。とくに、研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討します。

1. 環境としての学術情報
2. 文献情報と文献調査
3. 学術雑誌の歴史と生態
4. 総合誌、レビュー誌、レター誌
5. 日本からの英文論文発表
6. 主要海外誌への日本からの発表傾向
7. 生物医学雑誌への統一投稿規程
8. オーサーシップからみた学術論文
9. 出版倫理と利害の衝突
10. ニュースメディアと学術雑誌
11. レフェリーシステム
12. 一流誌への発表
13. インパクトファクターの批判的吟味
14. 電子メディア（データベース、一次雑誌）の現在

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を育成する。

【授業計画】

講義を中心に行う。参考文献等はできるだけ事前に読んでもらいたい。講義内容に関係する資料を随時配付する。

【評価方法】

平常点、レポートで評価する

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

電子時代の学術雑誌 (Lambert, J. 著 日本図書館協会)
出版産業の起源と発達 (Thompson, J. W. 著 出版同人)
歴史としての学問 (中山茂著 中央公論社)
生命科学論文投稿ガイド (山崎茂明著 中外医学社)
医学文献サーチガイド 第2版 (山崎茂明著 日本医書出版協会)
研究評価 (根岸正光・山崎茂明著 丸善)

情報メディア論 IV（人文社会情報メディア）

藤野寛之

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解する。

【授業計画】

- 1 学問分野と情報メディア
- 2 自然科学分野と人文・社会科学分野
- 3 人文・社会情報メディア
 - (1) 美術・音楽
 - (2) 文学
 - (3) 言語
 - (4) 歴史
 - (5) 地理
 - (6) ビジネス（経済、経営、企業情報等）
 - (7) 法律
 - (8) 図書館情報学
 - (9) 人物
 - (10) その他
- 4 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

出席状況、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

専門資料論〔JLA図書館情報学テキストシリーズ8〕(三浦逸雄、野末俊比古共編著 日本図書館協会)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

資料組織論

櫻木貴子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。
目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録 (1) AACR 2r, NCR
- 第7回 記述目録 (2) アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
- 第8回 記述目録 (3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録 (1) 概要
- 第11回 主題目録 (2) 分類法
- 第12回 主題目録 (3) 主要分類法
- 第13回 主題目録 (4) 主要件名標目表
- 第14回 期末テスト

【評価方法】

平常点、レポート、試験

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
文献世界の構造：書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 丸善、2002)

資料組織演習

櫻木貴子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類：日本十進分類法
 - 主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

杉山誠司

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類：日本十進分類法
 - 主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織演習

後藤宣子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成が行えること。

書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類：日本十進分類法
 - 主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A., 2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

図書館学特殊 III (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。

サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

- (1) 子どもの読書と児童図書館
- (2) 児童図書館の意義と歴史
- (3) 児童資料の類型、出版・流通
- (4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学
- (5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他
- (6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成
- (7) 資料提供サービス、窓口業務
 - フロアワーク、レファレンス
- (8) 集会行事、展示・PR
- (9) 児童サービスの技術1 読み聞かせ ストーリーテリング
- (10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト
- (11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備
- (12) 児童サービスの対象 ヤングアダルトサービス
- (13) 類縁機関との連携 学校図書館
- (14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表
- (15) ストーリーテリング実習

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)

児童図書館のあゆみ (児童図書館研究会編 教育史料出版会)

情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探索する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

出席状況、定期試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(B. C. ヴィッカーリー著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探索する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書を紹介する。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 近代の動向
2. 図書館の世紀
 - (1) アメリカ
 - (2) イギリス
 - (3) その他
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. わが国の図書館、情報流通のあゆみ
7. 各国の図書館、情報流通の比較
8. 各国の図書館、情報政策の変遷

【評価方法】

出席状況、定期試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション(B. C. ヴィッカーリー著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報メディア論 I (マルチメディア)

楓 森博

【授業の概要】

現代社会ではあらゆる組織においてコンピュータ等情報機器が不可欠のツールとなっている。これら情報機器を使いこなすことにより、情報のより効果的な利用が可能となる。

この授業では、情報メディア・情報機器に関する基礎的なことを解説する。また、情報技術について図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報技術活用のための基礎知識を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1) ガイダンス：授業の目的、方法、授業計画について説明
- 2) メディアとは何か
- 3) 情報機器の発展経緯と種類、機能
- 4) 情報メディアの発展経緯と特性
- 5) 視聴覚メディアの種類と特性
- 6) コンピュータの基本的な仕組み
- 7) 図書館の機械化
- 8) データベースと情報検索
- 9) メディアの多様化と情報技術
- 10) インターネットについての基礎知識
- 11) インターネットによる情報発信
- 12) 電子情報と知的所有権

【評価方法】

(1) 出席状況 (2) 定期試験(またはレポート)
以上の結果により評価を行う。

【テキスト】

授業時に提示する。

初級簿記（3級程度） *基礎総合

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ(3時間)ずつ週2回のペースで、後期は2コマ(3時間)ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説(補助簿、試算表、伝票対策)
- 第7回 決算整理(売上原価)、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理(貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越)
- 第9回 決算整理(消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金)
- 第10回 直前総まとめ問題集解説(仕訳、精算表対策)
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記(2級程度)Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ(1)
- 第14回 総まとめ(2)
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）B *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ(3時間)ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記(2級程度)Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ(1)
- 第14回 総まとめ(2)
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記(2級程度)AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会計学

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。夏季集中授業時間に集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。春季集中授業期間および春季特別授業期間に、集中的に講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意図決定I、設備投資の意図決定
- 第11回 構造的意図決定II
- 第12回 構造的意図決定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：浅野敬志・三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記演習

浅野敬志

【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習A *商業簿記

浅野敬志

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本店店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習B *工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

英語海外セミナー I (米国)

中郷 慶

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。期間は8月中旬から9月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2005年度実施研修プログラムにおける1日(9:00~15:20)の学習内容は、以下の通り：
午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト(音楽/芸術・ニュースレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いながら仕上げ、修了パーティーで発表する。)

【授業の目標】

- * 英語表現能力を高めること。
- * アメリカおよびウエスト・バージニア地方の文化・社会を理解すること。
- * ウエスト・バージニア大学のアメリカ学生および各国留学生との交流により国際性を涵養すること。
- * 海外生活を通して、自立性を養成すること。

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。(全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。)

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

英語海外セミナー II (オーストラリア)

TOFF, Mika

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to really use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織(NPO)でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England. The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students... they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions. In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening (with hostparents), luncheon (with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

中国語海外セミナー I (中国)

馮 富榮

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解することの楽しさを体験することができます。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
- ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
- ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
- ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
- ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
- ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Iの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修を参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

担当者未定

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル唯一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サブイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
- 6～7月：数回の事前研修
- 8月：現地研修
- 9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中
その他は特になし

Japan's Global Interface I

藤井正志 森下允之 福本明子 真田幸光 JOLLY, James A.

【授業の概要】

本講義は、日本のビジネスの国際的側面を中心に議論し、日本社会・文化をより深く認識する。同時に、異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

The omnibus lectures will be conducted in English and mainly introduce the global aspect of Japanese business to students. Focusing on Japan's global interface, students will obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

This lecture is open to:

- Special Credit-Auditors (exchange students only)
- Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture
- Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

日本のビジネスの国際的側面を中心とした英語の授業を通し、日本社会・文化をより深く認識すること、および異文化理解を深め、今後の日本のあり方を考える力を養うこと。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on the global aspect of Japanese business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business, and intercultural exchange as well as what Japan should do in the future.

【授業計画】

Schedule	
1 FUJII, Masashi	Introduction
2 FUJII, Masashi	Development of Japanese Economy
3 FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
4 FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
5 FUKUMOTO, Akiko	Intellectual Property and Cultures
6 SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
7 SANADA, Yukimitsu	East Asian Economy and Japan
8 MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
9 MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
10 MORISHITA, Tadayuki	Overseas Strategy of Japanese Firms
11 JOLLY, James	International Business and Law
12 JOLLY, James	International Business and Law
13 JOLLY, James	International Business and Law

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

Japan's Global Interface II

藤井正志 太田浩司 宮田Susanne プイチトルン MOLDEN, Danny T. JOLLY, James A. 福本明子

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: -Special Credit-Auditors (exchange students only) -Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture -Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業の目標】

国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマで英語で行われる授業を通し日本の文化、ビジネス、社会および異文化理解を深めることを目的とする。

Through the omnibus lectures conducted in English mainly on cultural exchange, international cooperation and international business, students are supposed to obtain a deeper knowledge of Japanese culture, society, business and inter-cultural exchange.

【授業計画】

1 FUJII, Masashi	Introduction
2 FUJII, Masashi	Business Society in Japan
3 OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
4 OTA, Hiroshi	Language Use in Japan
5 MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
6 MIYATA, Susanne	Intercultural Communication from a Psychological Point of View
7 BUI, Chi Trung	Intercultural Communication Through NPO Activities
8 MOLDEN, Danny T	Debate across cultures
9 MOLDEN, Danny T	Debate across cultures
10 FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
11 FUKUMOTO, Akiko	History and Representations
12 JOLLY, James	Developing International Business Practices
13 JOLLY, James	Developing International Business Practices

【評価方法】

Assessment

Assessment will be made based on attendance and a report to be written by the students in the final lecture conducted by Professor Jolly. Students will be given 1/2 hour to finalize the report. Even though they are absent from the final lecture, they will still have a chance to write a report and submit it. In that case, it is unlikely for them to be given a good assessment.

出席点及び最後の授業において実施されるレポートにより、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

コミュニティ・サービスラーニング

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域（コミュニティ）には、多様なニーズに対応した地域活動（サービス）が展開されている。本講義では、受講生全員が地域活動（ボランティア活動）に実際に参加し、実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していく。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは？
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習（活動期間は、内容により異なる）
4. ラーニングIII
 - 1) 参加学習と各自の専攻との関連
 - 2) 総括（前期は9月、後期は2月のうち、1講を一般公開で実施予定）

【評価方法】

出席状況、各課題（レポート、発表）により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加（出席）、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

地域活動総合演習 I

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な角度から検討する。また、地域における病院の役割がどのようにあるべきかを考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。また、グループワークを通じて、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 文献講読
3. グループワーク

【評価方法】

授業態度とグループワークの評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

地域活動総合演習 II

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいる。とりわけ愛知県においては、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身外国人住民の占める比率が最も高い。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられる。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマを通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていく。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養う。

【授業計画】

- <ステップ1>
学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした、課題探求型講義を行なう。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習する。
- <ステップ2>
実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していく。
- <ステップ3>
これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、実践的な活動運営まで発展させていく。

【評価方法】

出席状況、授業内のプレゼンテーション、ディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）